

平成25年度 市民意識調査報告書

平成26年3月

堺 市

<目次>

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 実施概要	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査方法	1
(3) 調査期間	1
(4) 回収結果	1
(5) 調査項目	2
3. 報告書の見方	2
II. 回答者の属性	3
1. 居住地域	3
2. 性別	3
3. 年代	4
4. 家族構成	5
5. 同居家族	5
6. 職業	5
7. 勤務地・通学地	6
8. 住宅の所有形態	6
9. 居住年数	6
III. 調査結果の分析	7
1-1. 日常生活の主要な活動・行動について	7
1-2. 日常生活の活動・行動について	11
2. 日常生活に関する意識について	30
3. 市政全般についての満足度	50
4. 今後の定住意向	56
IV. 調査の精度	63

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、平成23年3月に策定した堺市マスタープランの進捗管理にあたり、市民の日常生活における行動や意識などを把握するため実施した。

2. 実施概要

(1) 調査対象

平成25年5月時点で20歳以上の市民から区別人口比、性比を考慮し、10,000人を無作為に抽出した。

(2) 調査方法

メール便による配達及び、郵送による回収を行った。また、調査期間中に、調査対象者全員に協力依頼はがきを送付した。

(3) 調査期間

平成25年7月10日～平成25年7月26日

(平成25年7月10～13日配達、回答期限平成25年7月26日)

(4) 回収結果

発送数	未着数	実発送数	有効回答数	有効回答率
10,000	27	9,973	5,379	53.9%

調査実施時期	発送数	未着数	実発送数	有効回答数	有効回答率
前回 (H22.7)	10,000	58	9,942	5,528	55.6%
今回 (H25.7)	10,000	27	9,973	5,379	53.9%

(5) 調査項目

調査項目は、以下のとおりである。

設問番号	内容	設問項目
1-1	日常生活の中で、以下のような活動・行動をされていますか。	外出機会の程度
		芸術鑑賞機会の程度
		地元商店利用機会の程度
		自家用車利用機会の程度
		公共交通機関利用機会の程度
		避難所認知の程度
1-2	あなたは日常生活の中で、以下の項目をどの程度行って（または心がけて）いますか。	① 暮らしの安全・安心に関する行動について
		② 暮らしの質に関する行動について
		③ 子育て・教育に関する行動について
		④ 地域の産業振興に関する行動について
		⑤ 環境との共生に関する行動について
		⑥ まちの魅力や交流に関する行動について
		⑦ 地域のまちづくりに関する行動について
2	あなたは日常生活の中で、以下の項目について、どのように思われますか。	① 暮らしの安全・安心に関する意識について
		② 暮らしの質に関する意識について
		③ 子育て・教育に関する意識について
		④ 地域の産業振興に関する意識について
		⑤ 環境との共生に関する意識について
		⑥ まちの魅力や交流に関する意識について
		⑦ 地域のまちづくりに関する意識について
3	堺市のこれまでの取組を踏まえ、あなたは、堺市の市政全般について、どの程度満足していますか。	市政全般についての満足度
4	あなたは現在住んでいる場所に、これからも住み続けたいと思いますか。	今後の定住意向

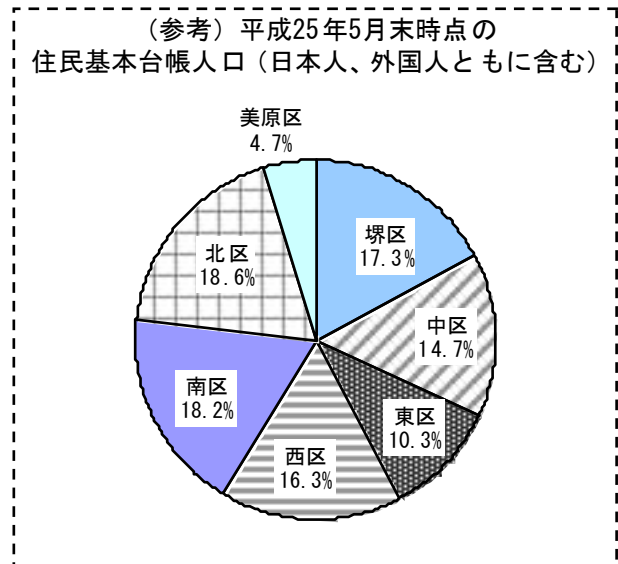
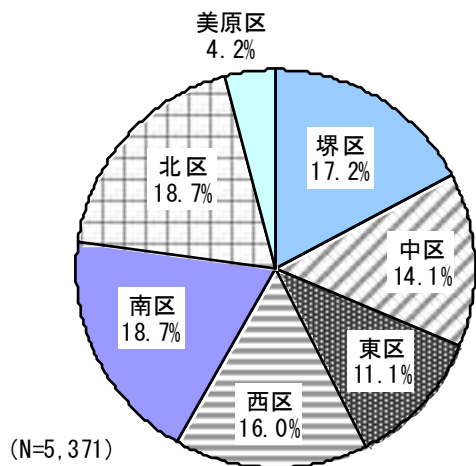
3. 報告書の見方

- (1) 集計対象件数は5,379件である。
- (2) 回答は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示している。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (3) 各設問に対する無回答は集計から省いた。
- (4) 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、図表には「0.0%」と示している。
- (5) 図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

Ⅱ. 回答者の属性

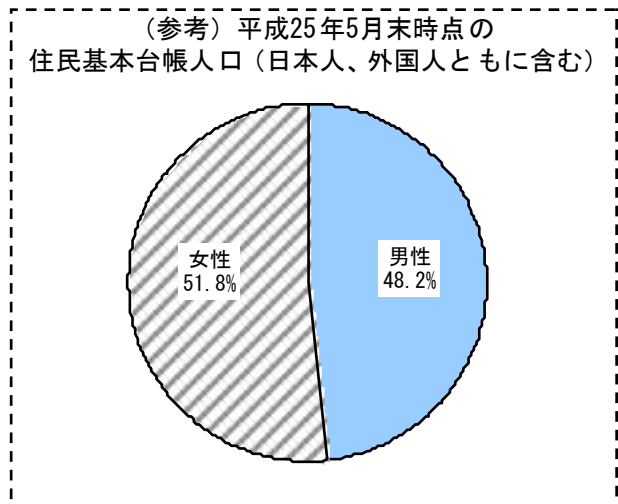
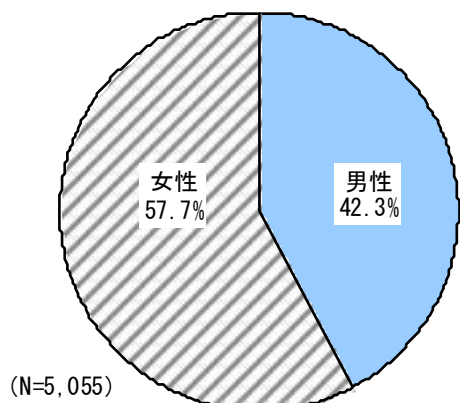
1. 居住地

図表Ⅱ-1 居住地



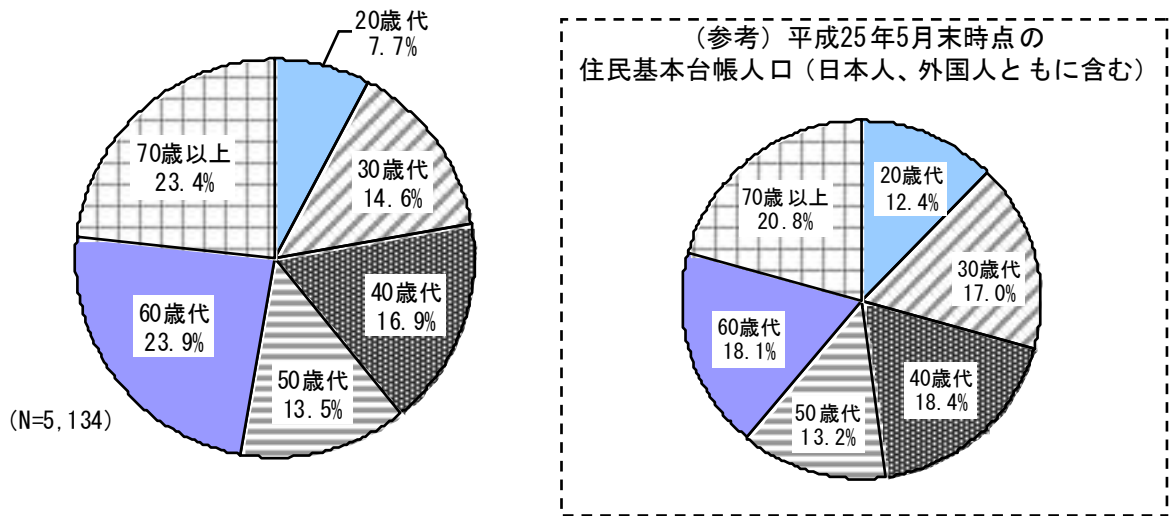
2. 性別

図表Ⅱ-2 性別



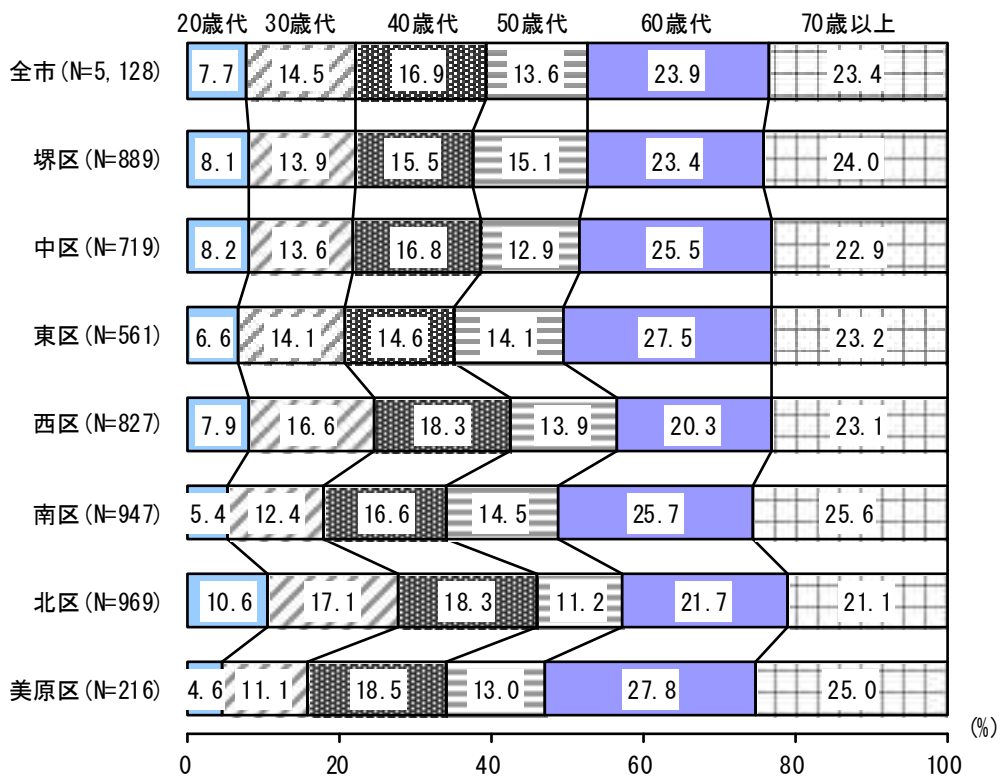
3. 年代

図表Ⅱ-3 年代



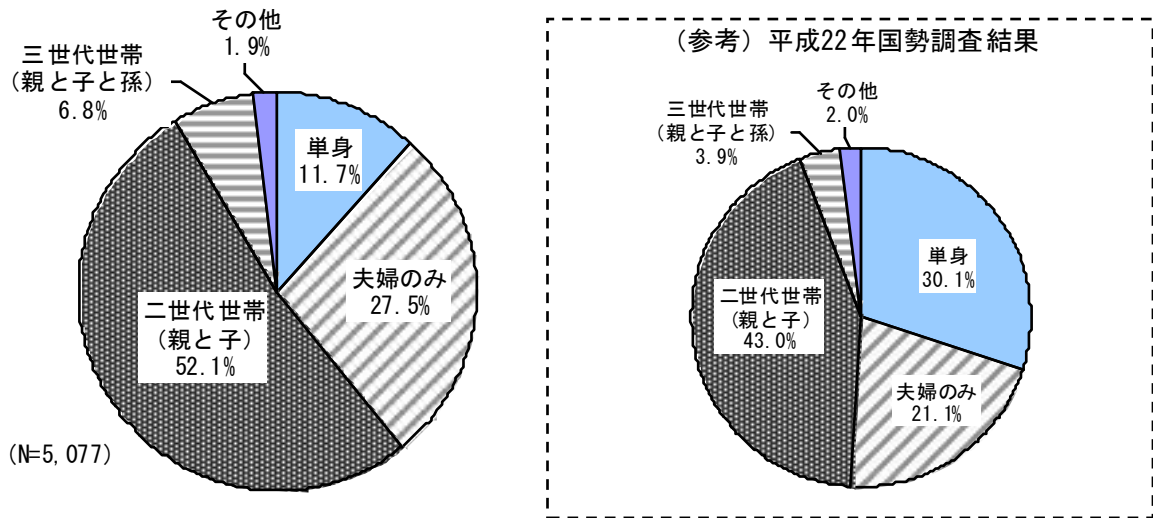
<区域別>

図表Ⅱ-4 区域別 年代



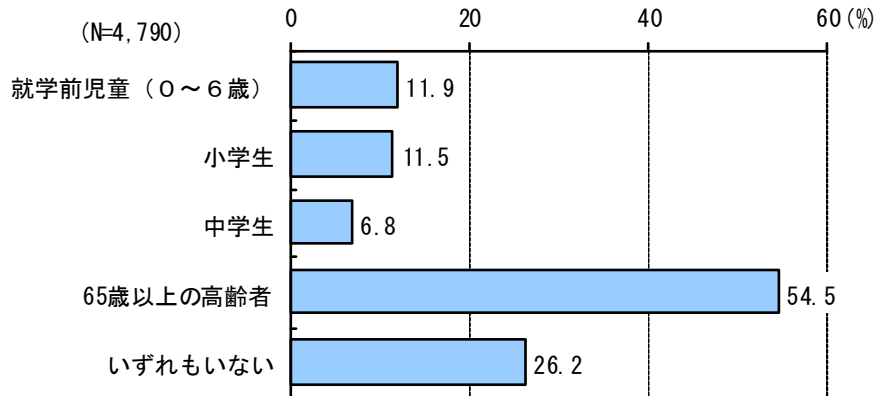
4. 家族構成

図表Ⅱ-5 家族構成



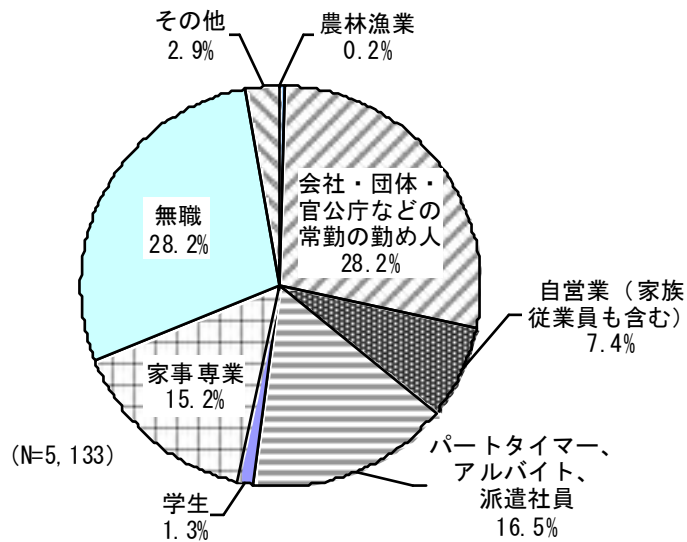
5. 同居家族

図表Ⅱ-6 同居家族



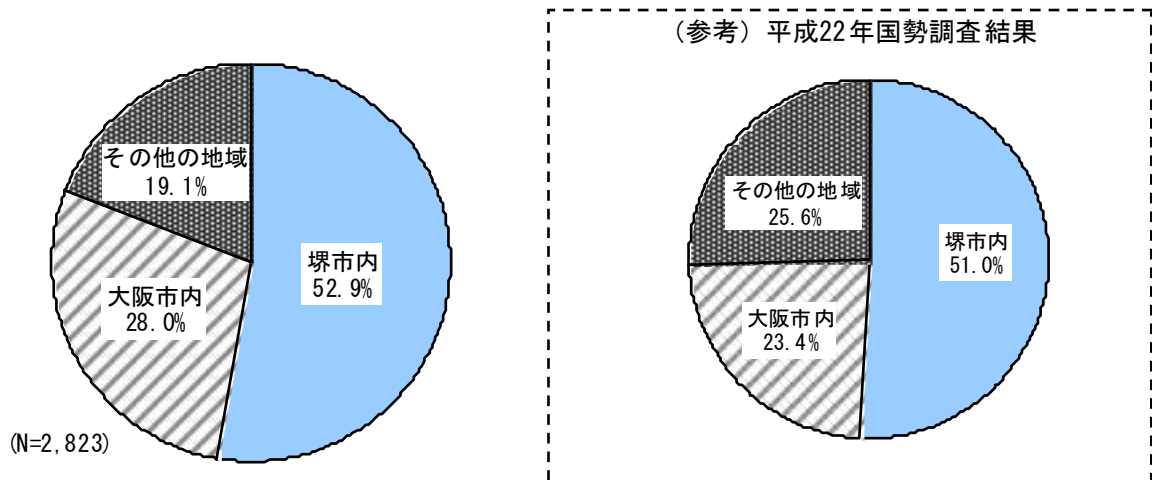
6. 職業

図表Ⅱ-7 職業



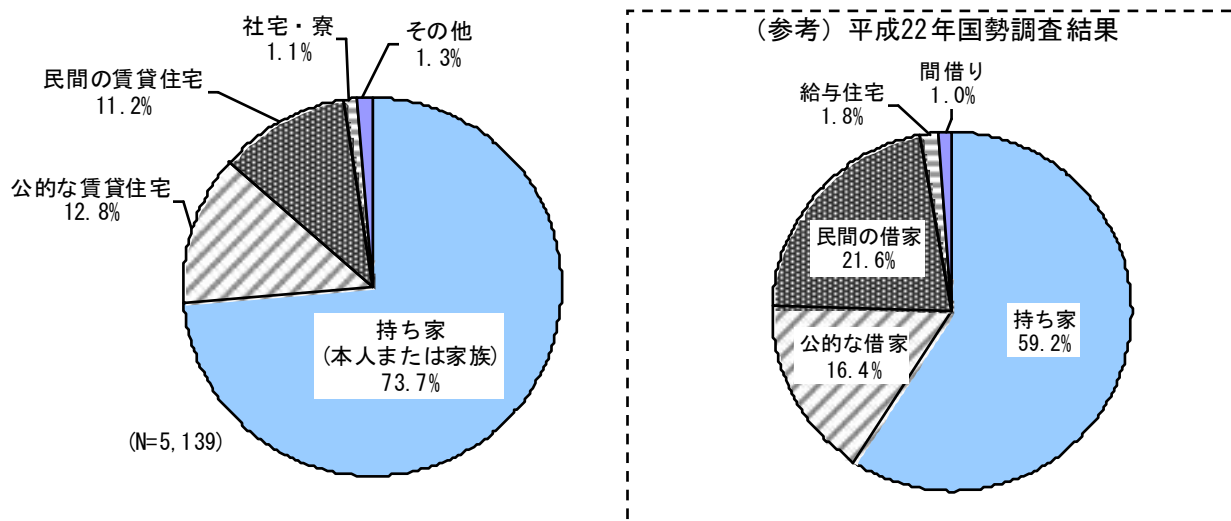
7. 勤務地・通学地

図表Ⅱ-8 勤務地または通学地



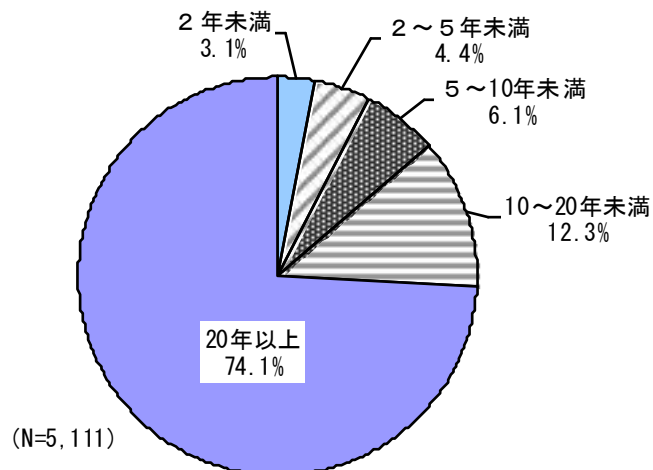
8. 住宅の所有形態

図表Ⅱ-9 住宅の所有形態



9. 居住年数

図表Ⅱ-10 居住年数



Ⅲ. 調査結果の分析

1-1. 日常生活の主要な活動・行動について

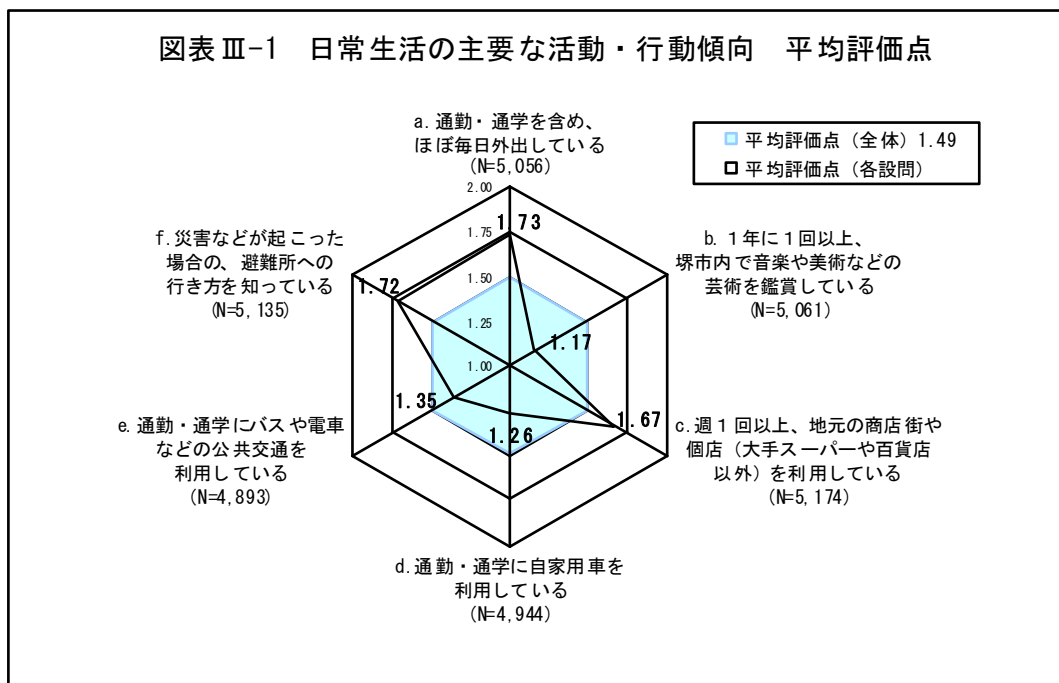
【分析方法】

平均評価点（レーダーチャート）

調査結果をより明確にするため、平均評価点（加重平均値）により分析している。これは、全項目の各選択肢に点数を持たせ、選択肢ごとに無回答を除く回答者数をかけたうえで、合計し、総回答者数で割って平均を算出したものである。

本書では、全項目の平均評価点と各項目の平均評価点をそれぞれ算出し、レーダーチャートで比較し示している。

【グラフの見方（例示）】

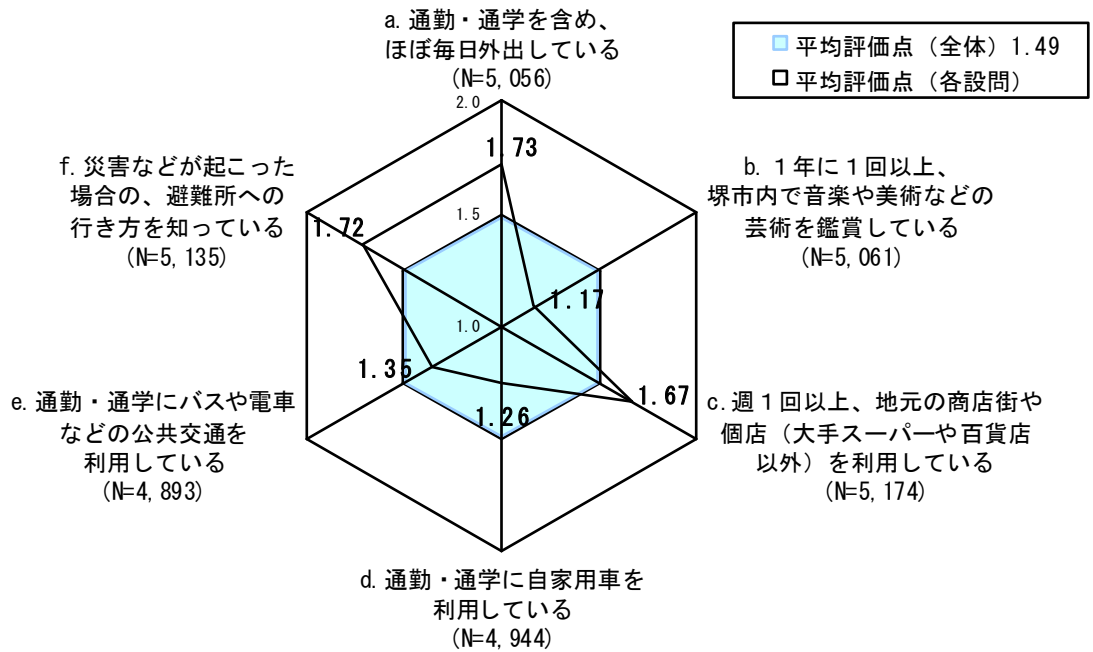


上記の例で、「f. 災害などが起こった場合、避難所への行き方を知っている」の場合、平均評価点は1.72で市全体の1.49を上回っており、避難所について市民の間では周知されていることを示している。これに対し、「b. 1年に1回以上、堺市内で音楽や美術などの芸術を鑑賞している」の平均評価点は1.17で市全体の1.49を下回っており、芸術鑑賞についてはあまり活発に行われていないことを示している。

【分析の趣旨】

- ・ 6項目について平均評価点を求め傾向を分析している。
- ・ 平均評価点が高いほど、活動や行動が活発に行われ、平均評価点が高いほど、活動や行動が不活発であることを表す。
- ・ 6項目の平均評価点は1.49である。
- ・ 「通勤・通学を含め、ほぼ毎日外出している」(1.73)、「災害などが起こった場合の、避難所への行き方を知っている」(1.72)、「週1回以上、地元の商店街や個店(大手スーパーや百貨店以外)を利用している」(1.67)では高い評価となっている。
- ・ 一方、「1年に1回以上、堺市内で音楽や美術などの芸術を鑑賞している」(1.17)が最も低くなっている。

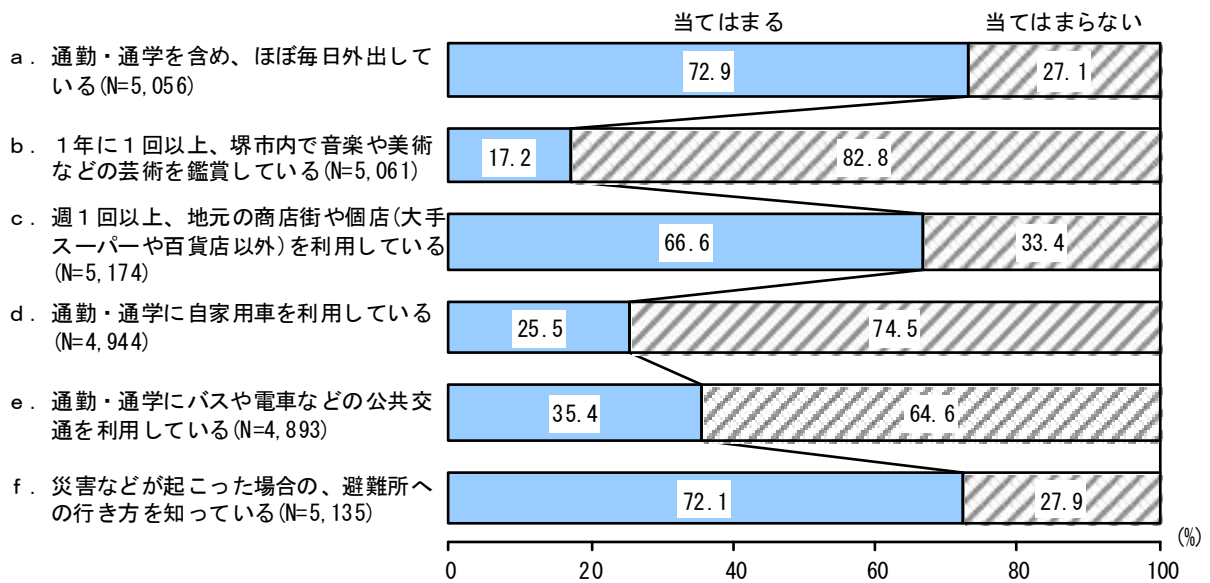
図表Ⅲ-1 日常生活の主要な活動・行動傾向 平均評価点



(注) 個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求めた。
 「(活動・行動が) 当てはまる」 2点
 「(活動・行動が) 当てはまらない」 1点

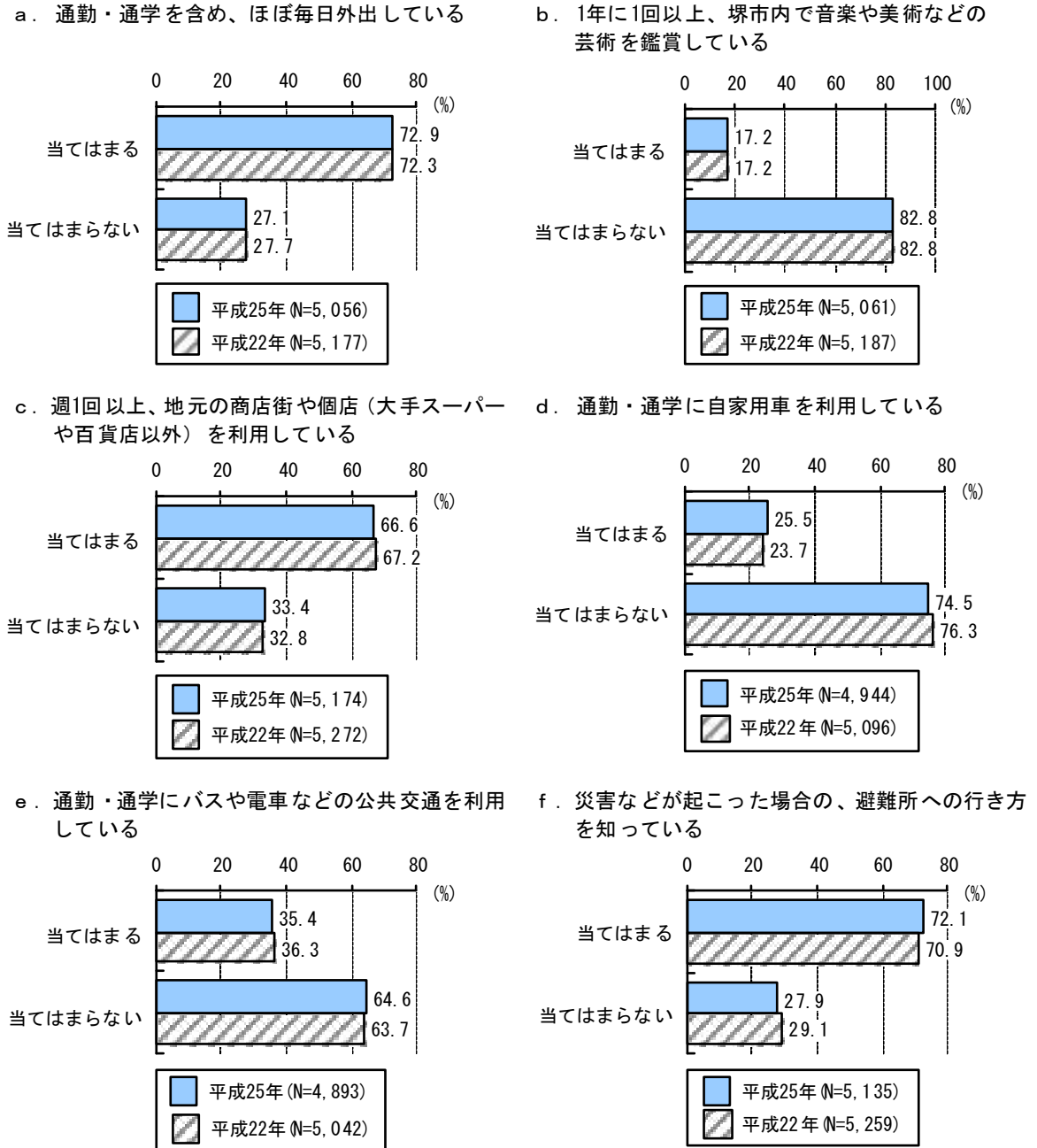
- ・「通勤・通学を含め、ほぼ毎日外出している」「週1回以上、地元の商店街や個店（大手スーパーや百貨店以外）を利用している」「災害などが起こった場合の、避難所への行き方を知っている」市民は7割前後を占めている。
- ・一方、「1年に1回以上、堺市内で音楽や美術などの芸術を鑑賞している」市民は17.2%と低くなっている。
- ・「通勤・通学にバスや電車などの交通機関などの公共交通機関を利用している」が「通勤・通学に自家用車を利用している」より1割程度高くなっている。

図表Ⅲ-2 日常生活の主要な活動・行動傾向



・時系列でみると、どの項目においても、前回調査（平成22年）と比べて大きな差はみられない。

図表Ⅲ-3 時系列 日常生活の主要な活動・行動傾向



1-2. 日常生活の活動・行動について

【分析の趣旨】

- ・ 7政策37項目について平均評価点を求め傾向を分析している。
- ・ 7政策37項目の平均評価点は2.47である。
- ・ 平均評価点が高いほど、活動や行動が活発に行われ、平均評価点が高いほど、活動や行動が不活発であることを表す。

<7政策>

- ①暮らしの安全・安心 ②暮らしの質 ③子育て・教育 ④地域の産業振興
⑤環境との共生 ⑥まちの魅力や交流 ⑦地域のまちづくり

<行動指標ごとの平均評価点の考え方>

個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求め、7施策ごとにまとめて平均を求めた。

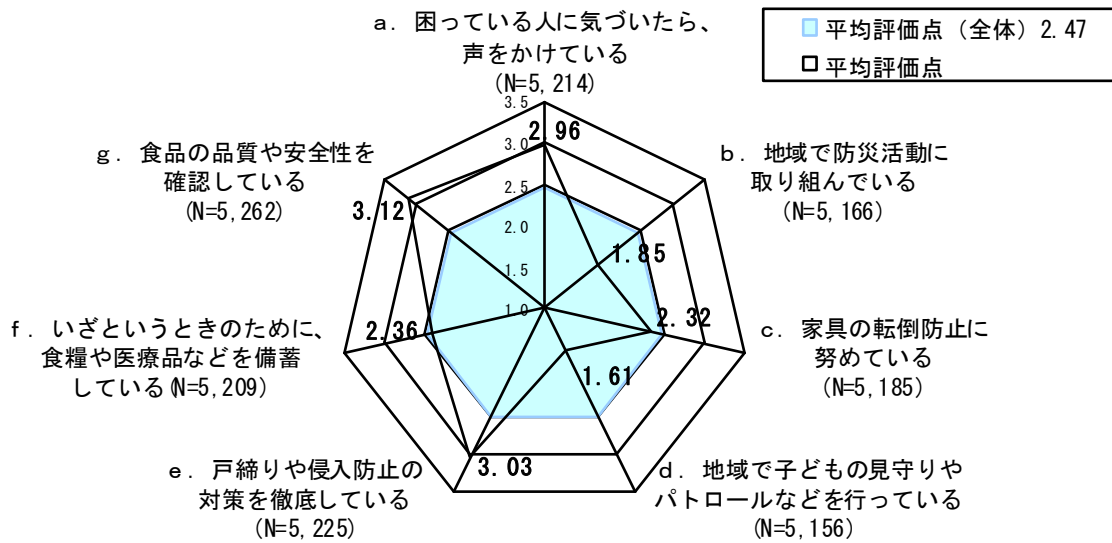
「積極的にやっている（心がけている）」	4点
「ある程度やっている（心がけている）」	3点
「ほとんど行っていない（心がけていない）」	2点
「全く行っていない（心がけていない）」	1点

- ・ 平成22年及び平成25年の時系列比較のグラフで表記している『行っている（心がけている）』の数値は、「積極的にやっている（心がけている）」と「ある程度行っている（心がけている）」の合計、『行っていない（心がけていない）』の数値は、「全く行っていない（心がけていない）」と「ほとんど行っていない（心がけていない）」の合計である。これら合計値で2年間の比較を行っている。

【① 暮らしの安全・安心に関する行動】

- ・「困っている人に気づいたら、声をかけている」(2.96)や「戸締りや侵入防止の対策を徹底している」(3.03)、「食品の品質や安全性を確認している」(3.12)は高い評価となっており、中でも「食品の品質や安全性を確認している」が最も高くなっている。
- ・一方、「地域で防災活動に取り組んでいる」(1.85)と「地域で子どもの見守りやパトロールなどを行っている」(1.61)は低く、中でも「地域で子どもの見守りやパトロールなどを行っている」が最も低くなっている。

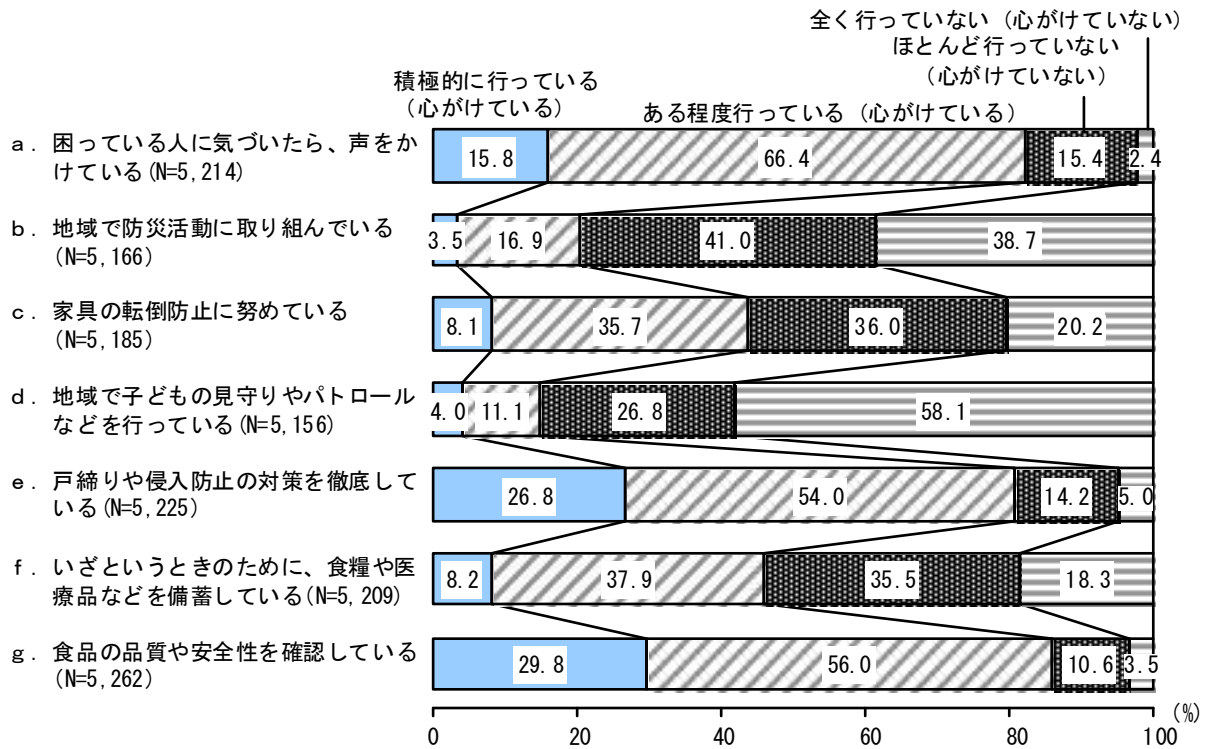
図表Ⅲ-4 暮らしの安全・安心に関する行動 平均評価点



(注) 個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求めた。
 「積極的に行っている(心がけている)」 4点 「ある程度行っている(心がけていない)」 3点
 「ほとんど行っていない(心がけていない)」 2点 「全く行っていない(心がけていない)」 1点

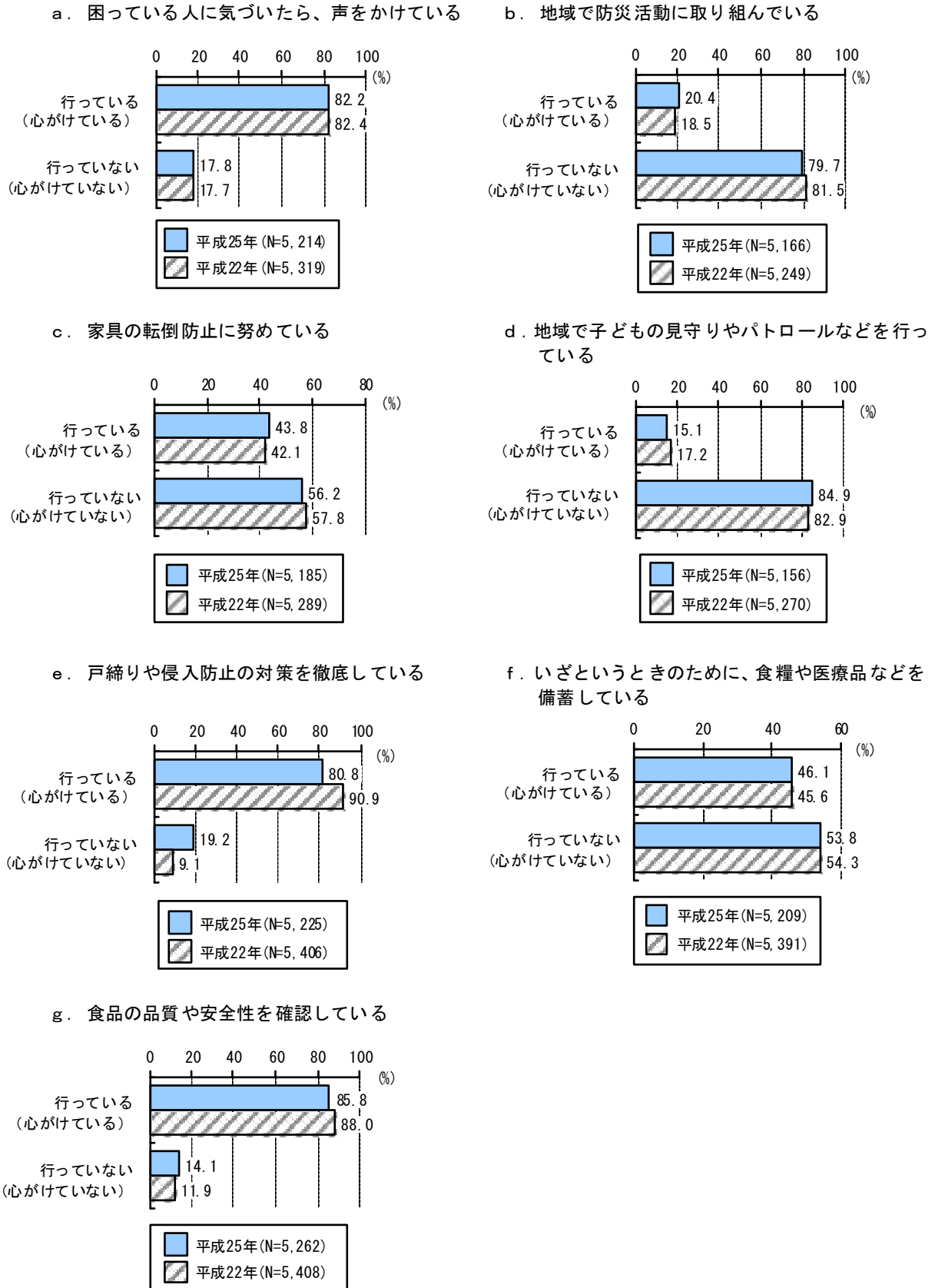
- ・「困っている人に気づいたら、声をかけている」「戸締りや侵入防止の対策を徹底している」「食品の品質や安全性を確認している」は『行っている（心がけている）』市民の割合が8割を占めている。
- ・一方、「地域で防災活動に取り組んでいる」「家具の転倒防止に努めている」「地域で子どもの見守りやパトロールなどを行っている」「いざという時のために、食糧や医療品などを備蓄している」は『行っていない（心がけていない）』市民の割合が5割を超えている。

図表Ⅲ-5 暮らしの安全・安心に関する行動



- ・時系列で見ると、「戸締りや侵入防止の対策を徹底している」は『行っている（心がけている）』市民が前回調査（平成22年）より10.1ポイント低くなっている。

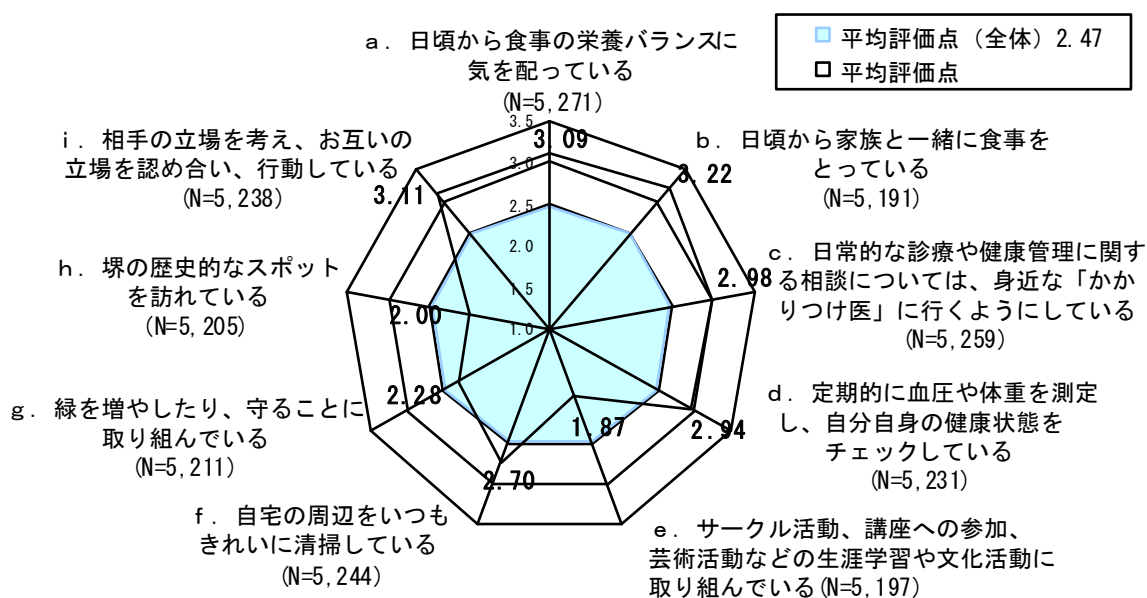
図表Ⅲ-6 時系列 暮らしの安全・安心に関する行動



【② 暮らしの質に関係する行動】

- ・「日頃から食事の栄養バランスに気を配っている」(3.09) や「日頃から家族と一緒に食事をとっている」(3.22)、「日常的な診療や健康管理に関する相談については、身近な「かかりつけ医」に行くようにしている」(2.98)、「定期的に血圧や体重を測定し、自分自身の健康状態をチェックしている」(2.94)、「自宅の周辺をいつもきれいに清掃している」(2.70)、「相手の立場を考え、お互いの立場を認め合い、行動している」(3.11) は高い評価となっており、中でも「日頃から家族と一緒に食事をとっている」が最も高くなっている。
- ・一方、「サークル活動、講座への参加、芸術活動などの生涯学習や文化活動に取り組んでいる」(1.87) が最も低く、「堺の歴史的なスポットを訪れている」(2.00)、「緑を増やしたり、守ることに取り組んでいる」(2.28) は全体平均より低くなっている。

図表Ⅲ-7 暮らしの質に関係する行動 平均評価点

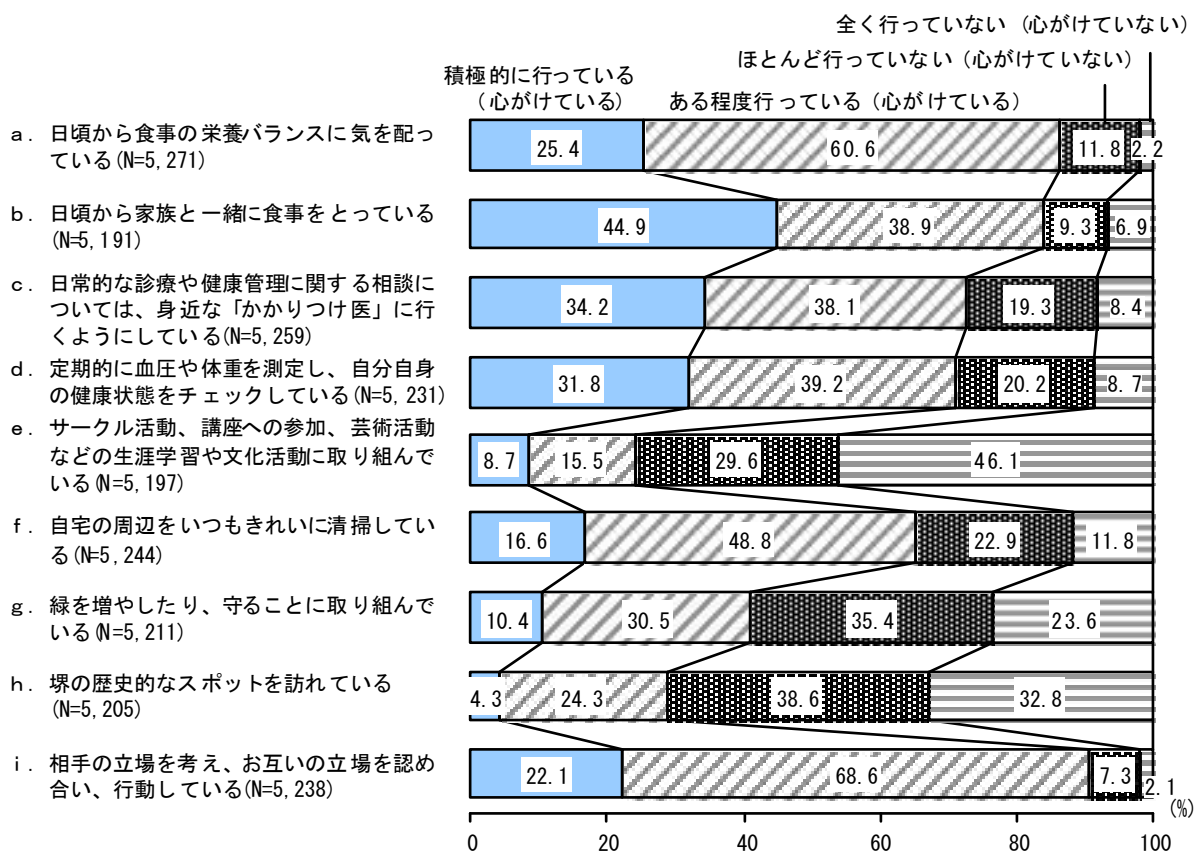


(注) 個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求めた。

「積極的に行っている (心がけている)」	4点	「ある程度行っている (心がけている)」	3点
「ほとんど行っていない (心がけていない)」	2点	「全く行っていない (心がけていない)」	1点

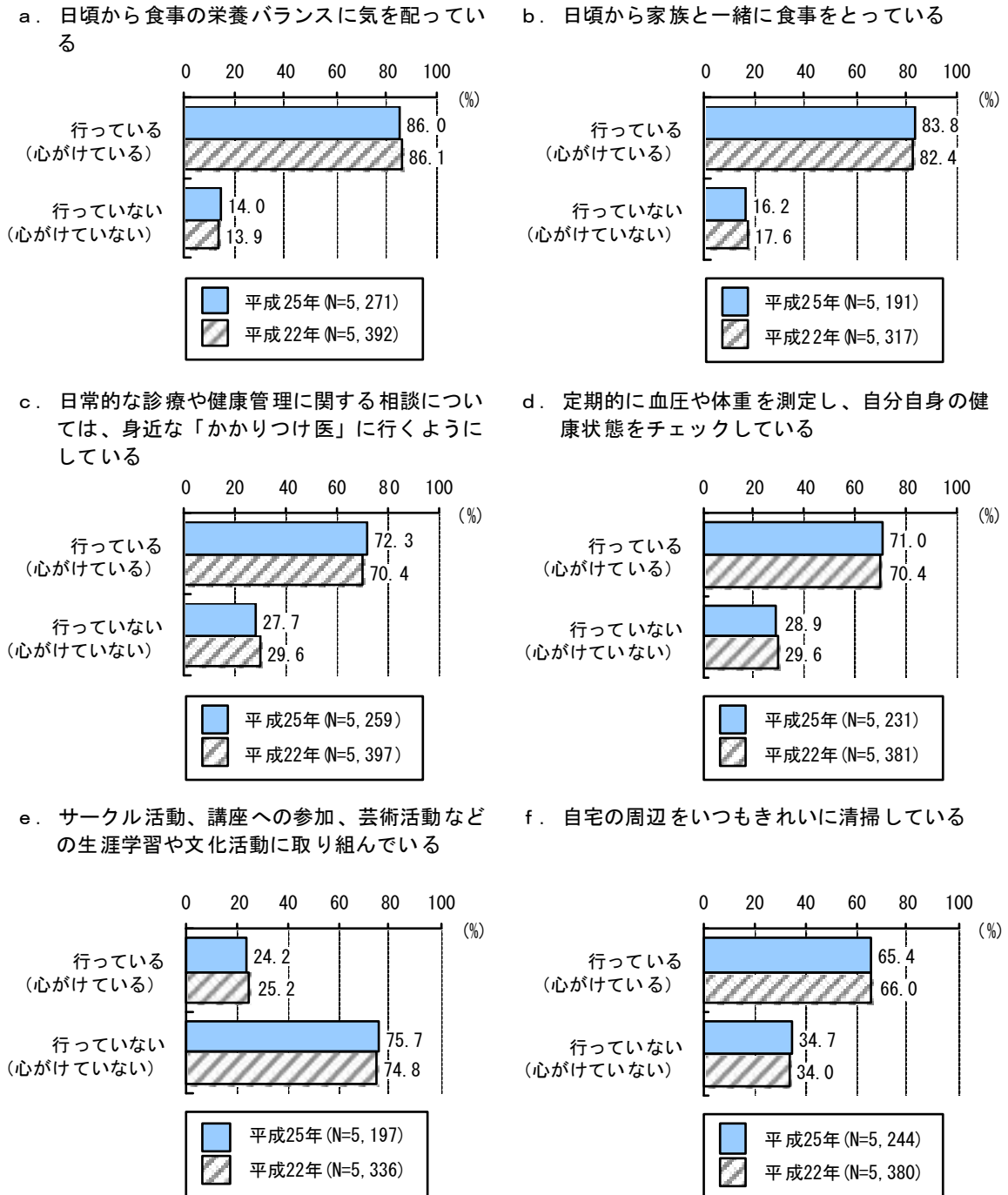
- ・「日頃から食事の栄養バランスに気を配っている」「日頃から家族と一緒に食事をとっている」「日常的な診療や健康管理に関する相談については、身近な「かかりつけ医」に行くようにしている」「定期的に血圧や体重を測定し、自分自身の健康状態をチェックしている」「自宅の周辺をいつもきれいに清掃している」「相手の立場を考え、お互いの立場を認め合い、行動している」は『心がけている』市民の割合が5割を超えている。
- ・一方、「サークル活動、講座への参加、芸術活動などの生涯学習や文化活動に取り組んでいる」「堺の歴史的なスポットを訪れている」は『心がけている』市民の割合が3割以下と低い。

図表Ⅲ-8 暮らしの質に関する行動



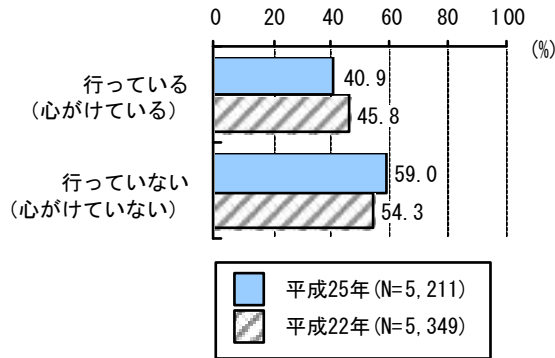
- ・時系列で見ると、「緑を増やしたり、守ることに取り組んでいる」は『行っている（心がけている）』市民が前回調査（平成22年）より4.9ポイント低くなっている。

図表Ⅲ-9 時系列 暮らしの質に関係する行動

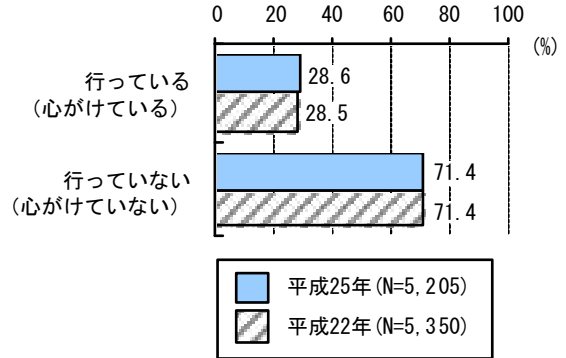


図表Ⅲ-9 時系列 暮らしの質に関する行動

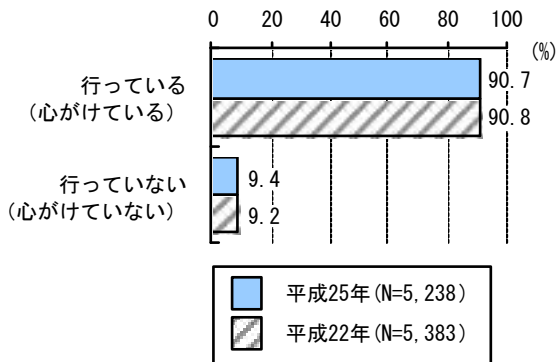
g. 緑を増やしたり、守ることに取り組んでいる



h. 堺の歴史的なスポットを訪れている



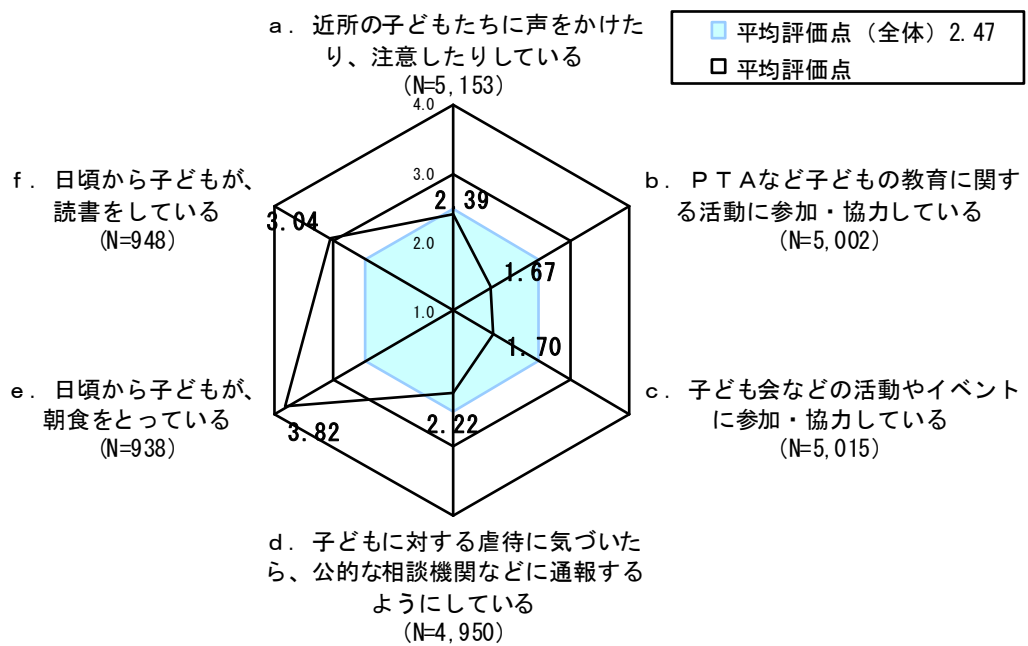
i. 相手の立場を考え、お互いの立場を認め合い、行動している



【③ 子育て・教育に関係する行動】

- ・「日頃から子どもが、朝食をとっている」(3.82)と「日頃から子どもが、読書をしている」(3.04)は高い評価となっており、中でも「日頃から子どもが、朝食をとっている」は最も高くなっている。
- ・一方、それ以外の項目は全体平均よりも低く、「PTAなど子どもの教育に関する活動に参加・協力している」(1.67)が最も低く、次いで「子ども会などの活動やイベントに参加・協力している」(1.70)が低くなっている。

図表Ⅲ-10 子育て・教育に関係する行動 平均評価点



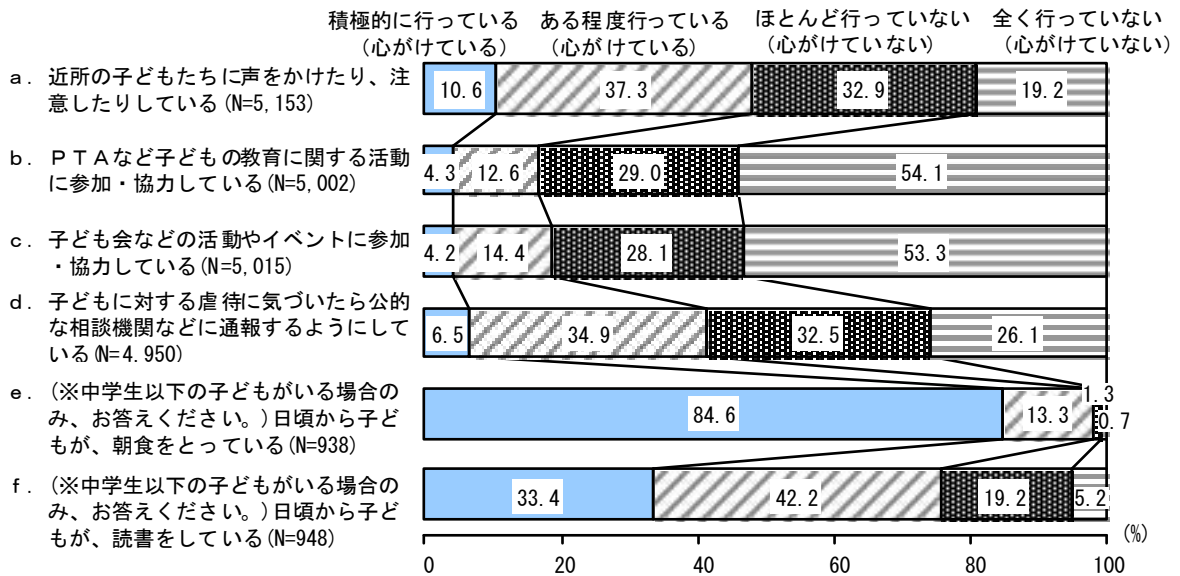
※選択肢 e と f は中学生以下の子どもがいる場合のみ回答。

(注) 個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求めた。

「積極的に行っている (心がけている)」	4点	「ある程度行っている (心がけている)」	3点
「ほとんど行っていない (心がけていない)」	2点	「全く行っていない (心がけていない)」	1点

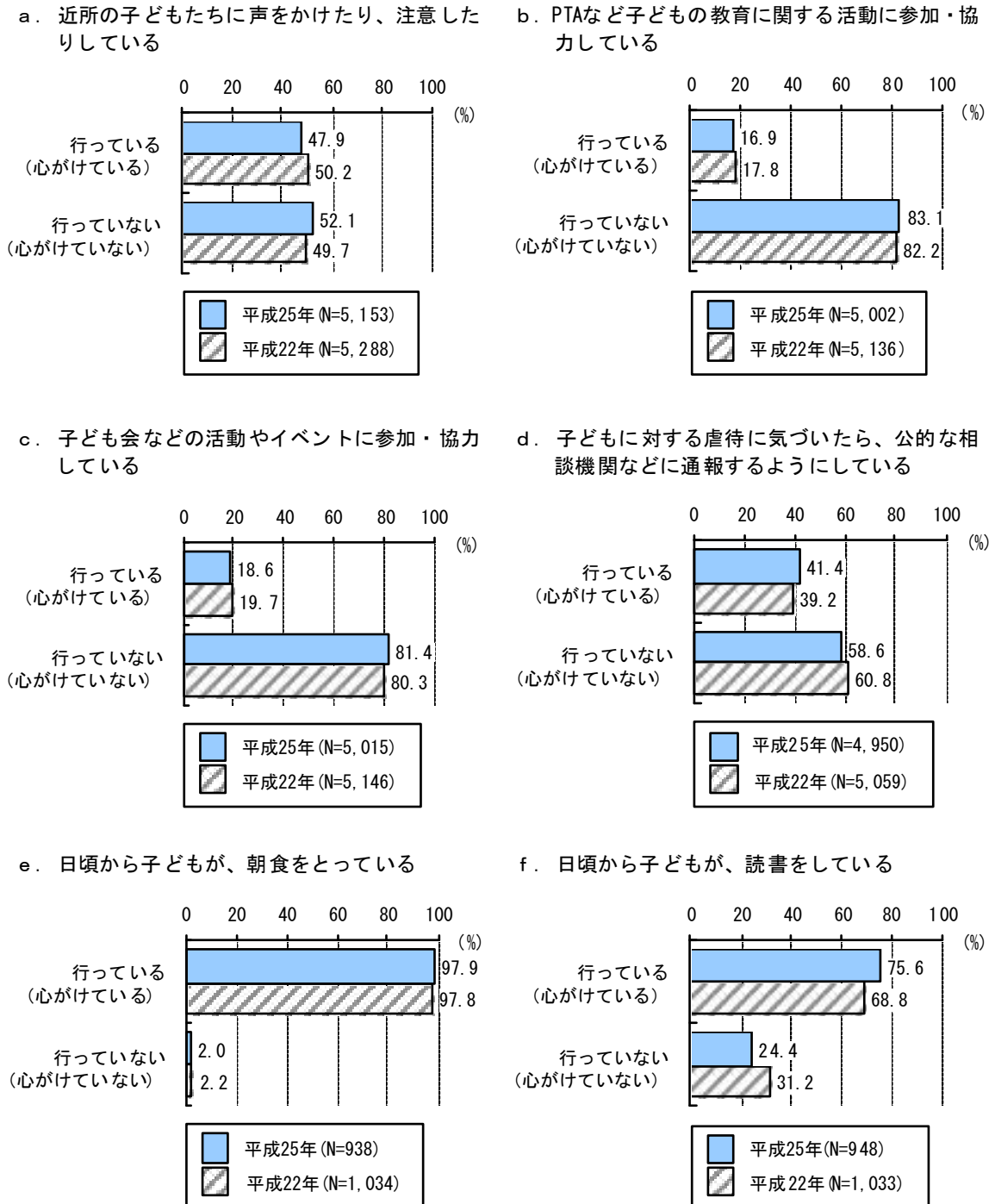
- ・「日頃から子どもが、朝食をとっている」「日頃から子どもが、読書をしている」は『心がけている』市民の割合が7割を超えており、なかでも「日頃から子どもが、朝食をとっている」は97.9%と高い。
- ・一方、「PTAなど子どもの教育に関する活動に参加・協力している」「子ども会などの活動やイベントに参加・協力している」は『心がけている』市民の割合は2割以下となっている。

図表Ⅲ-11 子育て・教育に係る行動



・時系列で見ると、「日頃から子どもが、読書をしている」は『行っている（心がけている）』市民の割合が前回調査（平成22年）より6.8ポイント高くなっている。

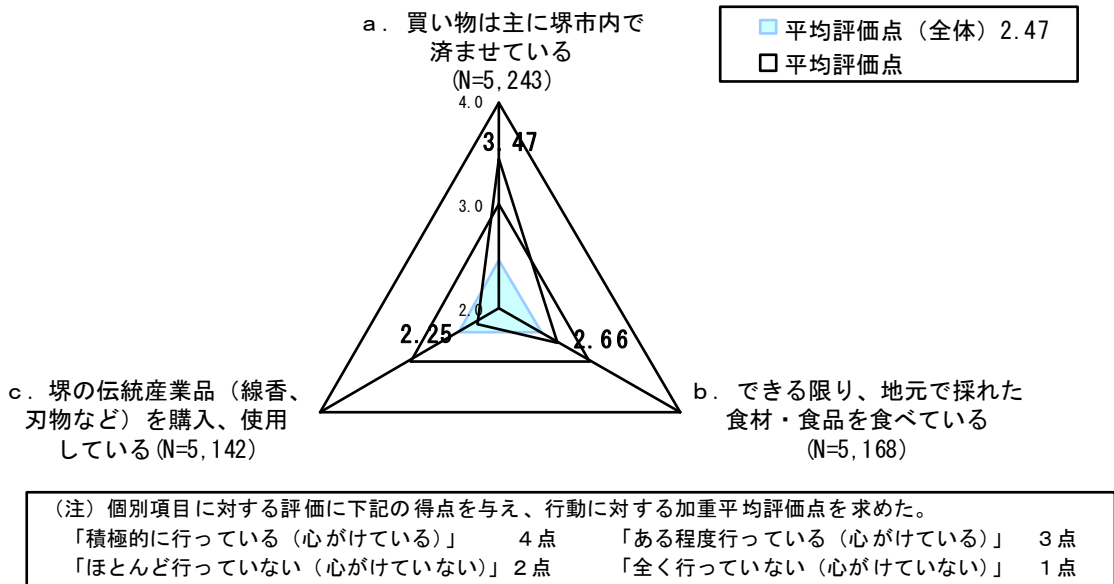
図表Ⅲ-12 時系列 子育て・教育に関する行動



【④ 地域の産業振興に関する行動】

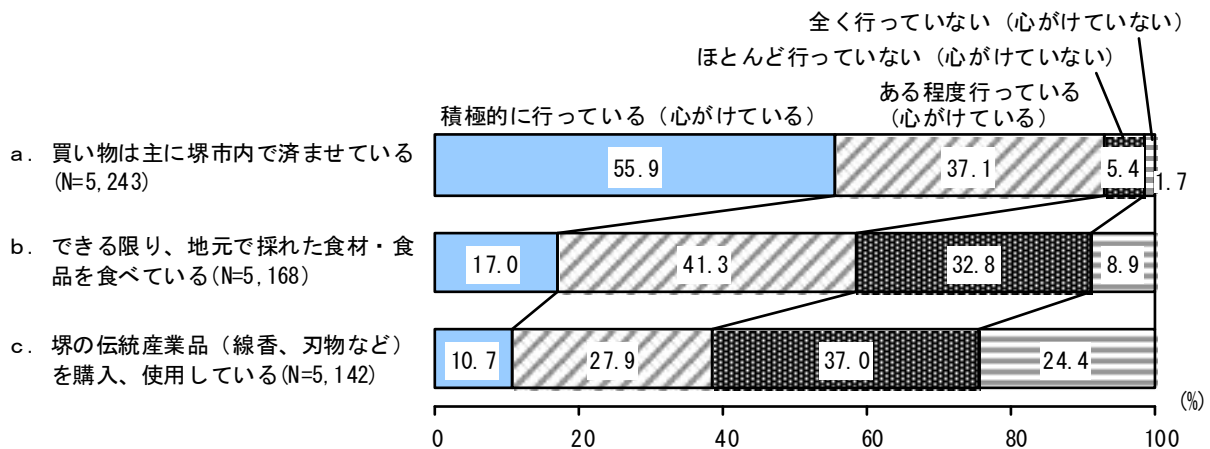
- ・「買い物は主に堺市内で済ませている」(3.47)と「できる限り、地元で採れた食材・食品を食べている」(2.66)は全体平均より高く、「買い物は主に堺市内で済ませている」が最も高い評価となっている。

図表Ⅲ-13 地域の産業振興に関する行動 平均評価点



- ・「買い物は主に堺市内で済ませている」「できる限り、地元で採れた食材・食品を食べている」は『心がけている』市民の割合が5割を超えており、なかでも「買い物は主に堺市内で済ませている」は93.0%と高い。

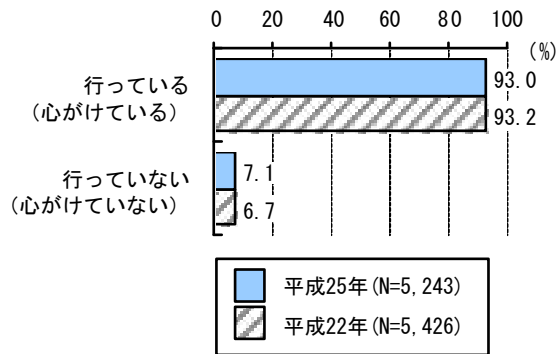
図表Ⅲ-14 地域の産業振興に関する行動



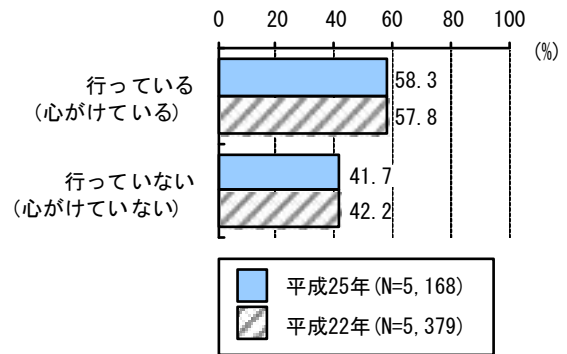
- ・時系列でみると、増減は項目ごとに異なるものの、どの項目においても、前回調査（平成22年）と比べて大きな差はみられない。

図表Ⅲ-15 時系列 地域の産業振興に関する行動

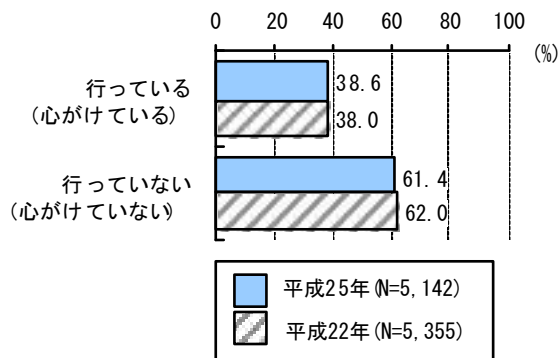
a. 買い物は主に堺市内で済ませている



b. できる限り、地元で採れた食材・食品を食べ
ている



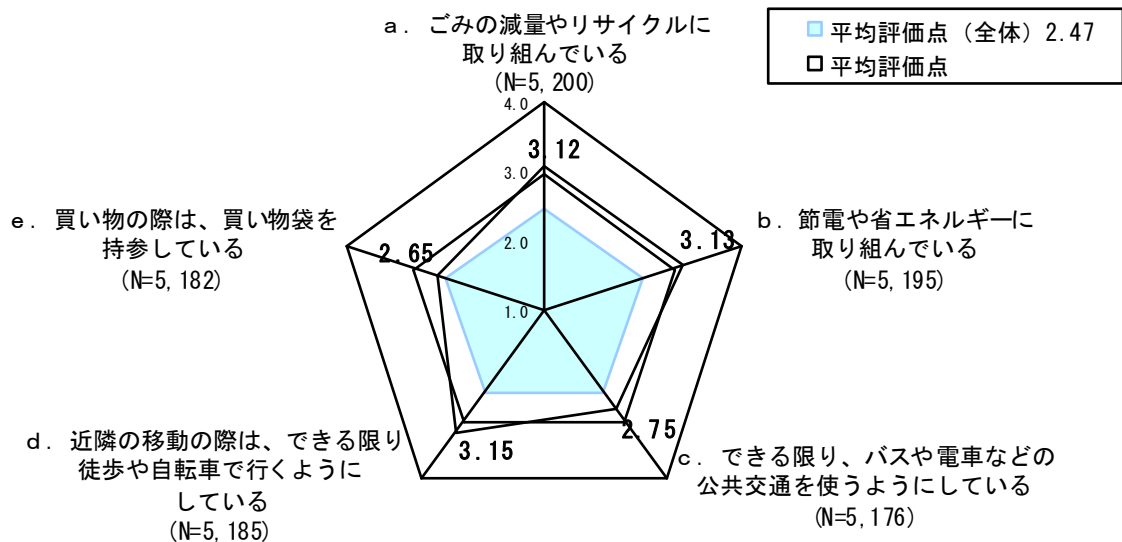
c. 堺の伝統産業品（線香、刃物など）を購入、
使用している



【⑤ 環境との共生に関係する行動】

- ・環境との共生に関係する行動については、いずれも高い評価となっている。中でも「近隣の移動の際は、できる限り徒歩や自転車で行くようにしている」(3.15)が最も高くなっている。

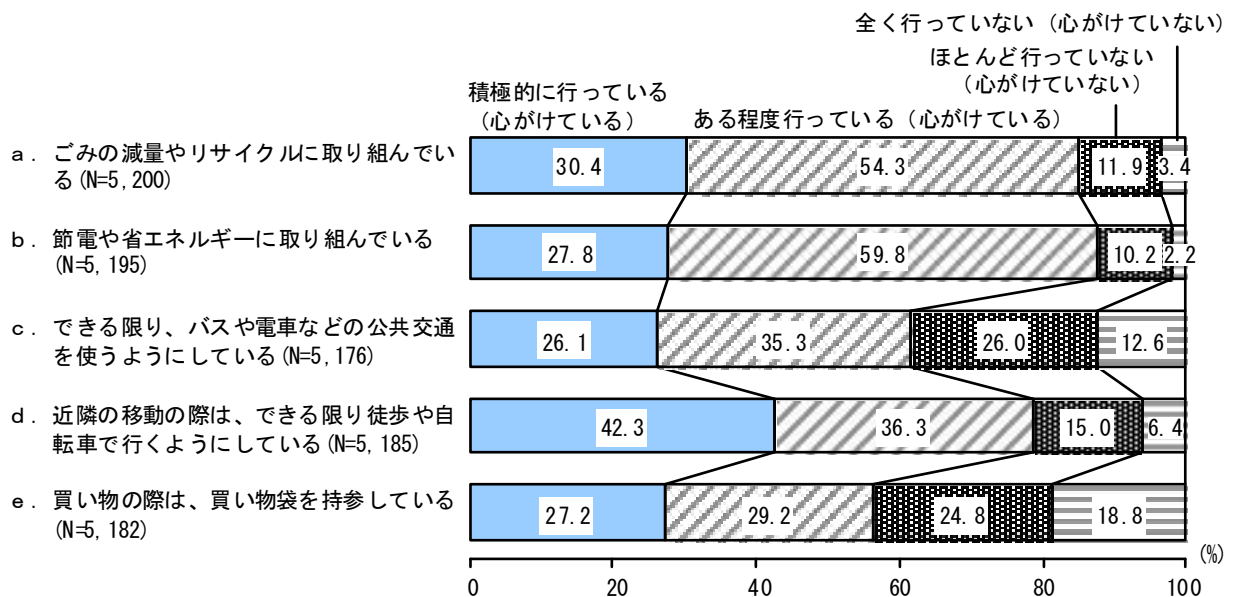
図表Ⅲ-16 環境との共生に関係する行動 平均評価点



(注) 個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求めた。
 「積極的に行っている (心がけている)」 4点 「ある程度行っている (心がけている)」 3点
 「ほとんど行っていない (心がけていない)」 2点 「全く行っていない (心がけていない)」 1点

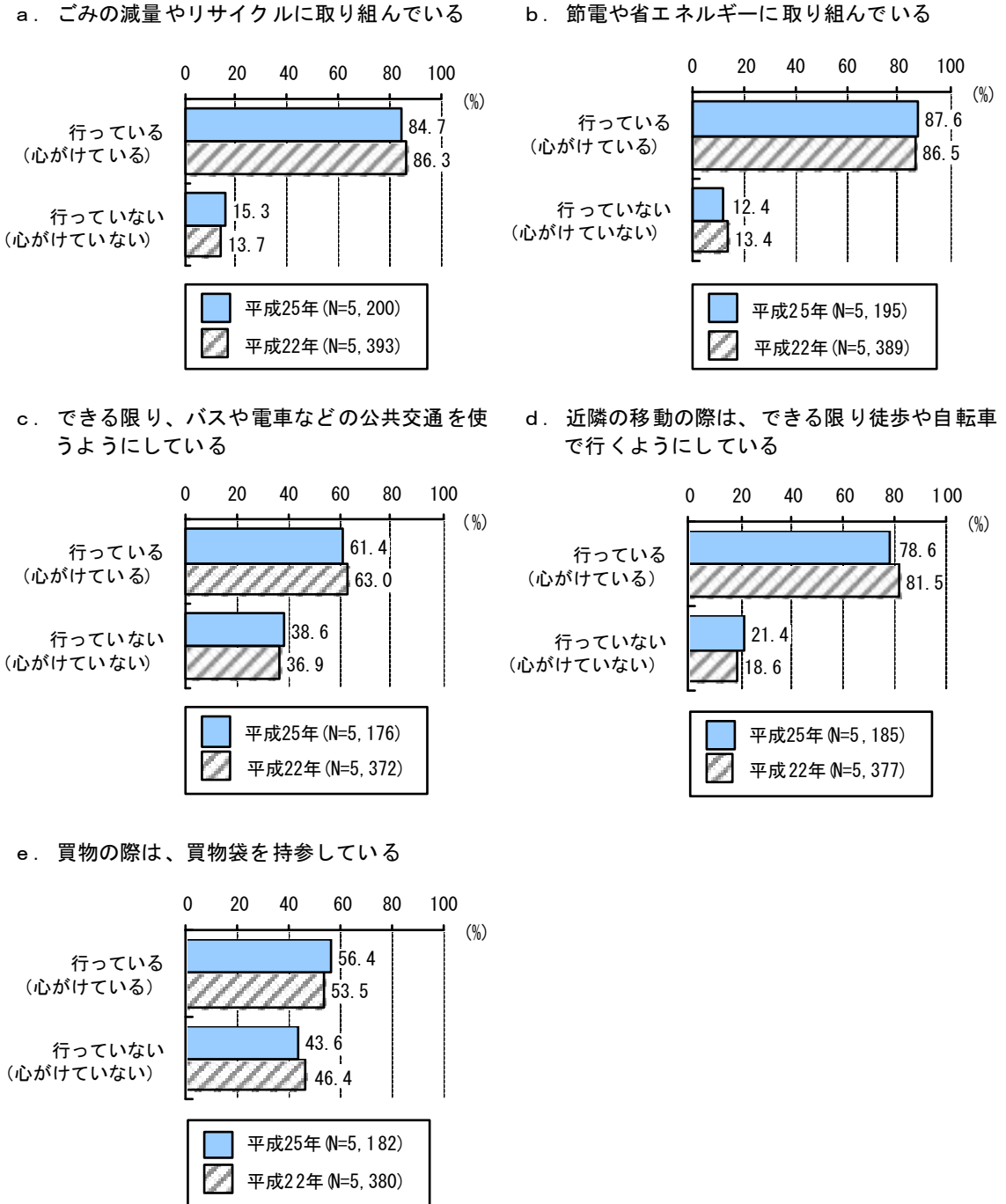
- ・「ごみの減量やリサイクルに取り組んでいる」「節電や省エネルギーに取り組んでいる」は『心がけている』市民の割合が8割を超えている。
- ・いずれの質問項目も『心がけている』市民の割合が5割を超えているが、「買い物の際は、買い物袋を持参している」は56.4%とやや低い。

図表Ⅲ-17 環境との共生に関係する行動



- ・時系列でみると、増減は項目ごとに異なるものの、どの項目においても、前回調査（平成22年）と比べて大きな差はみられない。

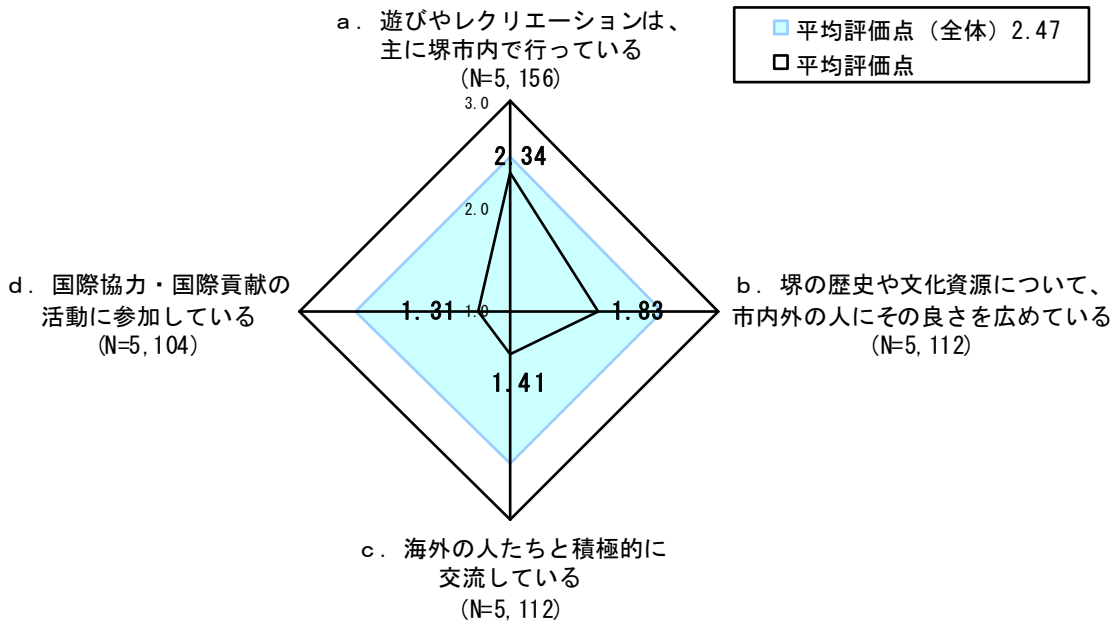
図表Ⅲ-18 時系列 環境との共生に関する行動



【⑥ まちの魅力や交流に関する行動】

- ・まちの魅力や交流に関する行動はいずれの評価も低く、中でも「国際協力・国際貢献の活動に参加している」(1.31)が最も低くなっている。

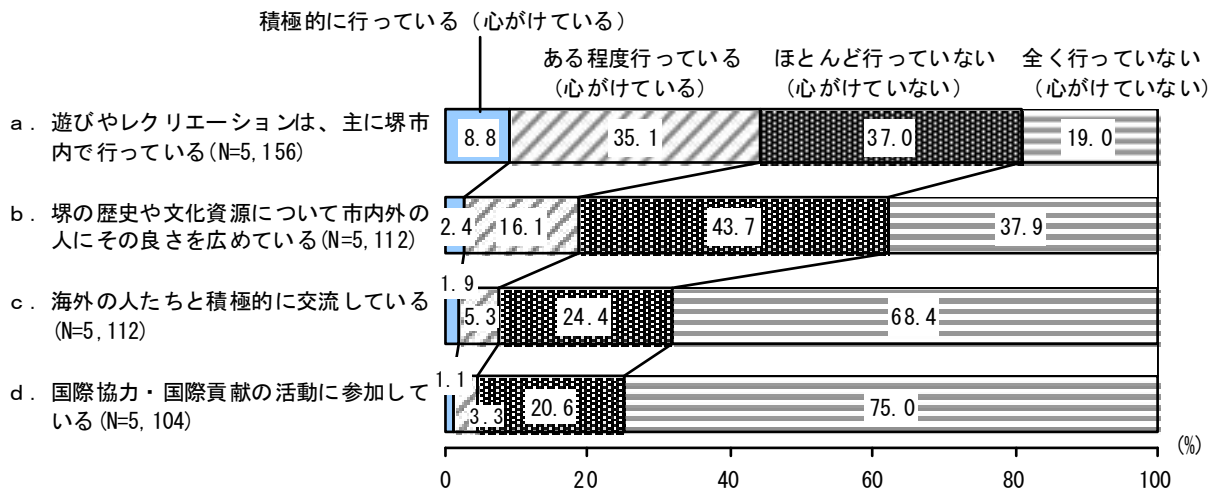
図表Ⅲ-19 まちの魅力や交流に関する行動 平均評価点



(注) 個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求めた。
 「積極的に行っている (心がけている)」 4点 「ある程度行っている (心がけている)」 3点
 「ほとんど行っていない (心がけていない)」 2点 「全く行っていない (心がけていない)」 1点

- ・いずれの質問項目も『心がけている』市民の割合は低く、なかでも「海外の人たちと積極的に交流している」と「国際協力・国際貢献の活動に参加している」は1割に満たない。

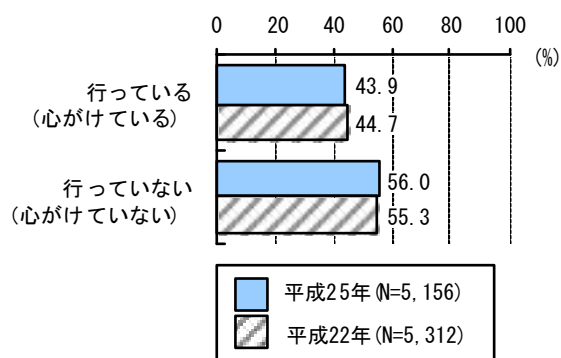
図表Ⅲ-20 まちの魅力や交流に関する行動



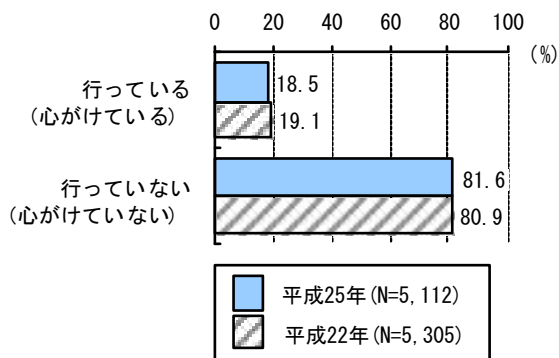
- ・時系列でみると、どの項目においても、前回調査（平成22年）と比べて大きな差はみられない。

図表Ⅲ-21 時系列 まちの魅力や交流に関する行動

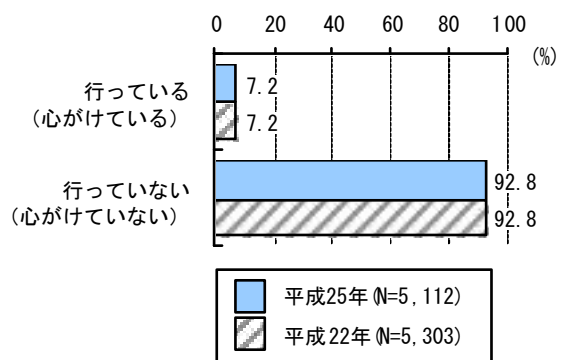
a. 遊びやレクリエーションは、主に堺市内で行っている



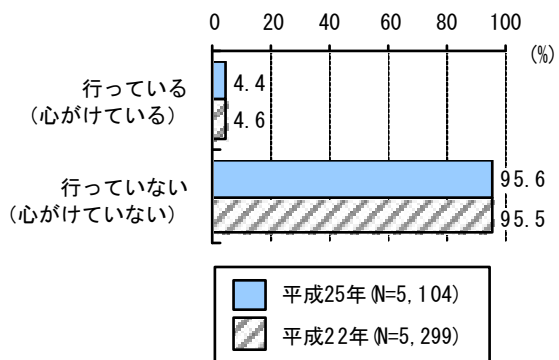
b. 堺の歴史や文化資源について、市内外の人にその良さを広めている



c. 海外の人たちと積極的に交流している



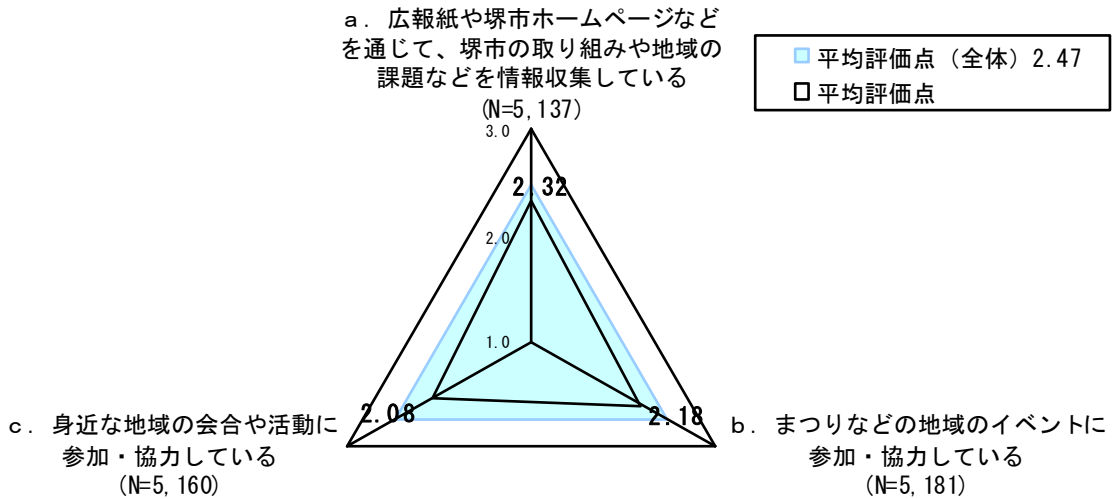
d. 国際協力・国際貢献の活動に参加している



【⑦ 地域のまちづくりに関係する行動】

- ・地域のまちづくりに関係する行動はいずれの評価もやや低く、「身近な地域の会合や活動に参加・協力している」(2.08)が最も低くなっている。

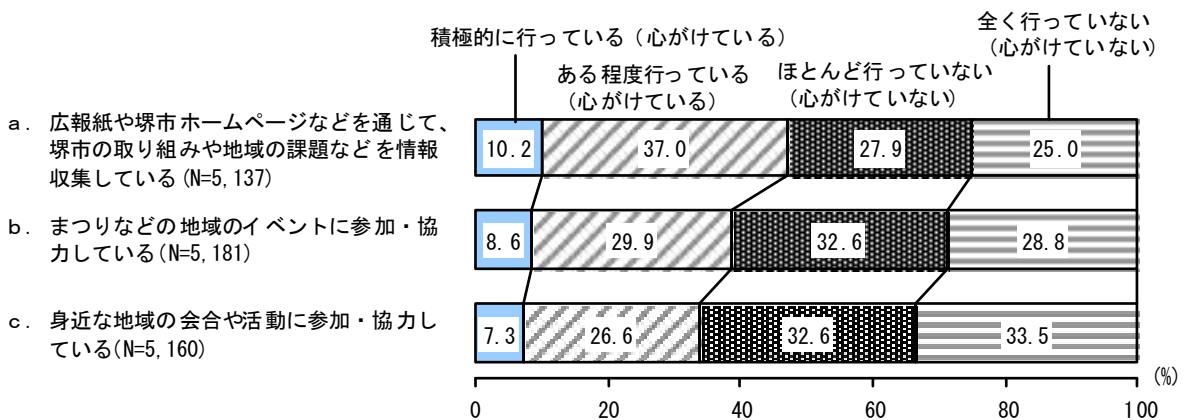
図表Ⅲ-22 地域のまちづくりに関係する行動 平均評価点



(注) 個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求めた。
 「積極的に行っている (心がけている)」 4点 「ある程度行っている (心がけている)」 3点
 「ほとんど行っていない (心がけていない)」 2点 「全く行っていない (心がけていない)」 1点

- ・いずれの質問項目も『心がけている』市民の割合は低く、「まつりなどの地域のイベントに参加・協力している」「身近な地域の会合や活動に参加・協力している」は3割台となっている。

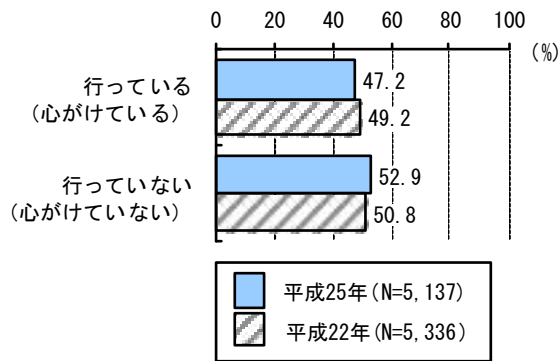
図表Ⅲ-23 地域のまちづくりに関係する行動



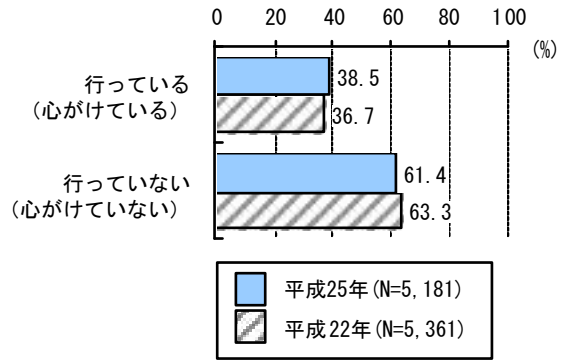
- ・時系列で見ると、どの項目においても、前回調査（平成22年）と比べて大きな差はみられない。

図表Ⅲ-24 時系列 地域のまちづくりに関係する行動

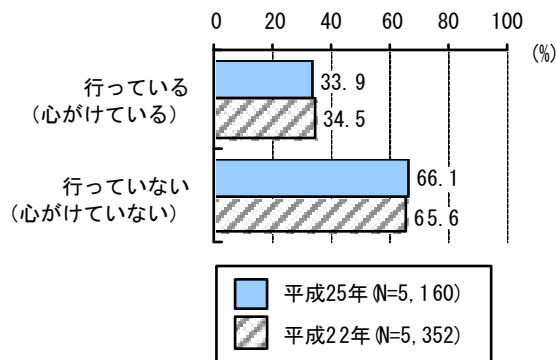
a. 広報紙や堺市ホームページなどを通じて、堺市の取り組みや地域の課題などを情報収集している



b. まつりなどの地域のイベントに参加・協力している



c. 身近な地域の会合や活動に参加・協力している



2. 日常生活に関する意識について

【分析の趣旨】

- ・ 7政策36項目について平均評価点を求め傾向を分析している。
- ・ 7項目の平均評価点は-0.103である。
- ・ 平均評価点が高いほど、当該意見に対し同意する（そう思う）意識が高く、平均評価点が高いほど、意識が低いことを表す。

＜意識指標ごとの平均評価点の考え方＞

個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求め、7施策ごとにまとめて平均を求めた。

「そう思う」	3点
「ある程度はそう思う」	1点
「どちらともいえない」	0点
「あまりそう思わない」	-1点
「全くそう思わない」	-3点

※設問内容から、①-d、②-j、③-a は得点を反転させて加重平均評価点を求めた。

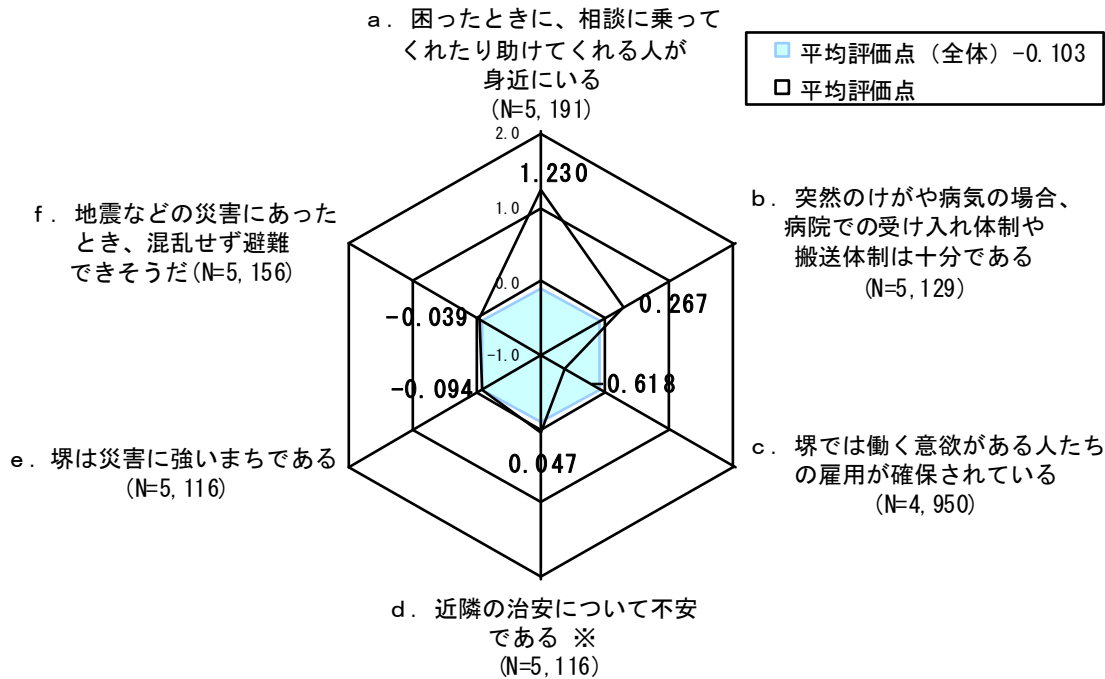
- ・ 例えば、①-d 「近隣の治安について不安である」は、「全くそう思わない」を3点、「あまりそう思わない」を1点、「どちらとも言えない」を0点、「ある程度そう思う」を-1点、「そう思う」を-3点として平均評価点を求めた。この結果、①-dについては、評価点数が大きくなるほど（プラスになるほど）、「そう思わない」の意識が高い傾向であることを表す。

- ・ 平成22年及び平成25年の時系列比較のグラフで表記している『そう思う』の数値は、「そう思う」と「ある程度はそう思う」の合計、『そう思わない』の数値は、「全くそう思わない」と「あまりそう思わない」の合計である。これら合計値で2年間の比較を行っている。

【① 暮らしの安全・安心に関する意識】

- ・安全・安心についての意識は、全体的に比較的高い評価にある。中でも「困ったときに、相談に乗ってくれたり助けてくれる人が身近にいる」という意識は非常に高い傾向にある。
- ・一方で、「堺では働く意欲がある人たちの雇用が確保されている」(-0.618) という意識は特に低くなっている。

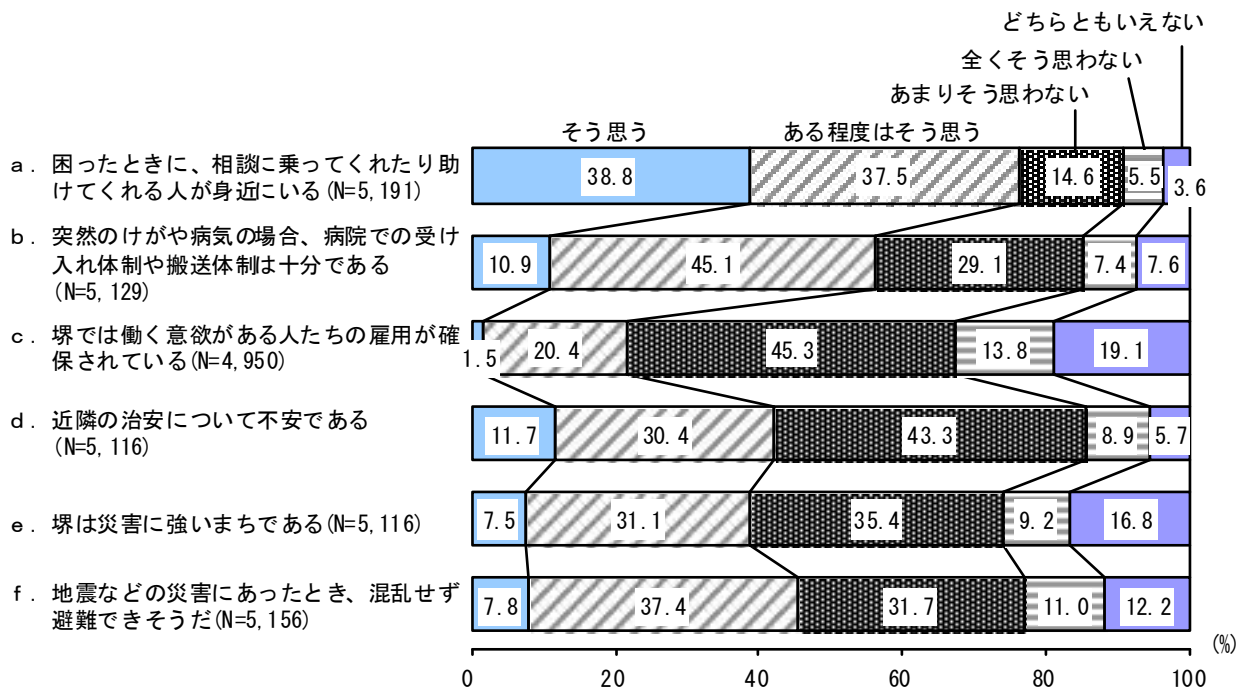
図表Ⅲ-25 暮らしの安全・安心に関する意識 平均評価点



(注) 個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求めた。
 「そう思う」 3点 「ある程度はそう思う」 1点
 「どちらともいえない」 0点 「あまりそう思わない」 -1点
 「全くそう思わない」 -3点
 ※印 設問内容から、得点を反転させて加重平均評価点を求めた。

- ・「そう思う」と「ある程度はそう思う」をあわせた意見は、「困ったときに、相談に乗ってくれたり助けてくれる人が身近にいる」「突然のけがや病気の場合、病院での受け入れ体制や搬送体制は十分である」が5割を超えており、なかでも「困ったときに、相談に乗ってくれたり助けてくれる人が身近にいる」が76.3%で最も高い。
- ・一方、「堺では働く意欲がある人たちの雇用が確保されている」は低く、21.9%となっている。

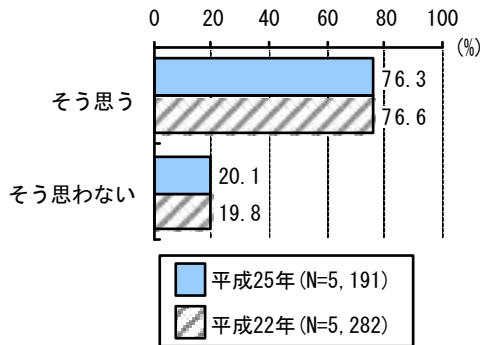
図表Ⅲ-26 暮らしの安全・安心に関する意識



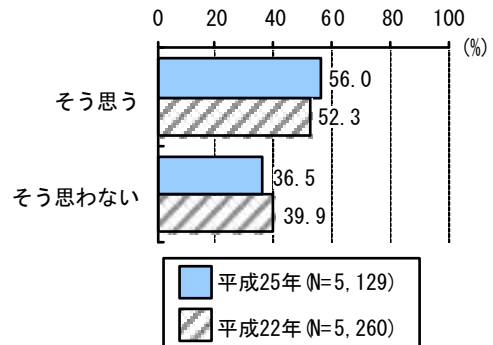
- ・時系列で見ると、「堺では働く意欲がある人たちの雇用が確保されている」は『そう思う』市民が前回調査（平成22年）より6.4ポイント高くなっている。
- ・また、「突然のけがや病気の場合、病院での受け入れ体制や搬送体制は十分である」は『そう思う』市民の割合が前回調査（平成22年）より3.7ポイント高くなっている。

図表Ⅲ-27 時系列 暮らしの安全・安心に関する意識

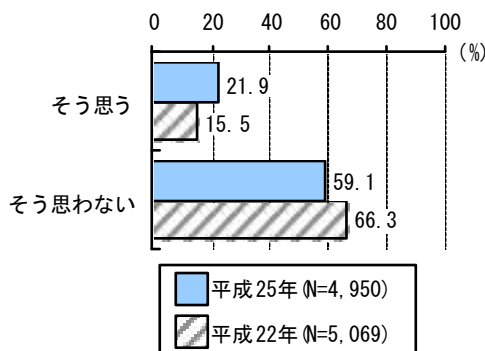
a. 困ったときに、相談に乗ってくれたり助けしてくれる人が身近にいる



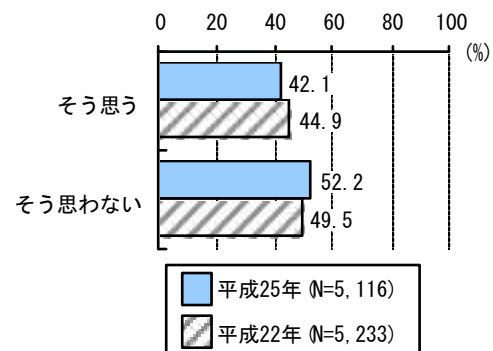
b. 突然のけがや病気の場合、病院での受け入れ体制や搬送体制は十分である



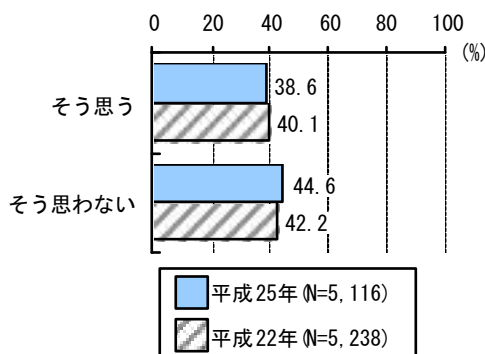
c. 堺では働く意欲がある人たちの雇用が確保されている



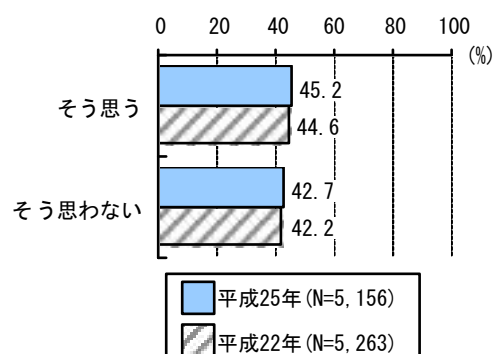
d. 近隣の治安について不安である



e. 堺は災害に強いまちである



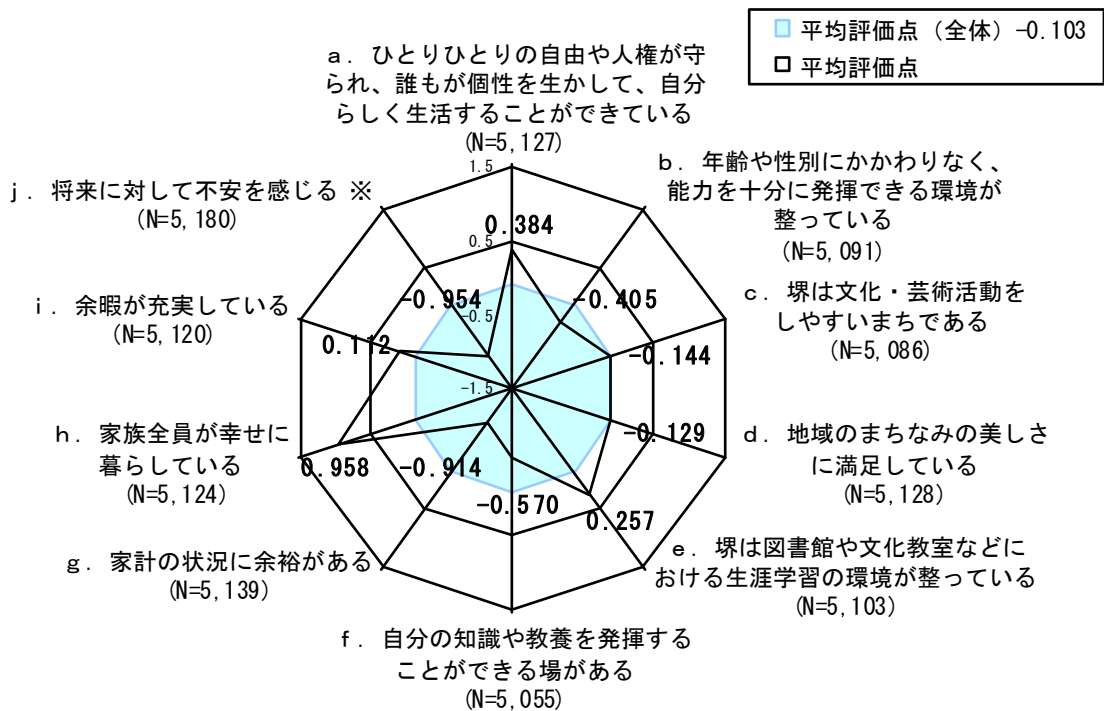
f. 地震などの災害にあったとき、混乱せず避難できそうだ



【② 暮らしの質に関する意識】

- ・「ひとりひとりの自由や人権が守られ、誰もが個性を生かして、自分らしく生活することができる」(0.384)と「堺は図書館や文化教室などにおける生涯学習の環境が整っている」(0.257)、「家族全員が幸せに暮らしている」(0.958)、「余暇が充実している」(0.112)は高い評価となっており、中でも「家族全員が幸せに暮らしている」が最も高くなっている。
- ・一方、「家計の状況に余裕がある」(-0.914)と「将来に対して不安感じる」(-0.954)は評価が低く、中でも「将来に対して不安感じる」が最も低くなっている。

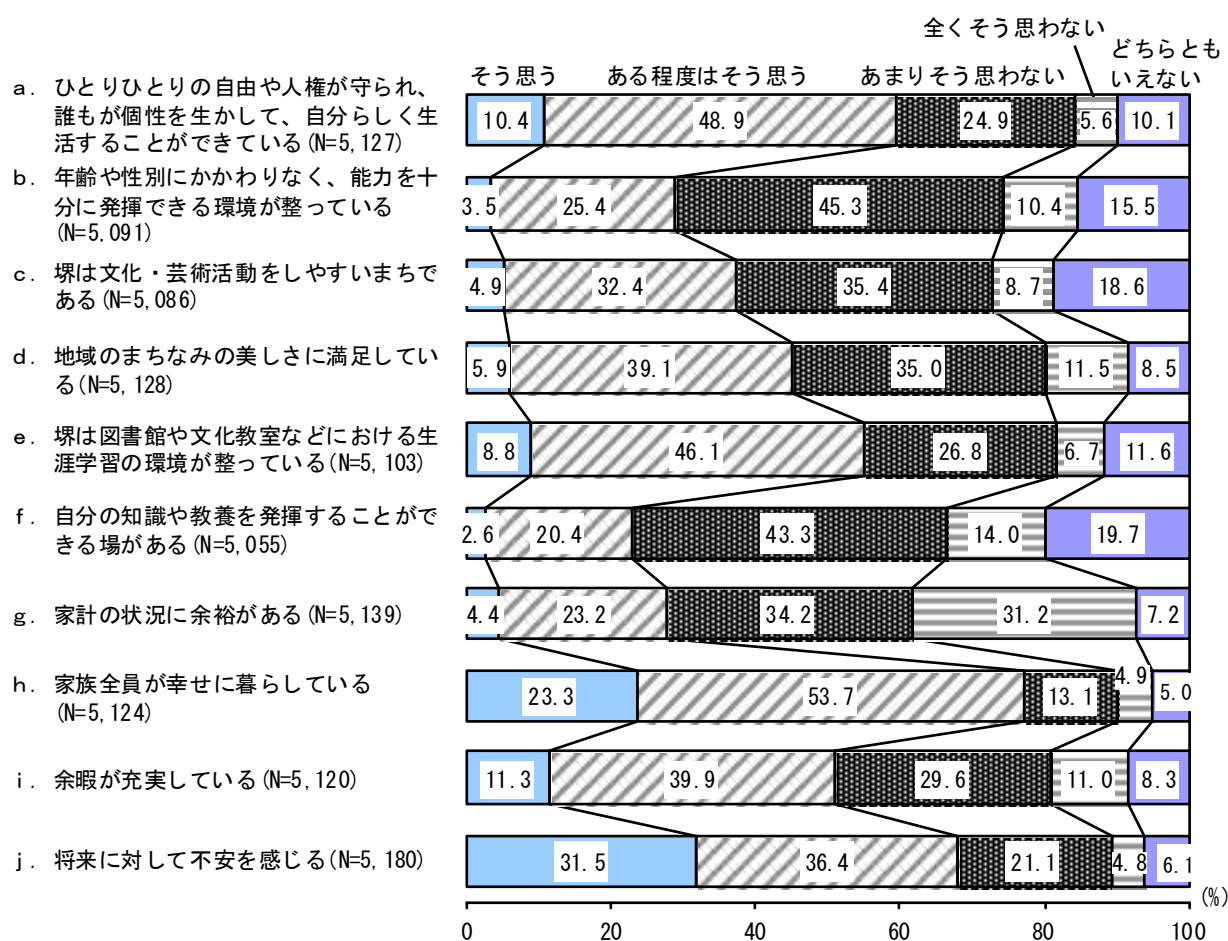
図表Ⅲ-28 暮らしの質に関する意識 平均評価点



(注) 個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求めた。
 「そう思う」 3点 「ある程度はそう思う」 1点
 「どちらともいえない」 0点 「あまりそう思わない」 -1点
 「全くそう思わない」 -3点
 ※印 設問内容から、得点を反転させて加重平均評価点を求めた。

- ・「思う」と「ある程度は思う」をあわせた意見は、「ひとりひとりの自由や人権が守られ、個性を生かして、自分らしく生活することができる」「堺は図書館や文化教室などにおける生涯学習の環境が整っている」「家族全員が幸せに暮らしている」「余暇が充実している」で5割を超えており、なかでも「家族全員が幸せに暮らしている」は77.0%と最も高い。
- ・また、「将来に対して不安を感じる」についても、『思う』市民の割合が5割を超えている。
- ・一方、「年齢や性別にかかわらず、能力を十分に発揮できる環境が整っている」「自分の知識や教養を発揮することができる場がある」「家計の状況に余裕がある」は3割以下となっている。

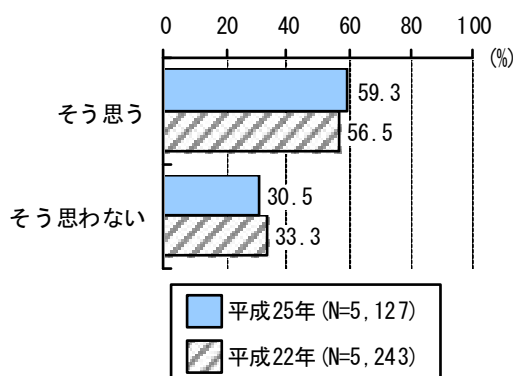
図表Ⅲ-29 暮らしの質に関する意識



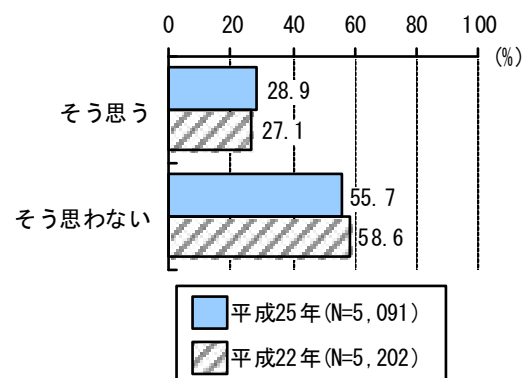
- ・時系列でみると、「地域のまちなみの美しさに満足している」は、『そう思う』市民の割合が、前回調査（平成21年）より13.1ポイント高くなっている。
- ・「余暇が充実している」は、『そう思う』市民の割合が、前回調査（平成22年）より3.1ポイント高くなっている。
- ・「将来に対して不安を感じる」は、『そう思う』と答えた市民の割合が、前回調査より3.5ポイント低くなっている。

図表Ⅲ-30 時系列 暮らしの質に関する意識

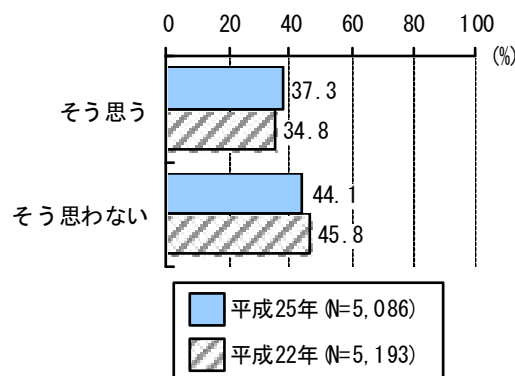
a. ひとりひとりの自由や人権が守られ、誰もが個性を生かして、自分らしく生活することができる



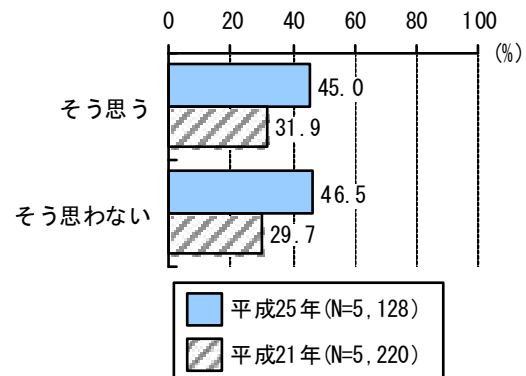
b. 年齢や性別にかかわらず、能力を十分に発揮できる環境が整っている



c. 堺は文化・芸術活動をしやすいまちである



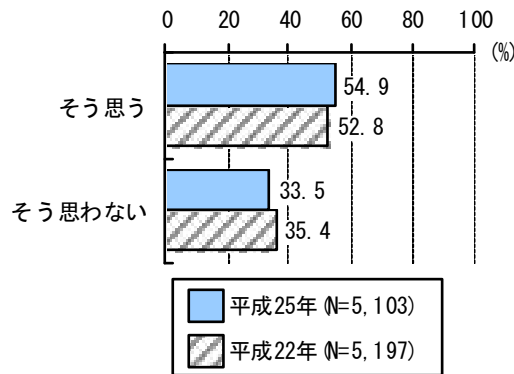
d. 地域のまちなみの美しさに満足している



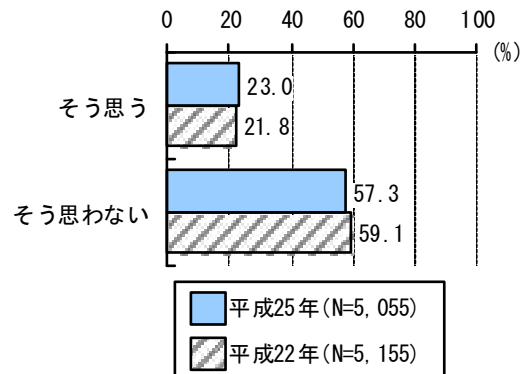
※なお、「d. 地域のまちなみの美しさに満足している」は、平成21年調査が最新となるため、平成21年と経年比較している。

図表Ⅲ-30 時系列 暮らしの質に関する意識

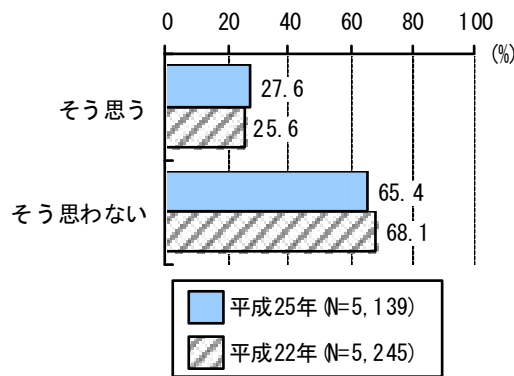
e. 塚は図書館や文化教室などにおける生涯学習の環境が整っている



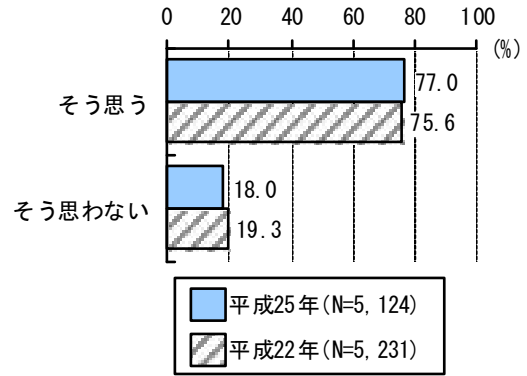
f. 自分の知識や教養を発揮することができる場がある



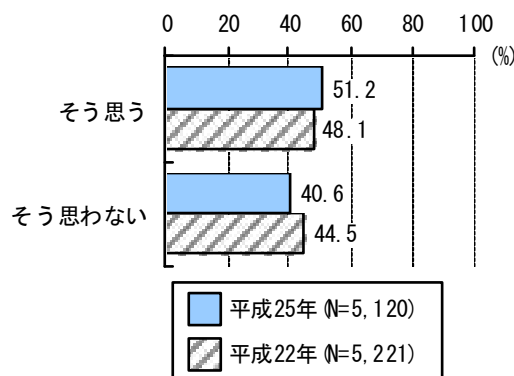
g. 家計の状況に余裕がある



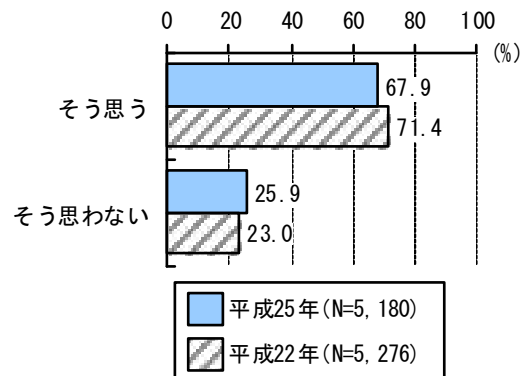
h. 家族全員が幸せに暮らしている



i. 余暇が充実している



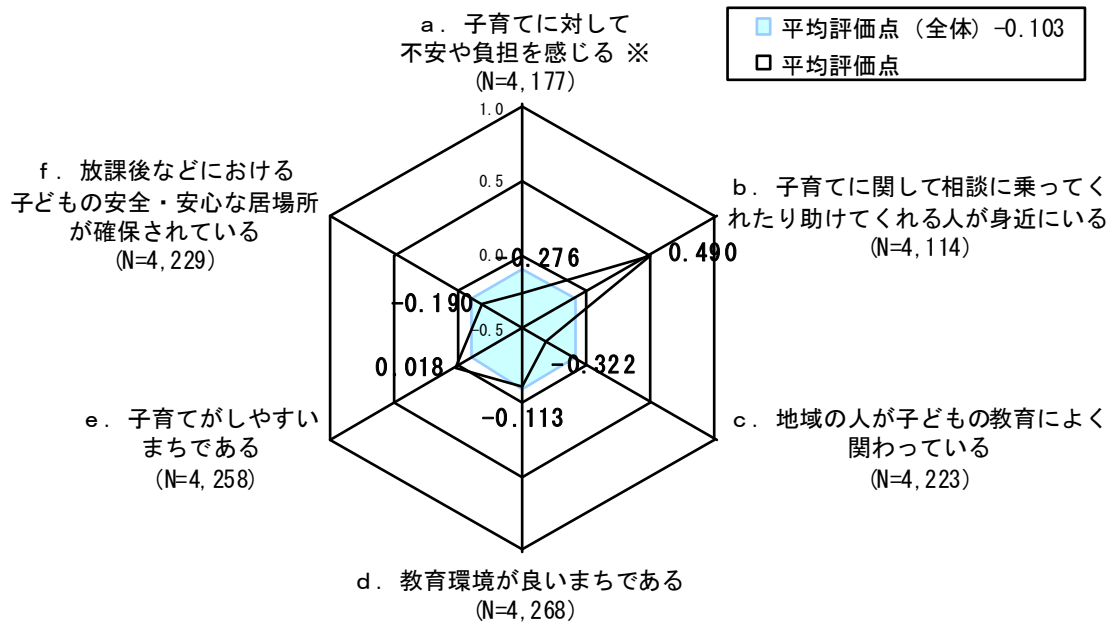
j. 将来に対して不安を感じる



【③ 子育て・教育に関する意識】

- ・「子育てに関して相談に乗ってくれたり助けてくれる人が身近にいる」(0.490) が最も高い評価となっており、次いで「子育てがしやすいまちである」(0.018) となっている。
- ・一方、「地域の方が子どもの教育によく関わっている」(-0.322) が最も低い評価となっている。

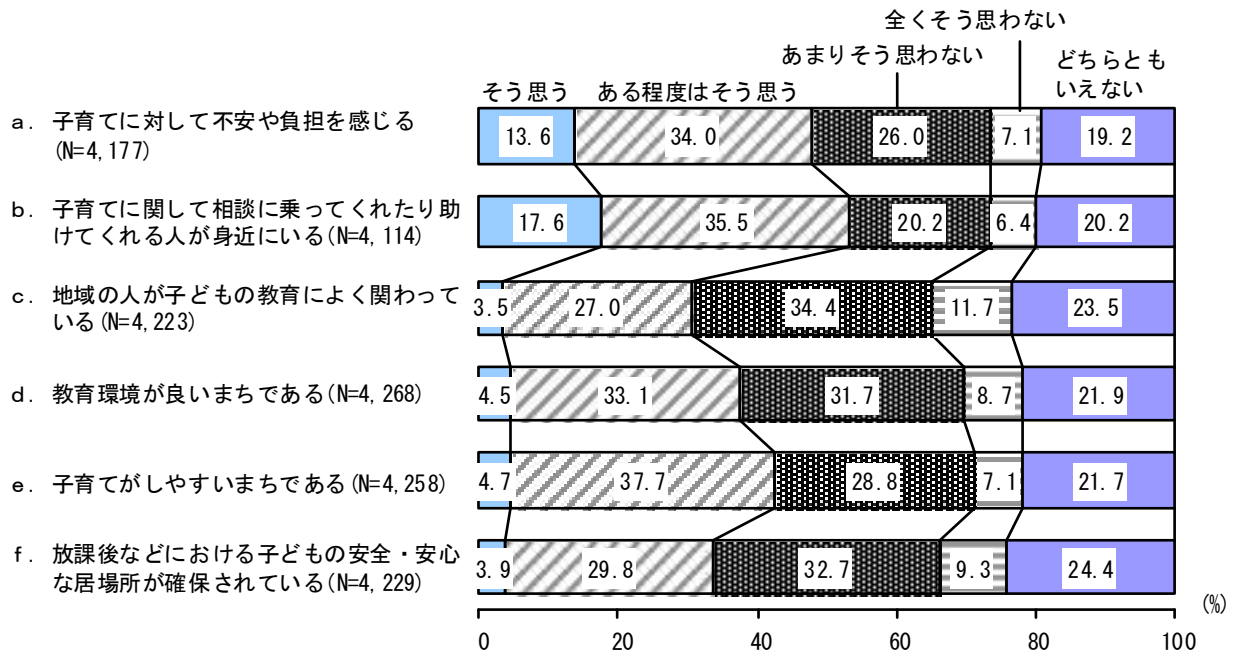
図表Ⅲ-31 子育て・教育に関する意識 平均評価点



(注) 個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求めた。
 「そう思う」 3点 「ある程度はそう思う」 1点
 「どちらともいえない」 0点 「あまりそう思わない」 -1点
 「全くそう思わない」 -3点
 ※印 設問内容から、得点を反転させて加重平均評価点を求めた。

- ・「そう思う」と「ある程度はそう思う」をあわせた意見は、「子育てに関して相談に乗ってくれたり助けてくれる人が身近にいる」が53.1%で最も高いが、それ以外の質問項目では5割以下となっている。
- ・一方、「地域の人が子どもの教育によく関わっている」は30.5%で最も低い。

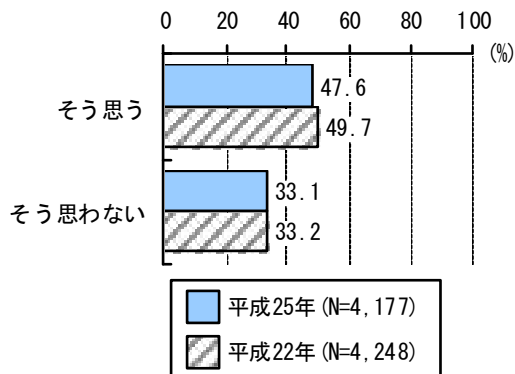
図表Ⅲ-32 子育て・教育に関する意識



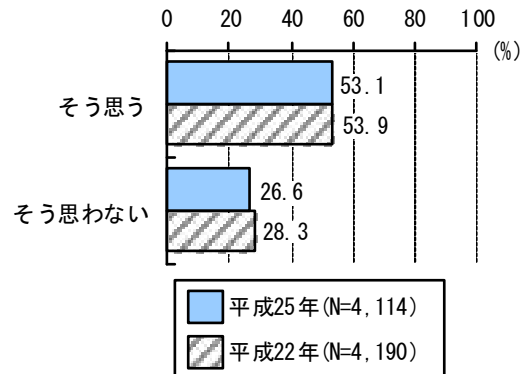
- ・時系列でみると、「教育環境が良いまちである」と「子育てがしやすいまちである」、「放課後などにおける子どもの安全・安心な居場所が確保されている」は、『そう思う』市民の割合が、前回調査（平成22年）より3ポイント以上高くなっている。
- ・また、「子育てに対して不安や負担を感じる」は、『そう思う』市民の割合が、前回調査（平成22年）より低くなっている。

図表Ⅲ-33 時系列 子育て・教育に関する意識

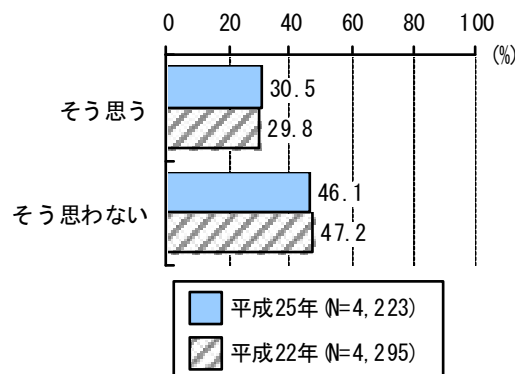
a. 子育てに対して不安や負担を感じる



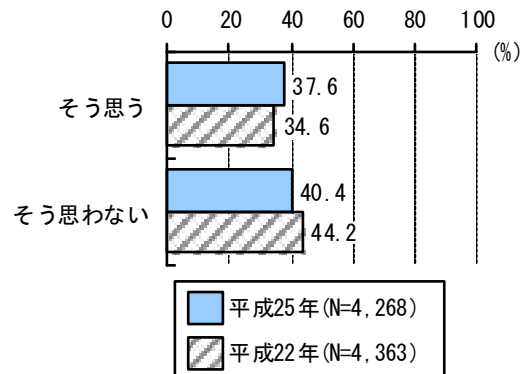
b. 子育てに関して相談に乗ってくれたり助けてくれる人が身近にいる



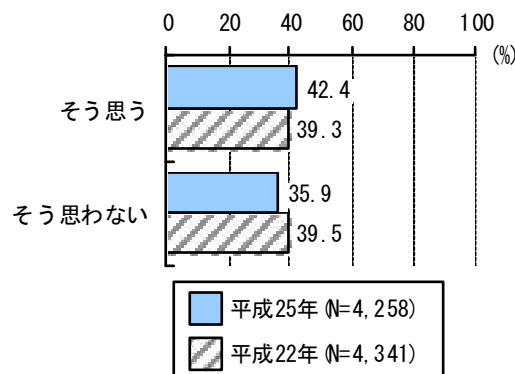
c. 地域の人が子どもの教育によく関わっている



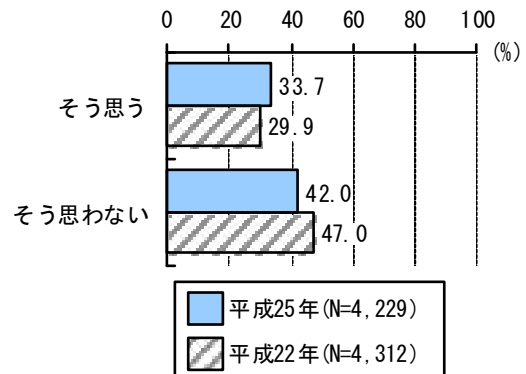
d. 教育環境が良いまちである



e. 子育てがしやすいまちである



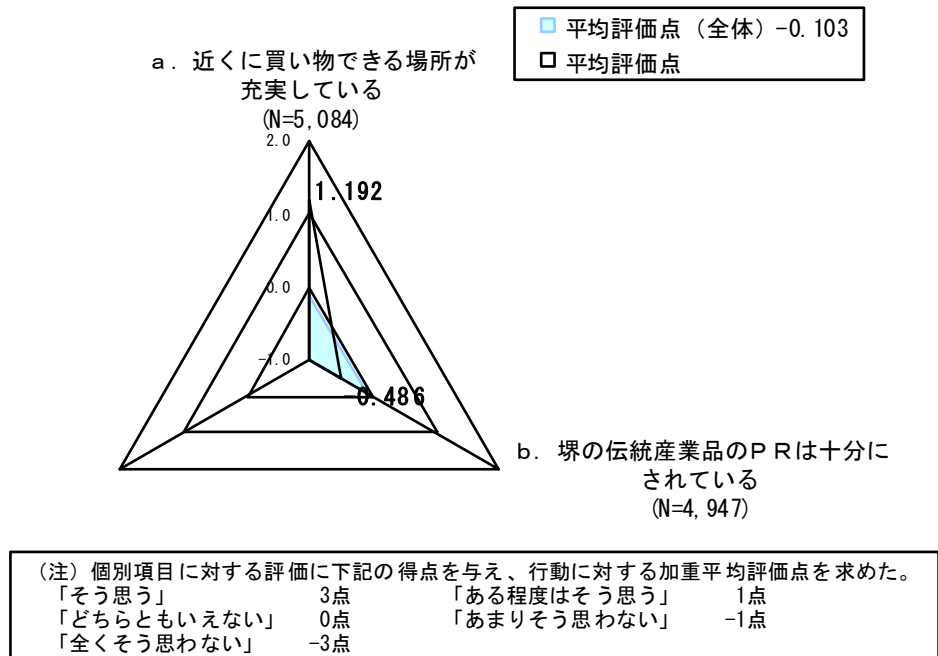
f. 放課後などにおける子どもの安全・安心な居場所が確保されている



【④ 地域の産業振興に関する意識】

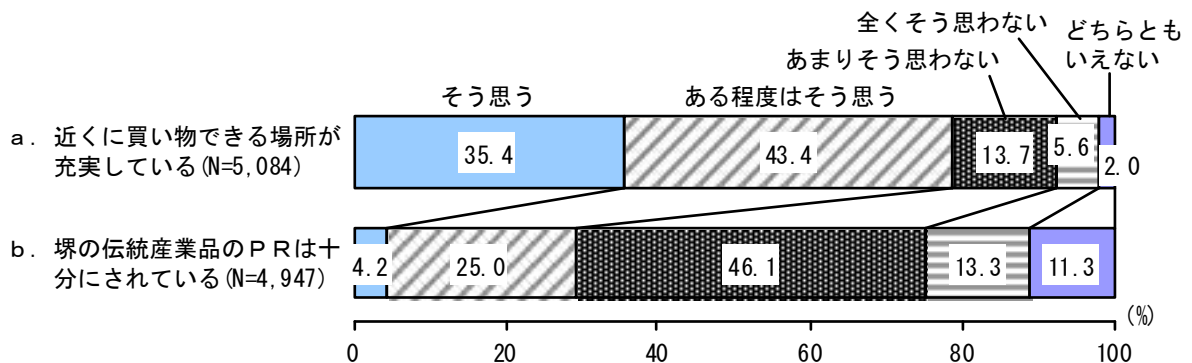
- ・「近く買い物できる場所が充実している」(1.192)は非常に高いが、「堺の伝統産業品のPRは十分にされている」(-0.486)は低くなっている。

図表Ⅲ-34 地域の産業振興に関する意識 平均評価点



- ・「そう思う」と「ある程度はそう思う」をあわせた意見は、「近く買い物できる場所が充実している」は78.8%と高いが、「堺の伝統産業品のPRは十分にされている」は29.2%と低くなっている。

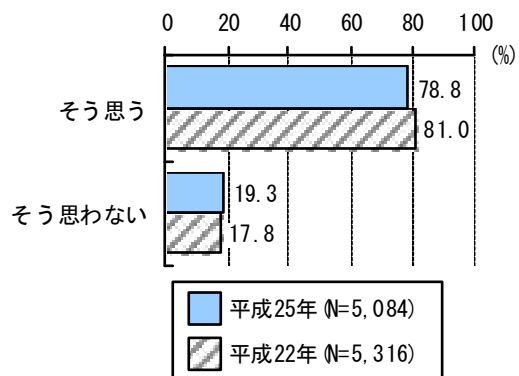
図表Ⅲ-35 地域の産業振興に関する意識



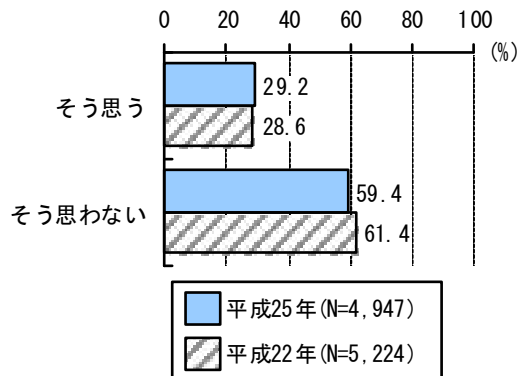
- ・時系列でみると、どの項目においても、前回調査（平成22年）と比べて大きな差はみられない。

図表Ⅲ-36 時系列 地域の産業振興に関する意識

a. 近くに買い物できる場所が充実している



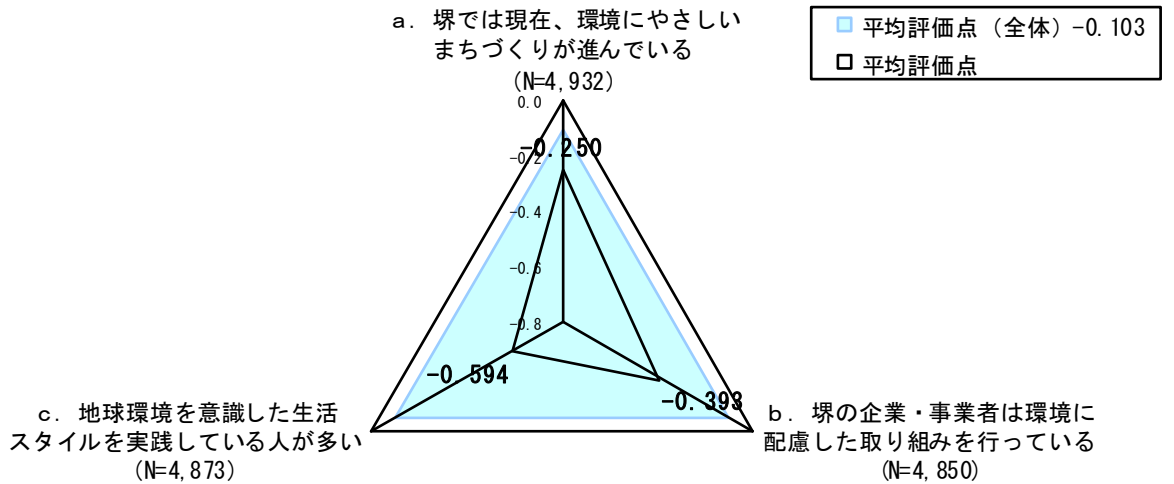
b. 郷の伝統産業品のPRは十分にされている



【⑤ 環境との共生に関する意識】

- ・いずれも全体平均よりも低い評価であり、「地球環境を意識した生活スタイルを実践している人が多い」(-0.594) が最も低く、次いで「堺の企業・事業者は環境に配慮した取り組みを行っている」(-0.393) となっている。

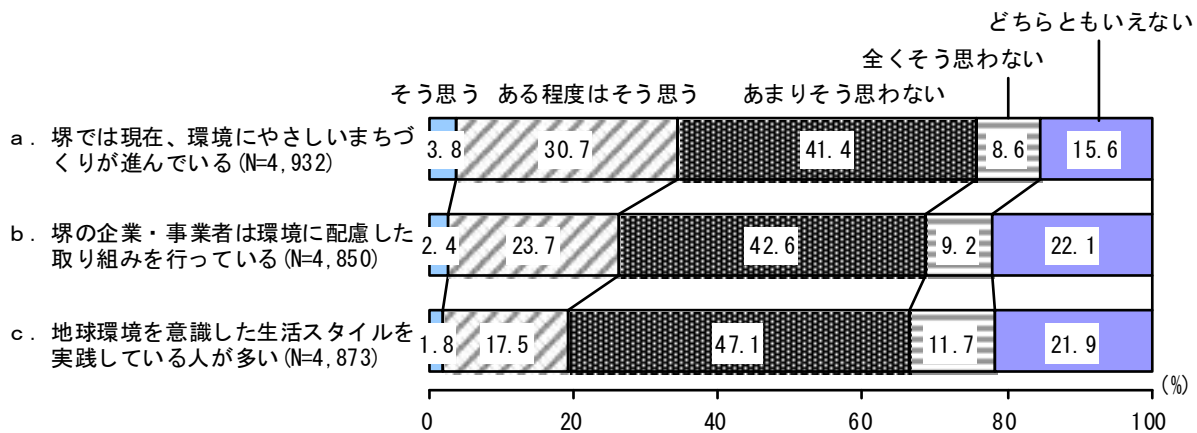
図表Ⅲ-37 環境との共生に関する意識 平均評価点



(注) 個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求めた。
 「そう思う」 3点 「ある程度はそう思う」 1点
 「どちらともいえない」 0点 「あまりそう思わない」 -1点
 「全くそう思わない」 -3点

- ・「そう思う」と「ある程度はそう思う」をあわせた意見は、いずれの質問項目も4割以下と低く、なかでも「地球環境を意識した生活スタイルを実践している人が多い」は19.3%と最も低くなっている。

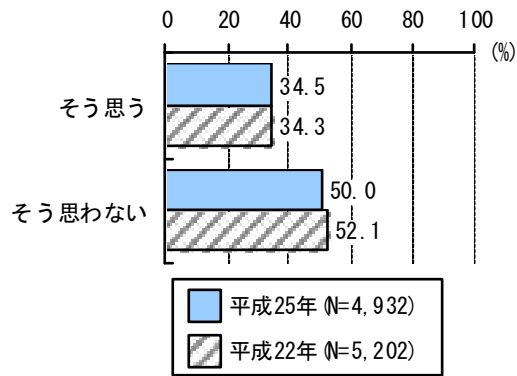
図表Ⅲ-38 環境との共生に関する意識



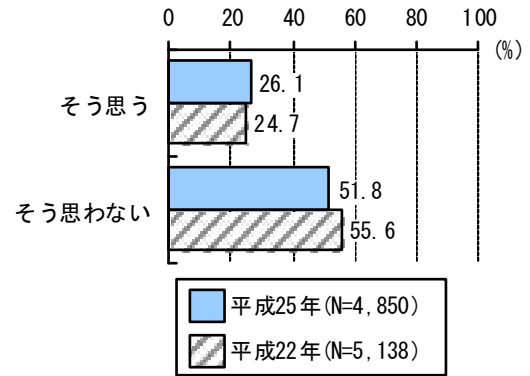
- ・時系列でみると、前回調査（平成22年）と比べて大きな差はみられないが、すべての項目で前回より評価が上がっている。

図表Ⅲ-39 時系列 環境との共生に関する意識

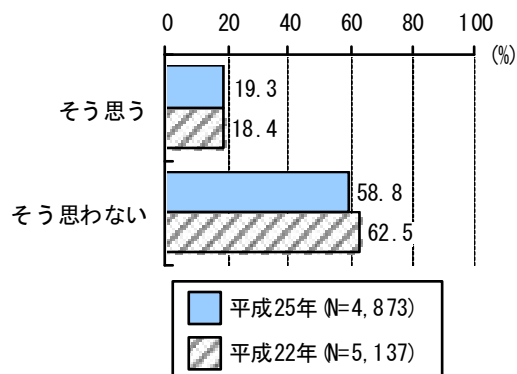
a. 堺では現在、環境にやさしいまちづくりが進んでいる



b. 堺の企業・事業者は環境に配慮した取り組みを行っている



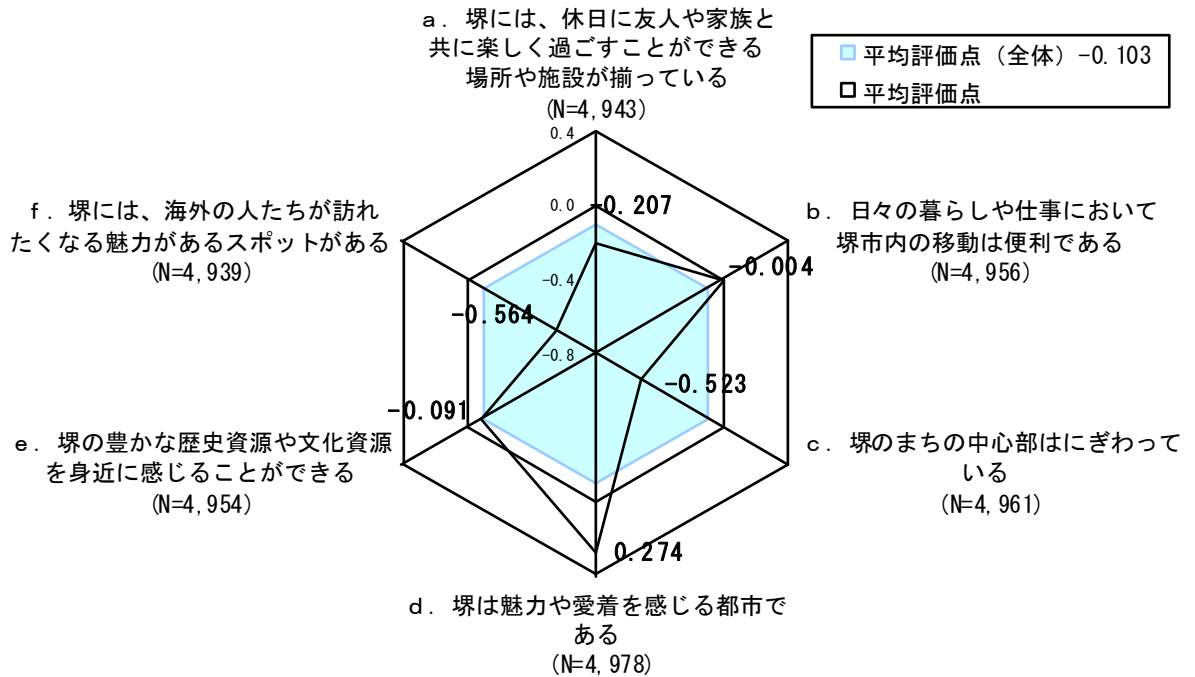
c. 地球環境を意識した生活スタイルを実践している人が多い



【⑥ まちの魅力や交流に関する意識】

- ・「堺は魅力や愛着を感じる都市である」(0.274) が最も高い評価となっており、次いで「日々の暮らしや仕事において堺市内の移動は便利である」(-0.004) となっている。
- ・一方、「堺には、海外の人たちが訪れたい魅力があるスポットがある」(-0.564) は最も低く、次いで「堺のまちの中心部はにぎわっている」(-0.523) が低い評価となっている。

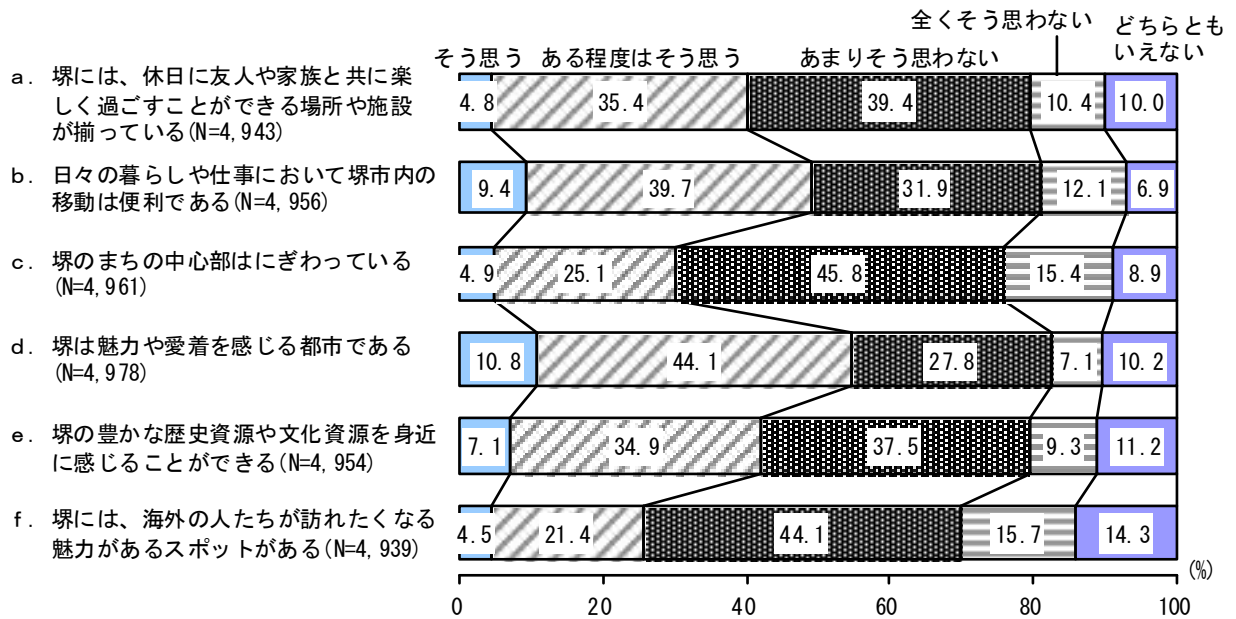
図表Ⅲ-40 まちの魅力や交流に関する意識 平均評価点



(注) 個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求めた。
「そう思う」 3点 「ある程度はそう思う」 1点
「どちらともいえない」 0点 「あまりそう思わない」 -1点
「全くそう思わない」 -3点

- ・「そう思う」と「ある程度はそう思う」をあわせた意見は、「堺の魅力や愛着を感じる都市である」は54.9%で最も高く、それ以外の質問項目はいずれも5割以下となっている。
- ・一方で、「堺には、海外の人たちが訪れたい魅力があるスポットがある」は25.9%で最も低くなっている。

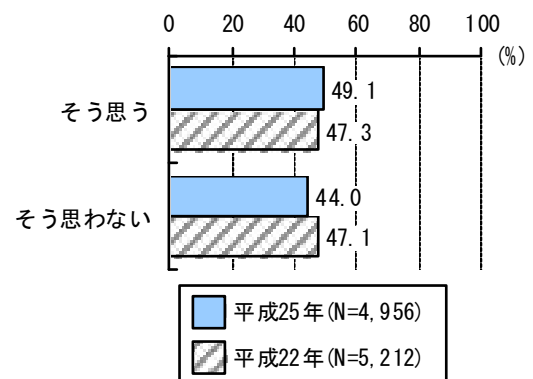
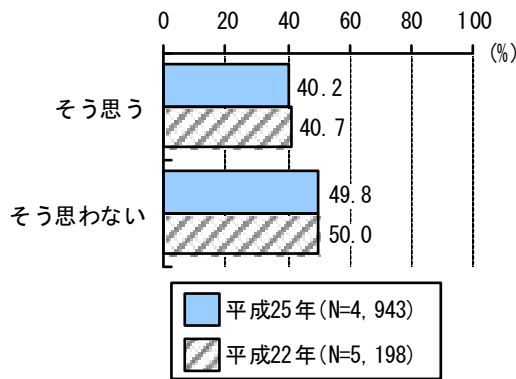
図表Ⅲ-41 まちの魅力や交流に関する意識



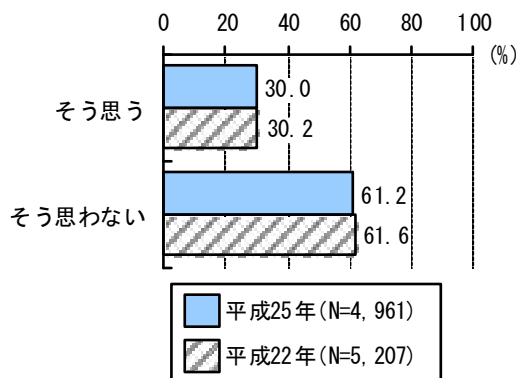
- ・時系列でみると、「堺は魅力や愛着を感じる都市である」は『そう思う』市民の割合が6.7ポイント高くなり、「堺の豊かな歴史資源や文化資源を身近に感じることができる」は3.0ポイント前回より高くなっている。

図表Ⅲ-42 時系列 まちの魅力や交流に関する意識

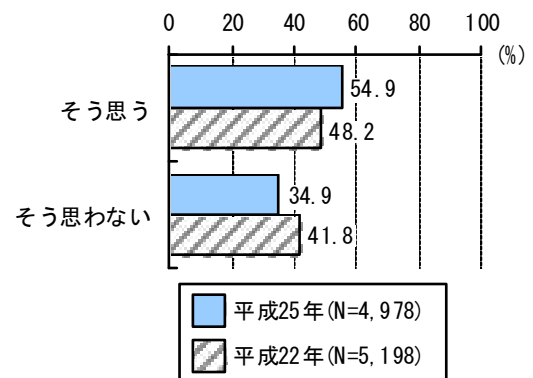
- a. 堺には、休日に友人や家族と共に楽しく過ごすことができる場所や施設が揃っている
- b. 日々の暮らしや仕事において堺市内の移動は便利である



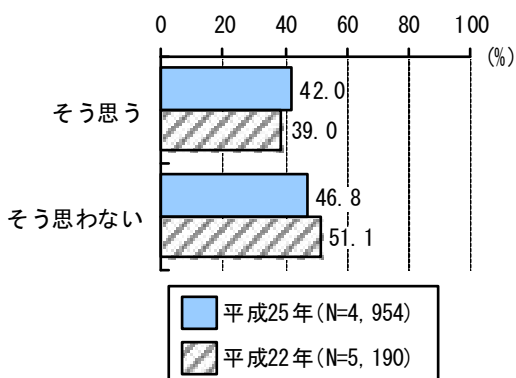
- c. 堺のまちの中心部はにぎわっている



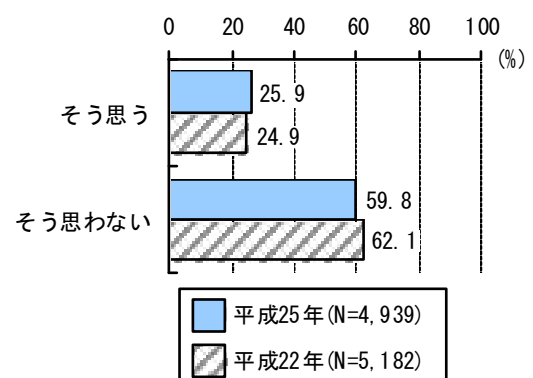
- d. 堺は魅力や愛着を感じる都市である



- e. 堺の豊かな歴史資源や文化資源を身近に感じることができる



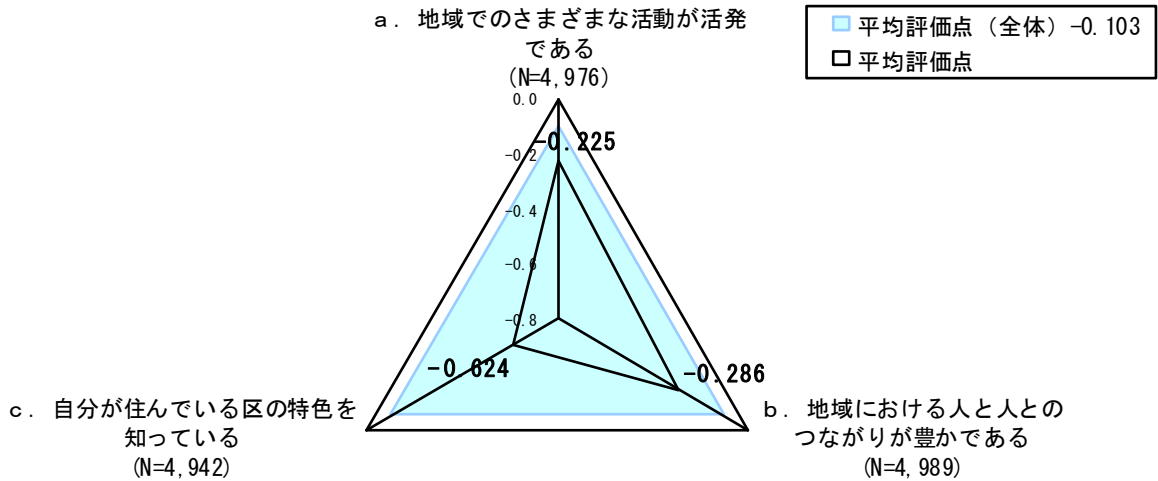
- f. 堺には、海外の人たちが訪れたい魅力があるスポットがある



【⑦ 地域のまちづくりに関する意識】

- ・いずれも全体平均より低い評価となっており、「自分が住んでいる区の特徴を知っている」(-0.624) が最も低く、次いで「地域における人と人とのつながりが豊かである」(-0.286) が低い評価となっている。

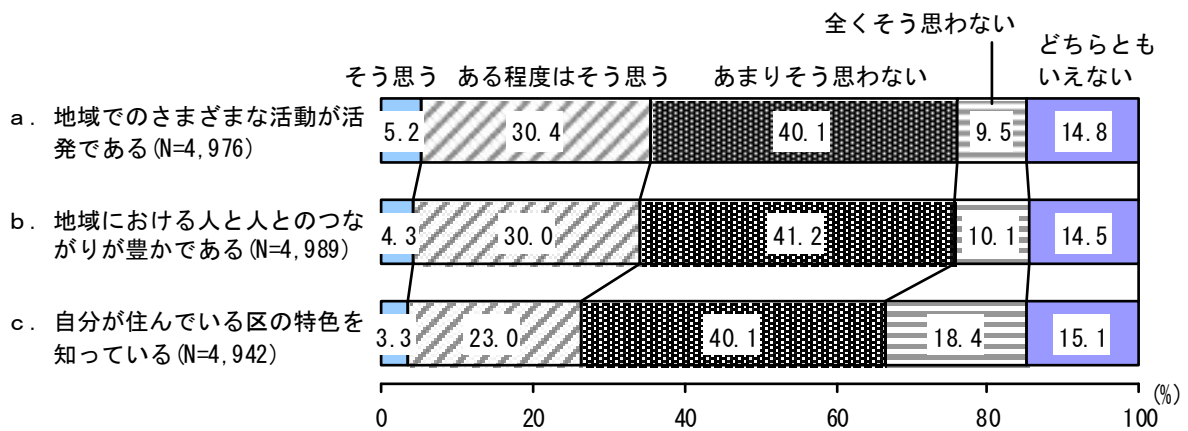
図表Ⅲ-43 地域のまちづくりに関する意識 平均評価点



(注) 個別項目に対する評価に下記の得点を与え、行動に対する加重平均評価点を求めた。
 「そう思う」 3点 「ある程度はそう思う」 1点
 「どちらともいえない」 0点 「あまりそう思わない」 -1点
 「全くそう思わない」 -3点

- ・「そう思う」と「ある程度はそう思う」をあわせた意見はいずれの質問項目も4割以下と低く、なかでも「自分が住んでいる区の特徴を知っている」が26.3%で最も低い。

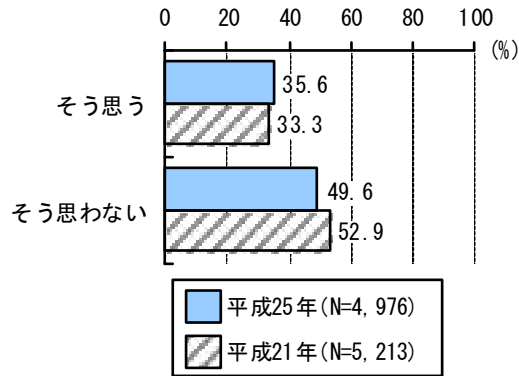
図表Ⅲ-44 地域のまちづくりに関する意識



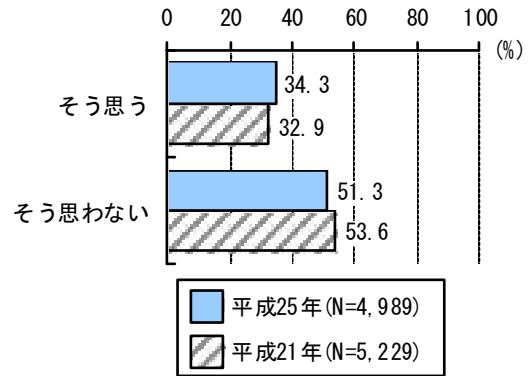
- ・時系列でみると、増減の傾向は項目ごとに異なるものの、どの項目においても、前回調査（平成22年）と比べて大きな差はみられない。

図表Ⅲ-45 時系列 地域のまちづくりに関する意識

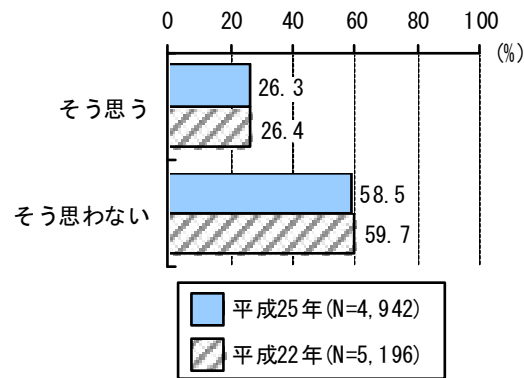
a. 地域でのさまざまな活動が活発である



b. 地域における人と人とのつながりが豊かである

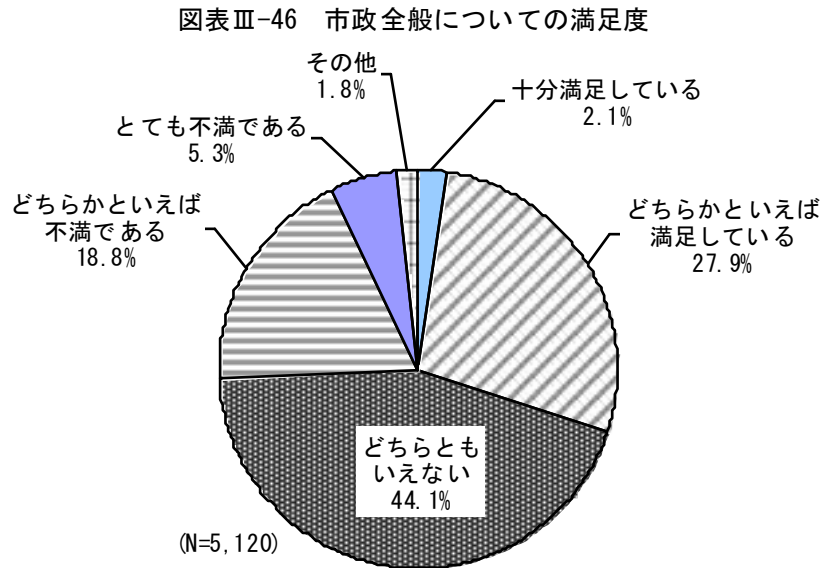


c. 自分が住んでいる区の特徴を知っている



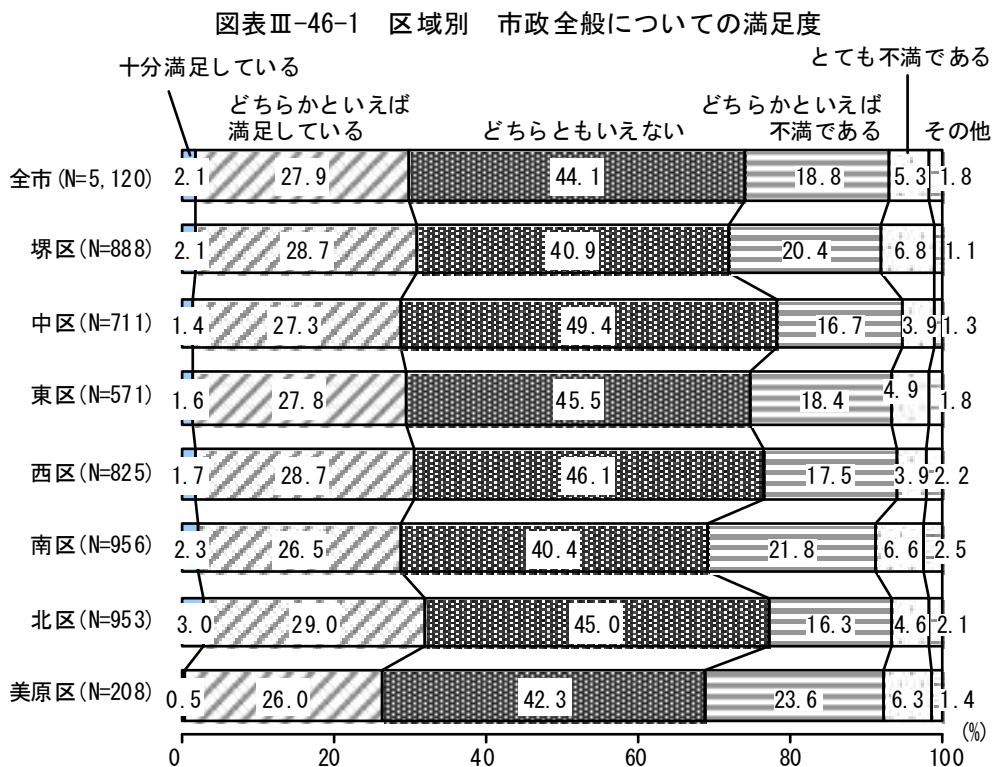
3. 市政全般についての満足度

- ・ 市政全般についての満足度については、「十分満足している」と「どちらかといえば満足している」をあわせた『満足している』意見は30.0%となっている。
- ・ 一方、「どちらかといえば不満である」と「とても不満である」をあわせた『不満である』意見は24.1%である。



【区域別】

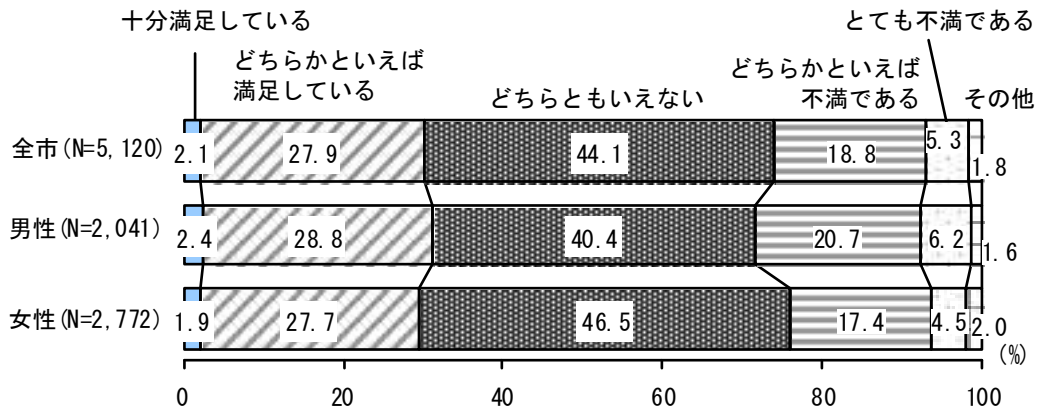
- ・ 区域別でみると、いずれの区域も「どちらともいえない」が4割台で最も多い。
- ・ 『満足している』は、堺区と西区と北区で3割を超えており、北区が32.0%で最も高くなっている。



【性別】

・性別でみると、『満足している』は女性（29.6%）より男性（31.2%）のほうが1.6ポイント高い。

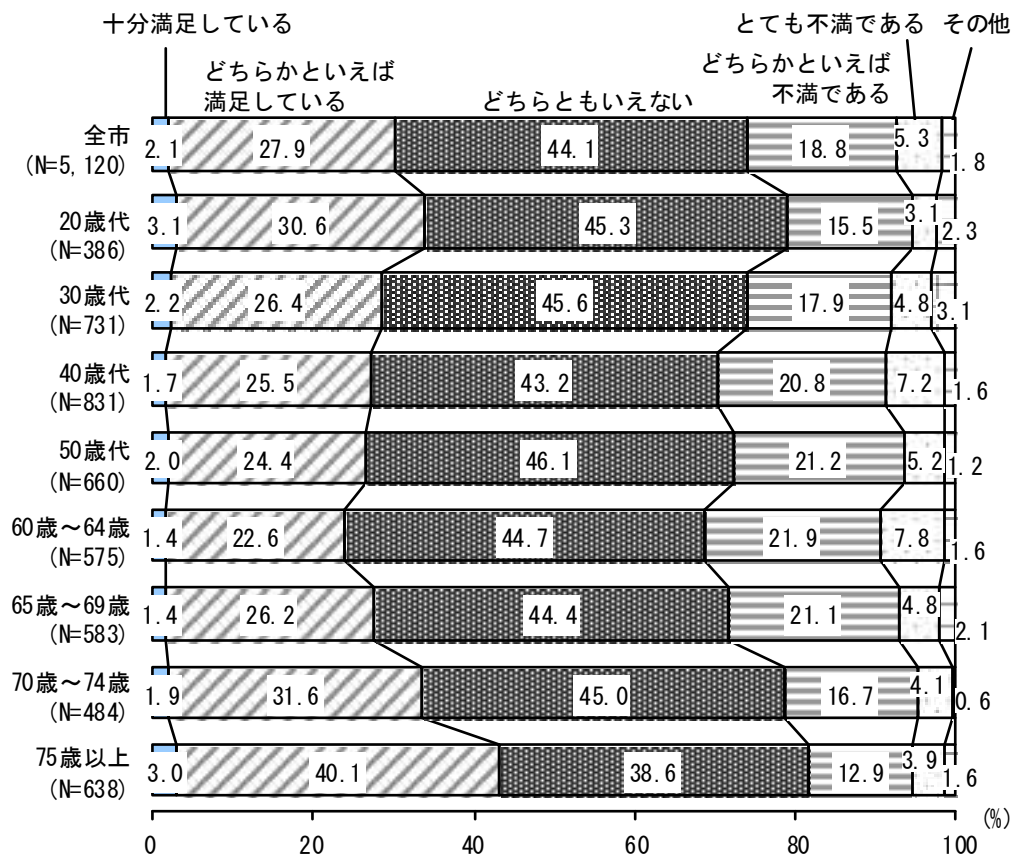
図表Ⅲ-46-2 性別 市政全般についての満足度



【年代別】

・年代別でみると、『満足している』は20歳代（33.7%）から減少し、60歳～64歳（24.0%）で最も低くなり、75歳以上（43.1%）へ向け上昇している。

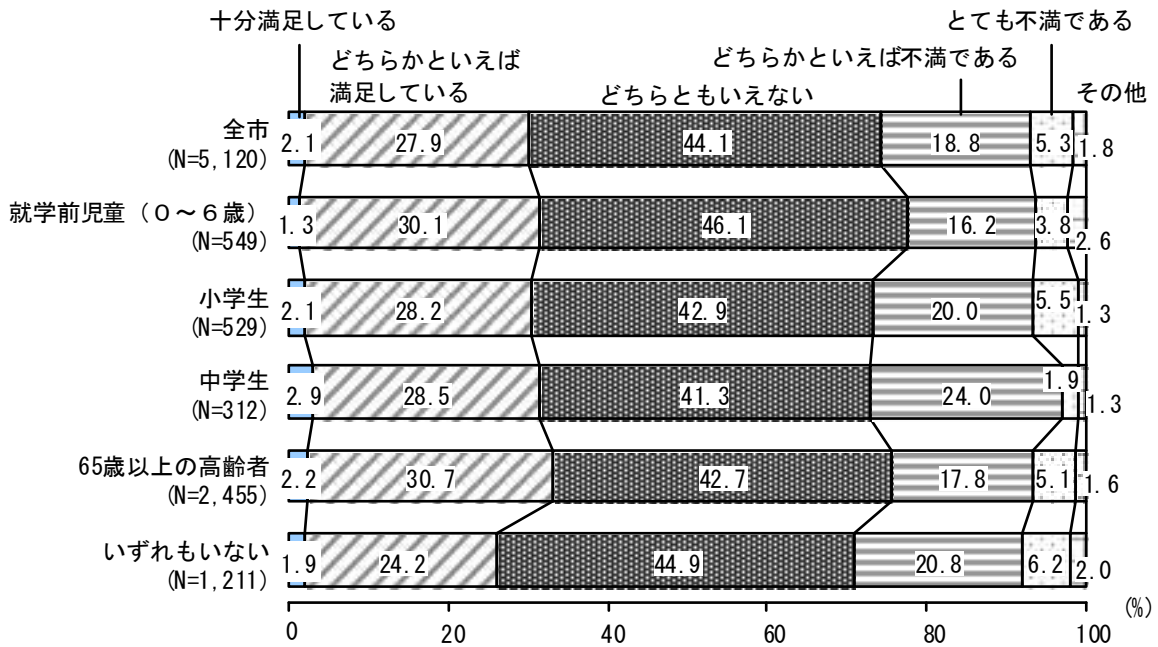
図表Ⅲ-46-3 年代別 市政全般についての満足度



【同居家族別】

- ・同居家族別で見ると、『満足している』は65歳以上の高齢者が32.9%で最も高く、次いで就学前児童（0～6歳）と中学生がともに31.4%で続いている。

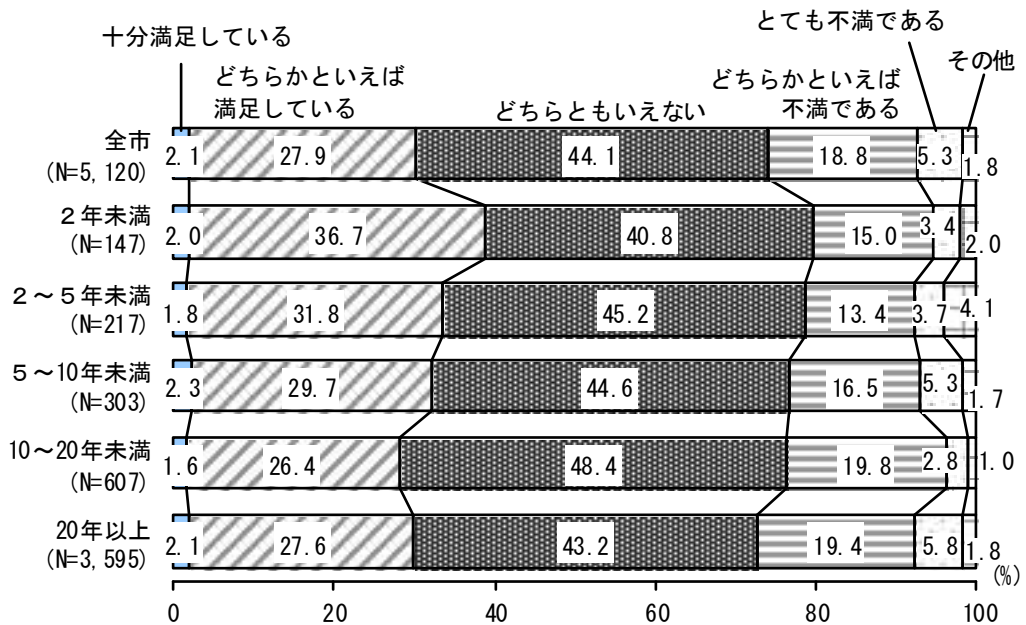
図表Ⅲ-46-4 同居家族別 市政全般についての満足度



【居住年数別】

- ・居住年数別で見ると、『満足している』は2年未満が38.7%で最も割合が高い。
- ・一方、10～20年未満が28.0%で最も低い。

図表Ⅲ-46-5 居住年数別 市政全般についての満足度

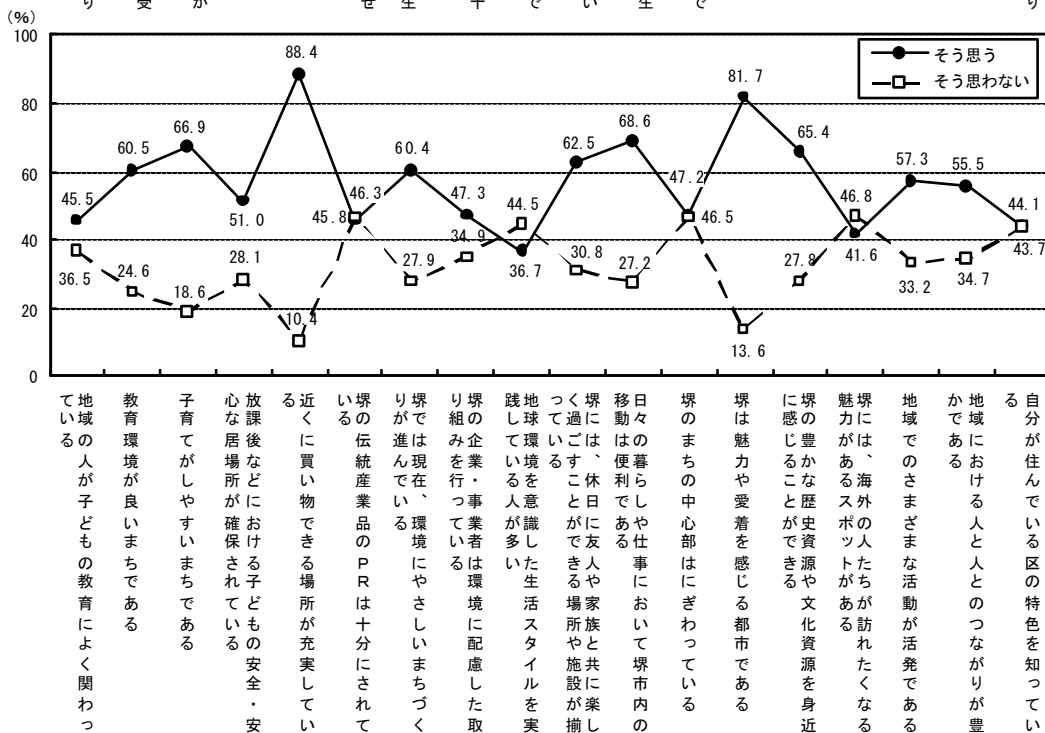
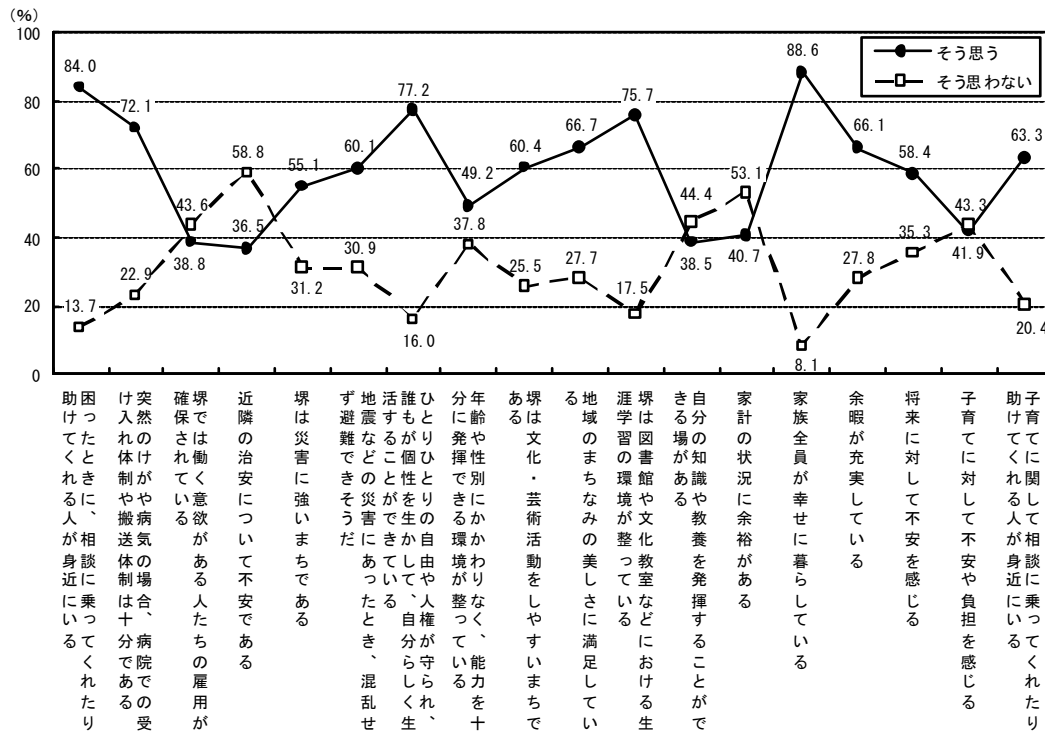


【日常生活に関する意識との関係】

・「満足」と回答した人について、「日常生活に関する意識の項目」に対する「そう思う」、「そう思わない」の割合を比較したところ、多くの項目で「そう思う」が「そう思わない」を上回っており、特に「家族全員が幸せに暮らしている」は8割を超え一番高い。

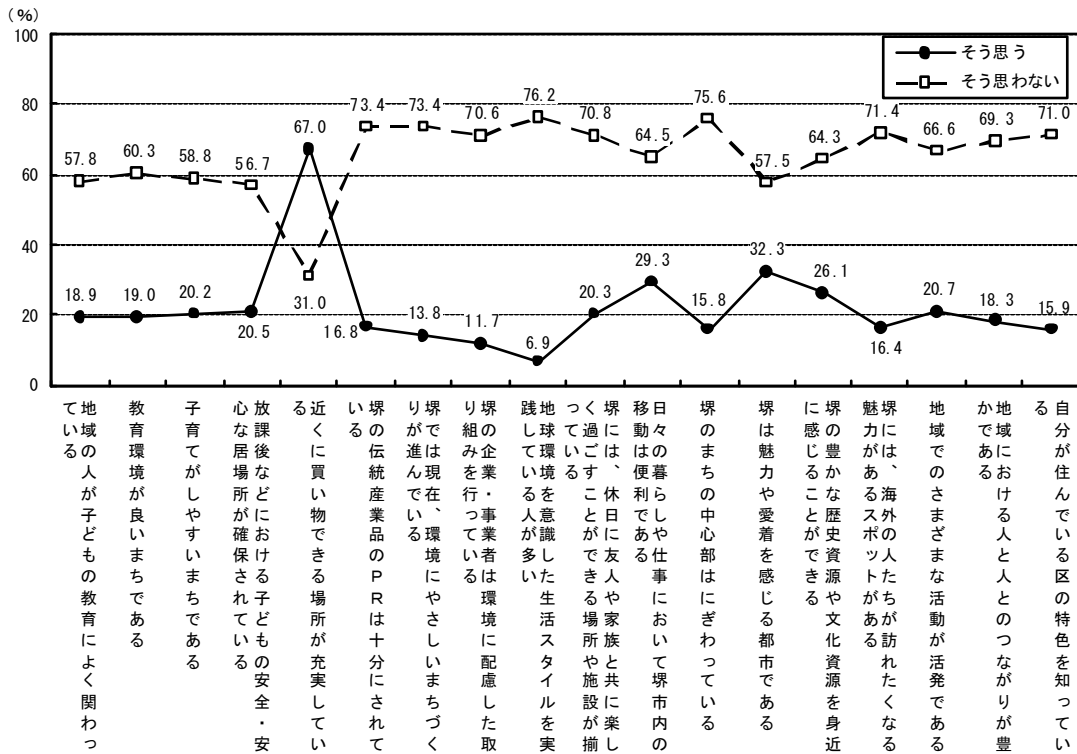
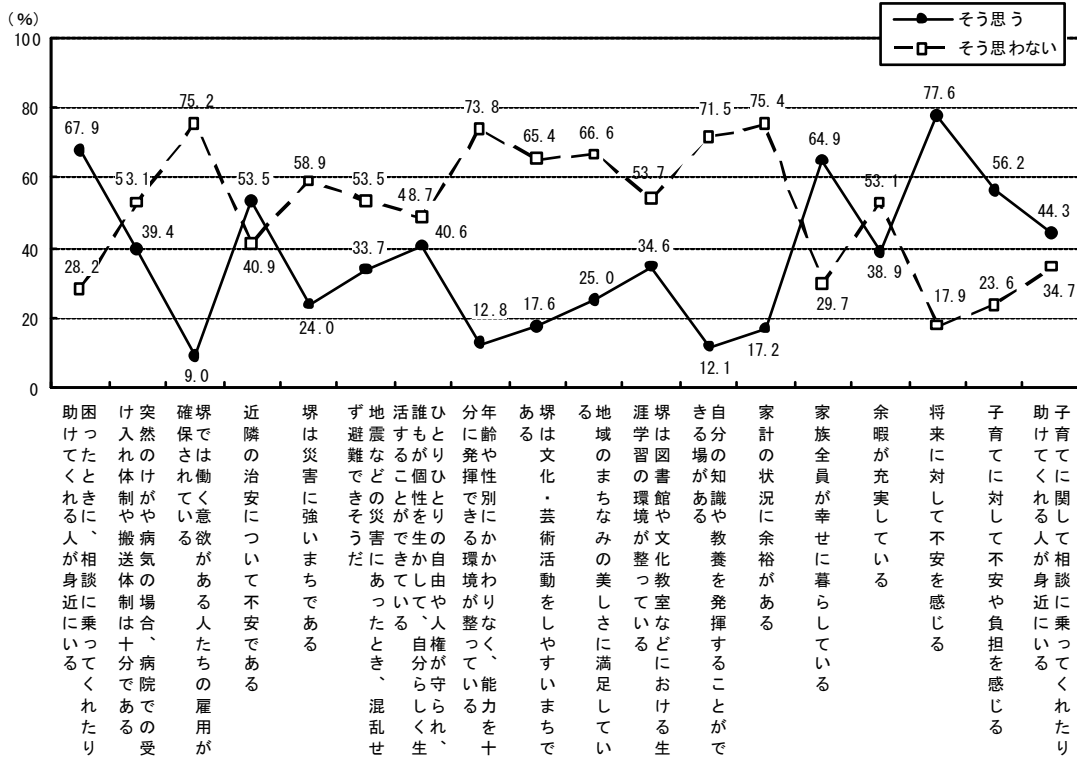
図表Ⅲ-47 市政全般についての満足度別 日常生活に関する意識

〔満足計〕



- ・「不満」と回答した人について、「日常生活に関する意識の項目」に対する「そう思う」、「そう思わない」の割合を比較したところ、多くの項目で「そう思わない」が「そう思う」を上回っている。
- ・また、「将来に対して不安を感じる」も「そう思う」との回答が7割を超えている。

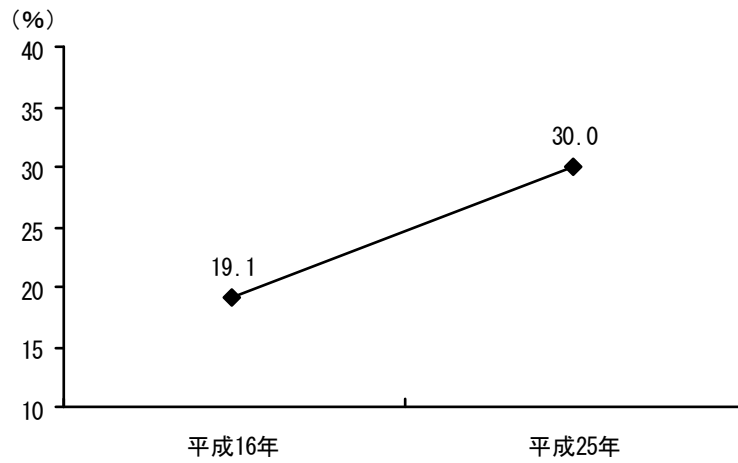
〔不満計〕



【時系列】

・『満足している』を時系列で見ると、平成16年の19.1%より10.9ポイント増加している。

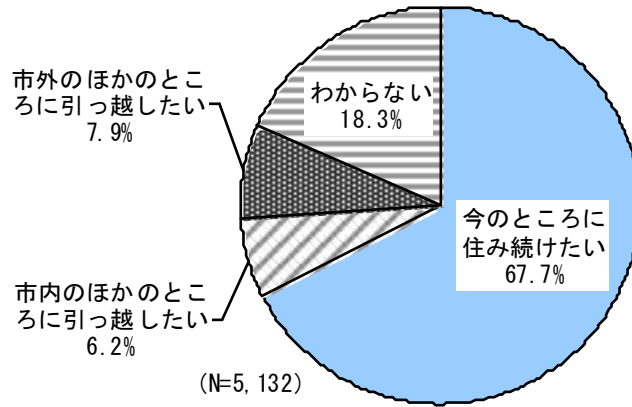
図表Ⅲ-48 時系列 市政全般についての満足度



4. 今後の定住意向

- ・今後の定住意向については、「今のところに住み続けたい」と「市内のほかのところに引っ越したい」を合計した「堺市内に住み続けたい」割合が7割を超えている。

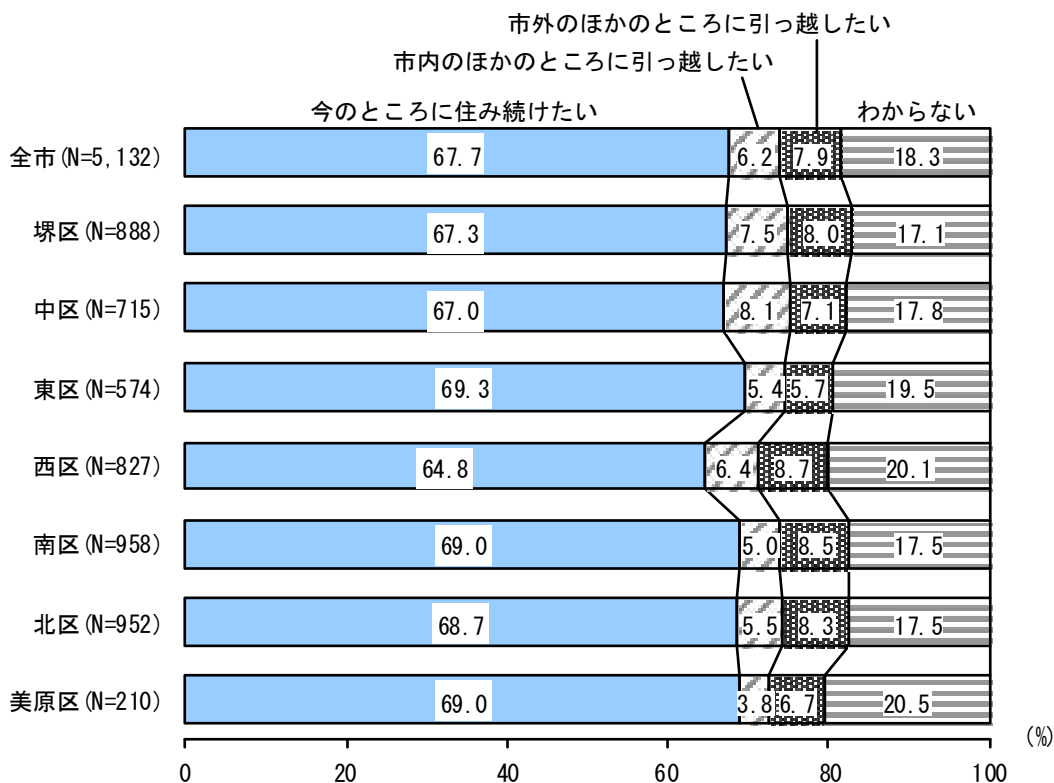
図表Ⅲ-49 今後の定住意向



【区域別】

- ・区域別でみると、いずれの区域も「今のところに住み続けたい」が高く、東区が69.3%で最も高い。
- ・「市内のほかのところに引っ越したい」は中区が8.1%で最も高く、次いで堺区が7.5%となっている。
- ・一方、「市外のほかのところに引っ越したい」は、西区が8.7%で最も高い。

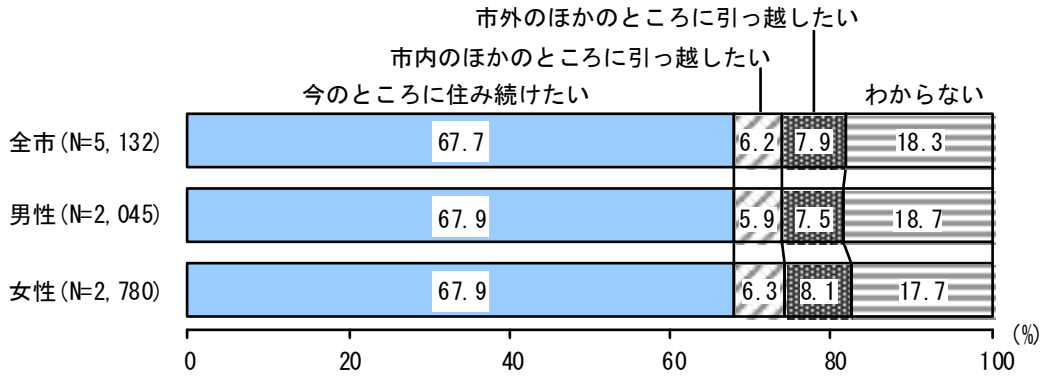
図表Ⅲ-49-1 区域別 今後の定住意向



【性別】

- ・性別でみると、男女で大きな差はみられない。

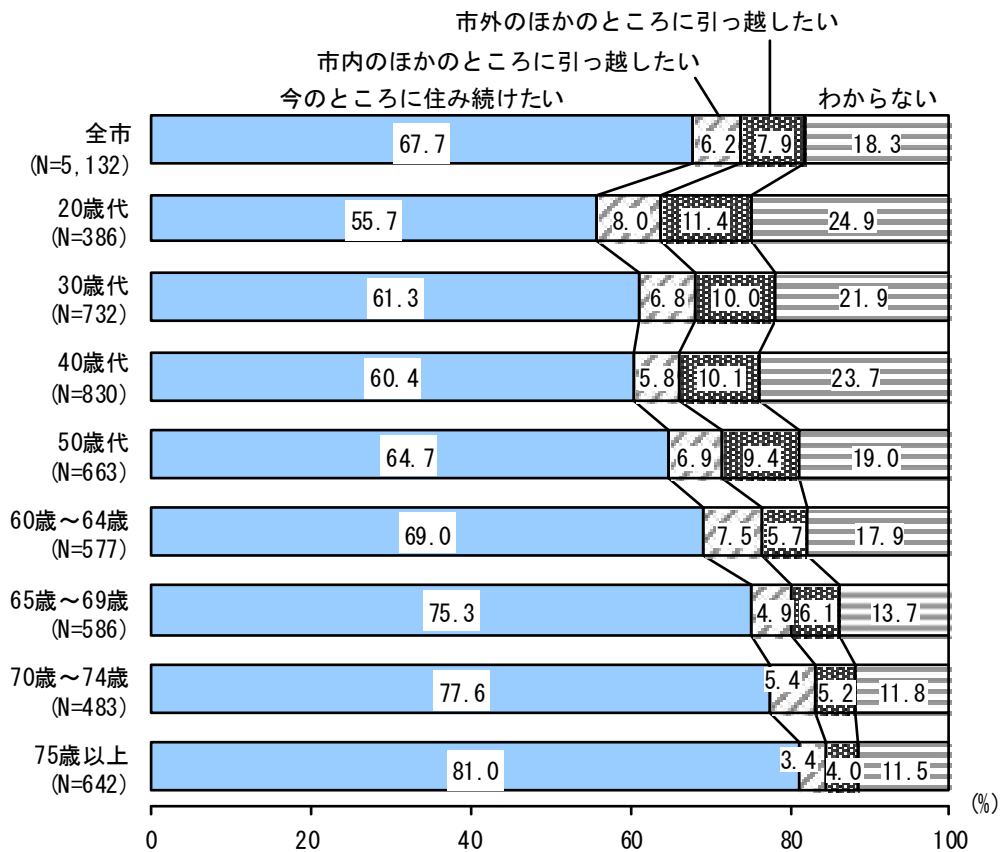
図表Ⅲ-49-2 性別 今後の定住意向



【年代別】

- ・年代別でみると、「今のところに住み続けたい」は高齢になるほど割合が高く、75歳以上で81.0%と最も高くなっている。
- ・一方、「市外のほかのところに引っ越したい」は、20歳代が11.4%で最も高い。

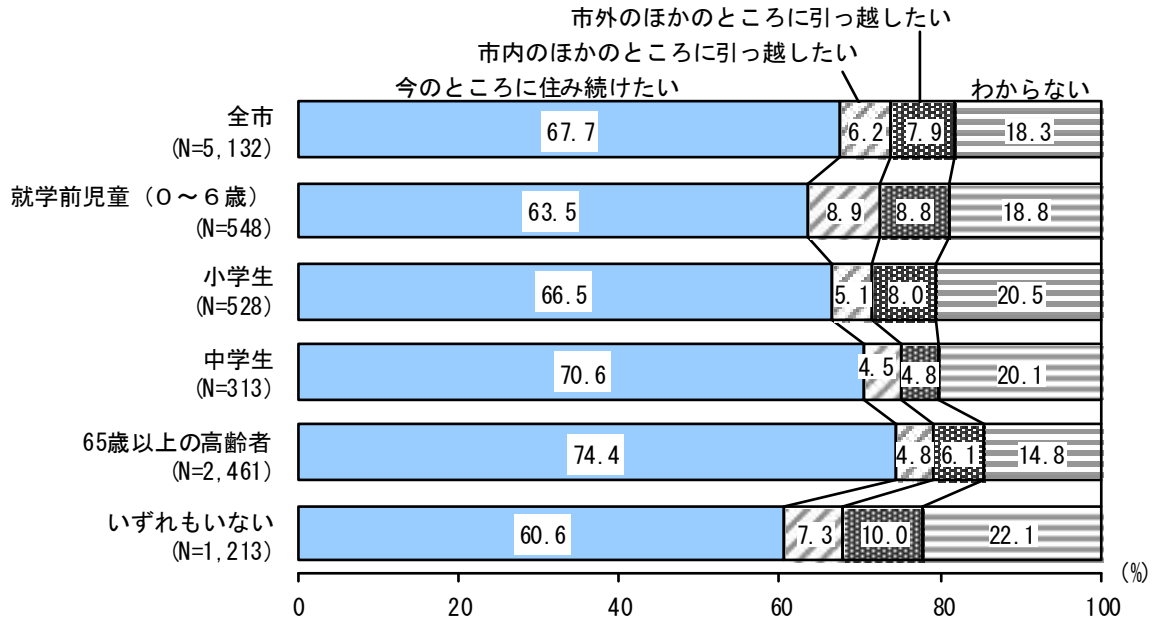
図表Ⅲ-49-3 年代別 今後の定住意向



【同居家族別】

- ・同居家族別で見ると、「今のところに住み続けたい」は65歳以上の高齢者が74.4%で最も高く、次いで中学生が70.6%となっている。
- ・一方、「市外のほかのところに引っ越したい」はいずれもないが10.0%で最も高い。

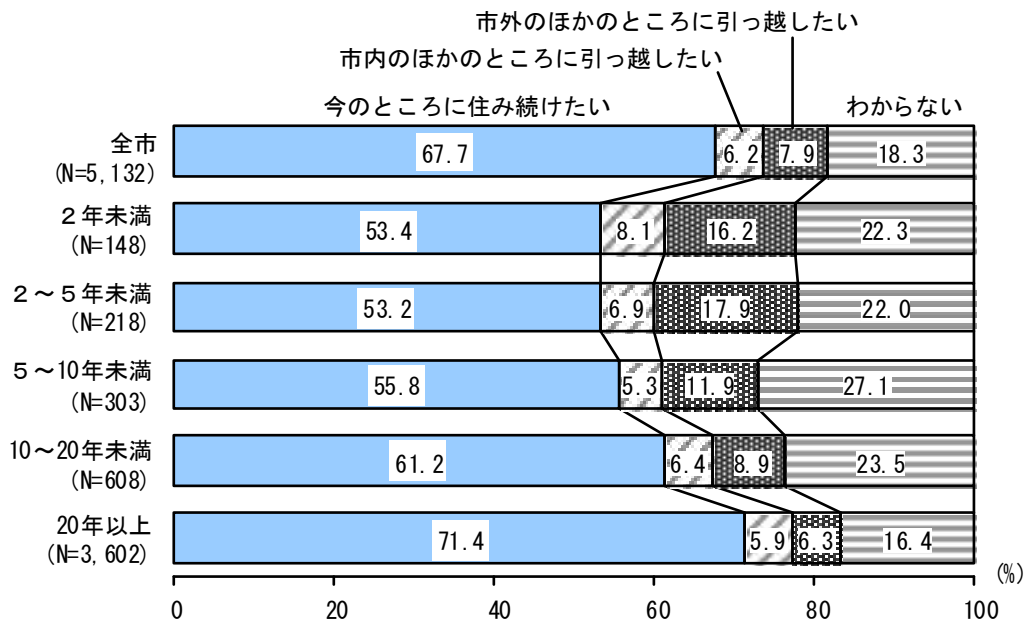
図表Ⅲ-49-4 同居家族別 今後の定住意向



【居住年数別】

- ・居住年数別で見ると、「今のところに住み続けたい」は、おおよそ居住年数が高いほど割合が高い傾向にあり、20年以上が71.4%で最も高い。
- ・一方、「市外のほかのところに引っ越したい」は2~5年未満が17.9%で最も高く、次いで2年未満が16.2%となっている。

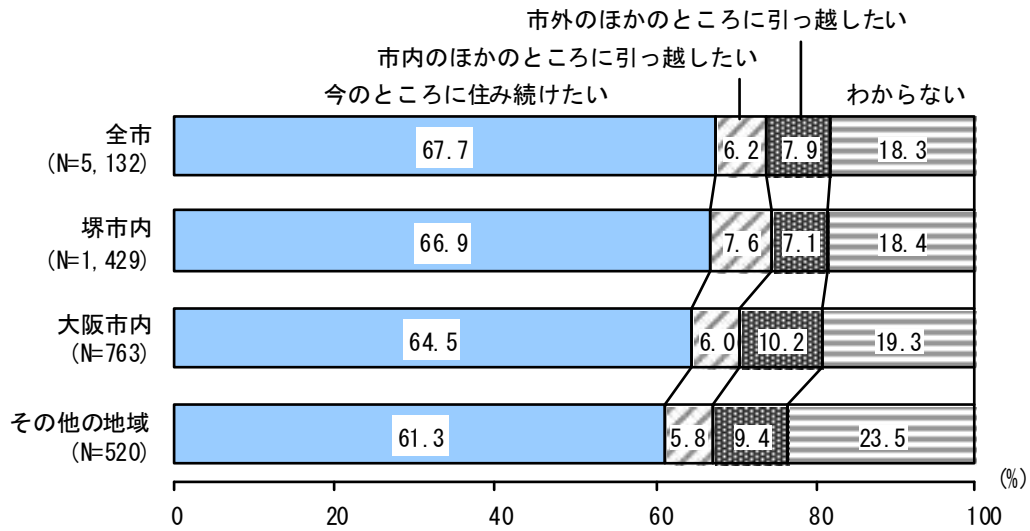
図表Ⅲ-49-5 居住年数別 今後の定住意向



【勤務地・通学地別】

・勤務地・通学地別でみると、「今のところに住み続けたい」は、堺市内が66.9%で最も高く、次いで大阪市内が64.5%となっている。

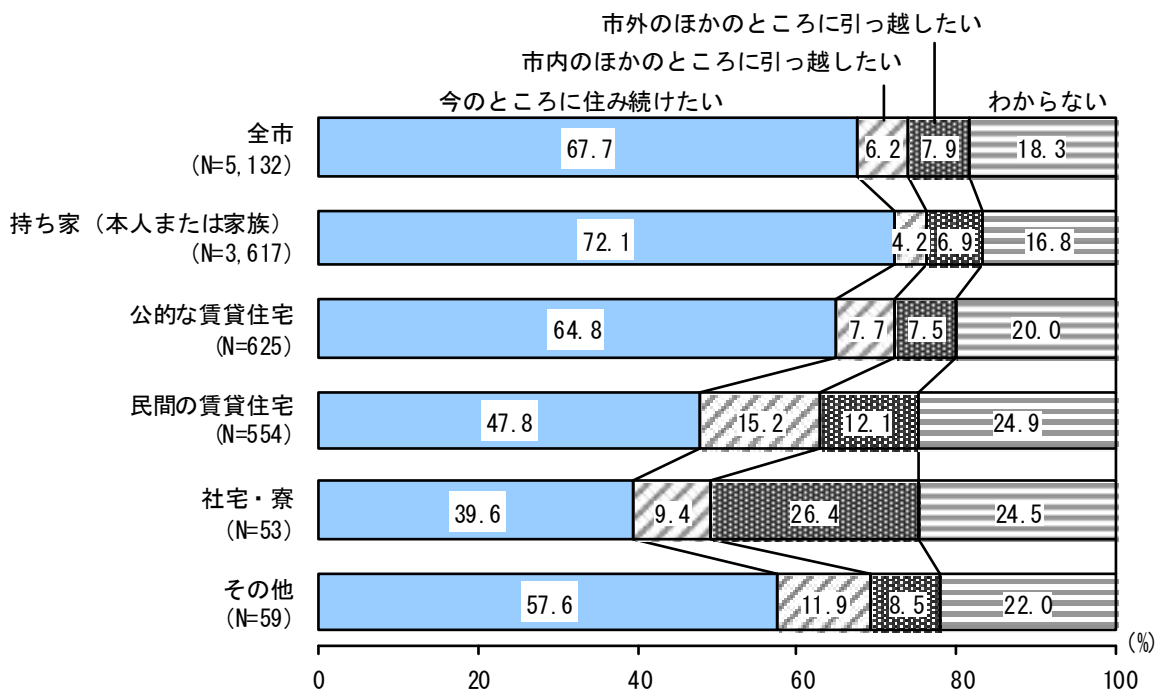
図表Ⅲ-49-6 勤務地・通学地別 今後の定住意向



【住宅形態別】

・住宅形態別でみると、「今のところに住み続けたい」は、持ち家（本人または家族）が72.1%で最も高い。

図表Ⅲ-49-7 住宅形態別 今後の定住意向

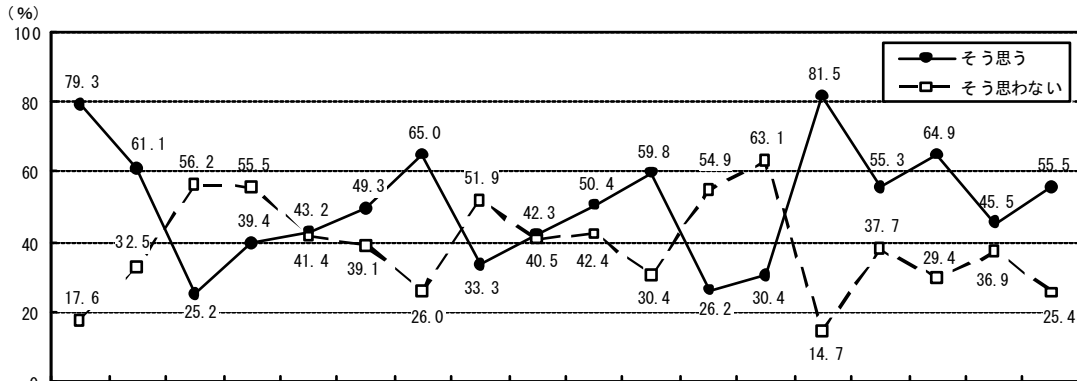


【日常生活に関する意識との関係】

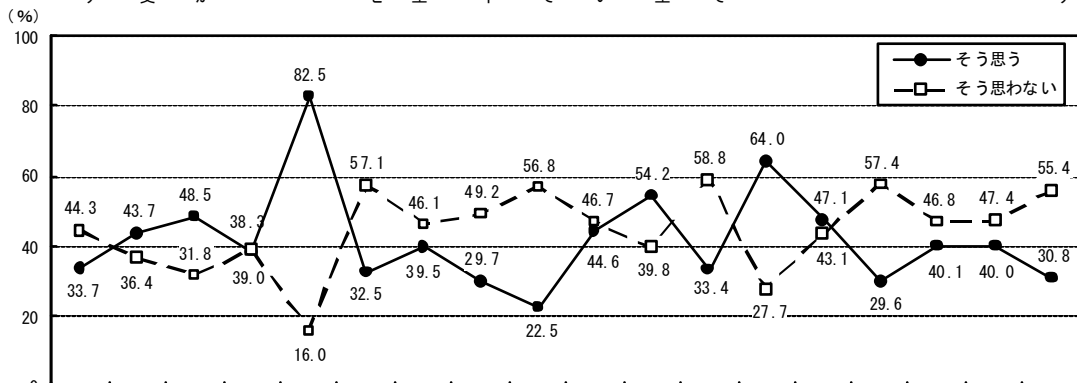
- ・「堺市内に住み続けたい」と回答した人について、「日常生活に関する意識の項目」に対する「そう思う」、「そう思わない」の割合を比較したところ、全体的にばらついている状態にある。
- ・個別項目でみていくと、「そう思う」は、「家族全員が幸せに暮らしている」と「近くに買い物ができる場所が充実している」が8割を超えている。

図表Ⅲ-50 今後の定住意向別 日常生活に関する意識

〔堺市内に住み続けたい〕



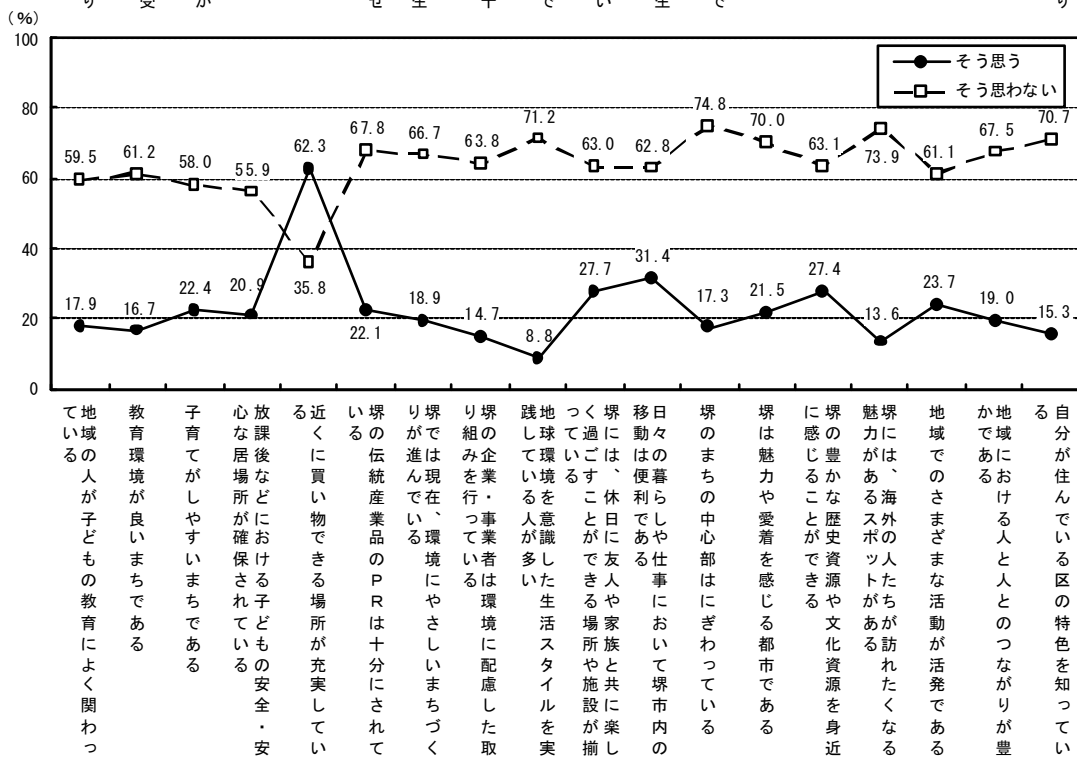
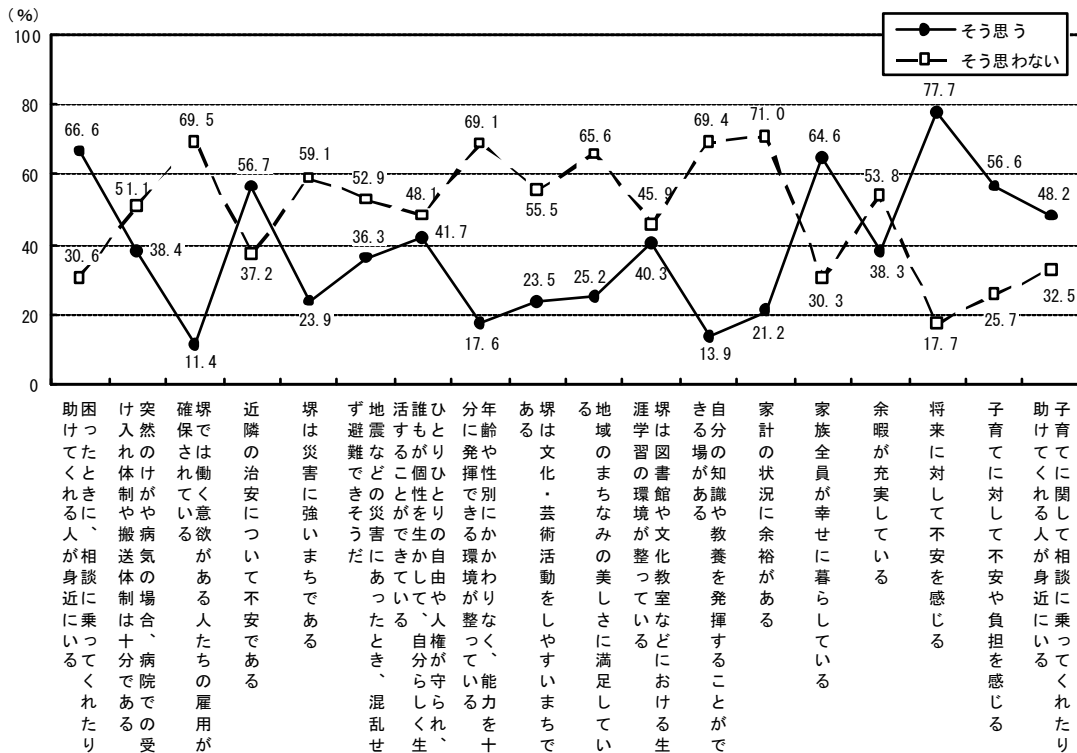
子育てに関して相談に乗ってくれたり助けてくれる人が身近にいる
 子育てに対して不安や負担を感じる
 将来に対して不安を感じる
 余暇が充実している
 家族全員が幸せに暮らしている
 家計の状況に余裕がある
 自分の知識や教養を発揮することができる場がある
 堺は図書館や文化教室などにおける生涯学習の環境が整っている
 地域のまちなみの美しさに満足している
 堺は文化・芸術活動をしやすいまちである
 年齢や性別にかかわらず、能力を十分に発揮できる環境が整っている
 ひとりひとりの自由や人権が守られ、誰もが個性を生かしている
 活する個性ができていて、自分らしく生活することができている
 地震などの災害があったとき、混乱せず避難できそう
 堺は災害に強いまちである
 近隣の治安について不安である
 堺では働く意欲がある人たちの雇用が確保されている
 突然のけがや病気の時、病院での受け入れ体制や搬送体制は十分である
 困ったときに、相談に乗ってくれたり助けてくれる人が身近にいたり



自分が住んでいる区の特徴を知っている
 地域における人と人のつながりが豊かである
 地域でのさまざまな活動が発見できる
 魅力がある、海外的な人が訪れたいくなる
 堺の豊かな歴史資源や文化資源を身近に感じることができる
 堺は魅力や愛着を感じる都市である
 堺のまちなみの中心部はにぎわっている
 日々の暮らしや仕事において堺市内の移動は、休日に友人や家族と共に楽しむことが出来る場所や施設が充実している
 地球環境を意識した生活スタイルを実践している人が多い
 堺の企業・事業者は環境に配慮した取り組みを行っている
 堺では現在、環境にやさしいまちづくりが進んでいる
 堺の伝統産業品のPRは十分にされている
 近くに買い物できる場所が充実している
 いる
 近くに買い物できる場所が充実している
 心な居場所が確保されている
 子育てがしやすいまちである
 教育環境が良いまちである
 地域の人が子どもの教育によく関わっている

- ・「市外に引っ越したい」と回答した人について、「日常生活に関する意識の項目」に対する「そう思う」、「そう思わない」の割合を比較したところ、多くの項目で「そう思わない」が「そう思う」を上回っており、特に「そう思わない」は「家計の状況に余裕がある」と「地球環境を意識した生活スタイルを実践している人が多い」、「堺のまちの中心部はにぎわっている」、「堺は魅力や愛着を感じる都市である」、「堺には、海外の人たちが訪れたい魅力があるスポットがある」、「自分が住んでいる区の特徴を知っている」の回答が7割を超えている。
- ・また、「将来に対して不安を感じる」も「そう思う」との回答が7割を超えている。

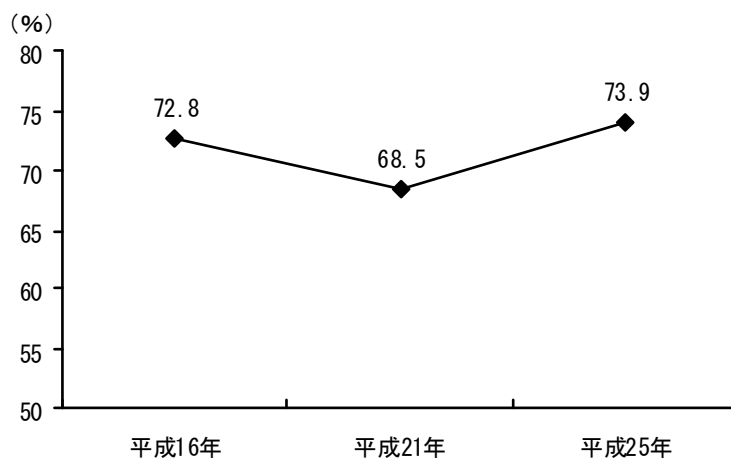
〔市外に引っ越したい〕



【時系列】

・「今のところに住み続けたい」と「市内のほかのところに引っ越したい」を合計した堺市内の居留意向を時系列で見ると、7割前後で推移しており、前々回調査（平成21年）の68.5%より5.4ポイント増加している。

図表Ⅲ-51 時系列 堺市内の居留意向



IV. 調査の精度

本調査は標本調査であるため、ここで得た調査結果から母集団の意識を推定している。調査の精度をみるため、5%区切りの主要な測定値について、信頼区間1/2幅を算出すると以下の図表のとおりである。

$$1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{P(100-P)}{n}}$$

P：標本の測定値（%）

N：母集団数（平成25年5月末の20歳以上の人口）

n：有効回答数

（注）母集団数（N）は、平成25年5月末の住民基本台帳（日本人、外国人ともに含む）における20歳以上人口の合計。

測定値 (%)		1/2 幅							
		全市	堺区	中区	東区	西区	南区	北区	美原区
50%		1.33	3.21	3.56	4.00	3.33	3.08	3.08	6.49
45%	55%	1.33	3.20	3.54	3.98	3.31	3.07	3.07	6.45
40%	60%	1.31	3.15	3.48	3.92	3.26	3.02	3.02	6.36
35%	65%	1.27	3.06	3.39	3.82	3.17	2.94	2.94	6.19
30%	70%	1.22	2.94	3.26	3.67	3.05	2.83	2.83	5.94
25%	75%	1.15	2.78	3.08	3.46	2.88	2.67	2.67	5.62
20%	80%	1.07	2.57	2.84	3.20	2.66	2.47	2.47	5.19
15%	85%	0.95	2.29	2.54	2.86	2.38	2.20	2.20	4.63
10%	90%	0.80	1.93	2.13	2.40	2.00	1.85	1.85	3.89
5%	95%	0.58	1.40	1.55	1.74	1.45	1.34	1.34	2.83

（参考）たとえば、問1-1 日常生活の主要な活動・行動のうち『通勤・通学を含め、ほぼ毎日外出している』の「当てはまる」が72.9%となっている。この表により、標本測定値75%の場合の信頼区間の1/2幅は全市で1.15である。このことは、調査を100回行えば、95回までは72.9±1.15%の人が「当てはまる」と答えると推定されることを意味する。

平成25年度市民意識調査報告書

平成26年3月

編集：堺市市長公室企画部

発行：堺市

堺市行政資料番号：1-C 1-13-0303